

はじめに

豊中市では、人権に根ざした文化に満ちたまちの実現をめざして、一人ひとりの個性が大切にされ、共に生きることができる開かれた社会づくりに取り組んでいます。こうした中で、女性政策基本方針等の策定やとよなか男女共同参画推進センターすてっぷの開設など、男女共同参画の推進に関する施策を積極的に進めて参りましたが、職域や地域などにおける活動への参画に男女間の格差が生じているのが現状であります。

このため、平成 15 年（2003 年）10 月「豊中市男女共同参画推進条例」を制定するとともに、平成 16 年（2004 年）3 月にこの条例に基づく「男女共同参画計画」を策定し、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野における活動に対等に参画することができる男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいます。

このアンケート調査は、男女共同参画の推進に対する市民の意識を明らかにすると共に、今後の施策の基礎資料を得るために実施したものであり、この調査結果をもとに、より一層の男女共同参画施策を進めてまいります。

最後に、この調査の実施にあたり、ご協力いただきました市民や豊中市男女共同参画審議会委員の皆さまに厚くお礼申し上げますとともに、男女共同参画社会の実現に向け、市民の皆さまの一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

平成 17 年（2005 年）3 月

豊中市長 一色 貞輝

1. 調査の目的

市民の働く場や家庭生活における意識及び実態や、日常生活、教育、人権など男女共同参画の推進に対する意識を明らかにし、今後の施策を推進するための基礎資料とする。

2. 調査の設計

(1) 調査対象

住民基本台帳から無作為抽出した満 20 歳以上の男女市民各 1,500 人。(調査基準日平成 16 年 9 月 6 日)

(2) 調査方法

対象者に調査票を郵送で配付し、郵送で回収した。なお途中、はがきによる督促を 1 回実施した。

(3) 調査期間

平成 16 年 (2004 年) 10 月 4 日から 10 月 20 日

(4) 調査内容

- ・日常生活や社会全般に関する見方・考えについて
- ・仕事について
- ・家庭生活について
- ・子どもの教育について
- ・男女の人権について
- ・男女共同参画社会の実現について

3. 回収状況

配付数	回収数	有効回収数				有効回収率
		女性	男性	その他	不明	
3,000 票	1,200 票	1,195 票				39.8%
		685 票	492 票	0 票	18 票	
		57.3%	41.2%	0.0%	1.5%	

4. 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（%）を表している。1人の対象者に2以上の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は100.0%を超える。
- (2) 百分比（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比（%）は、全て各分類項目の該当対象数を100.0%として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「N」を100.0%として表した。
- (5) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明（無回答）」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- (6) 表の単位は、2段の場合、上段が実数、下段が構成比（%）、1段の場合、構成比（%）である。
- (7) 表中の網かけは最も高い割合を示している。

5. 標本誤差

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりである。

【標本誤差の1/2幅を求める公式】（信頼度95%の場合）

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし

N = 母集団数 女性：164,048

男性：150,444

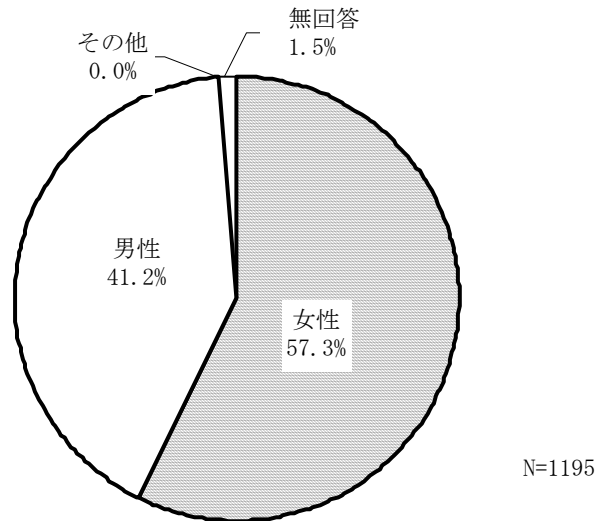
n = 標本数 女性：685

男性：492

P = 標本測定値（回答率：%）

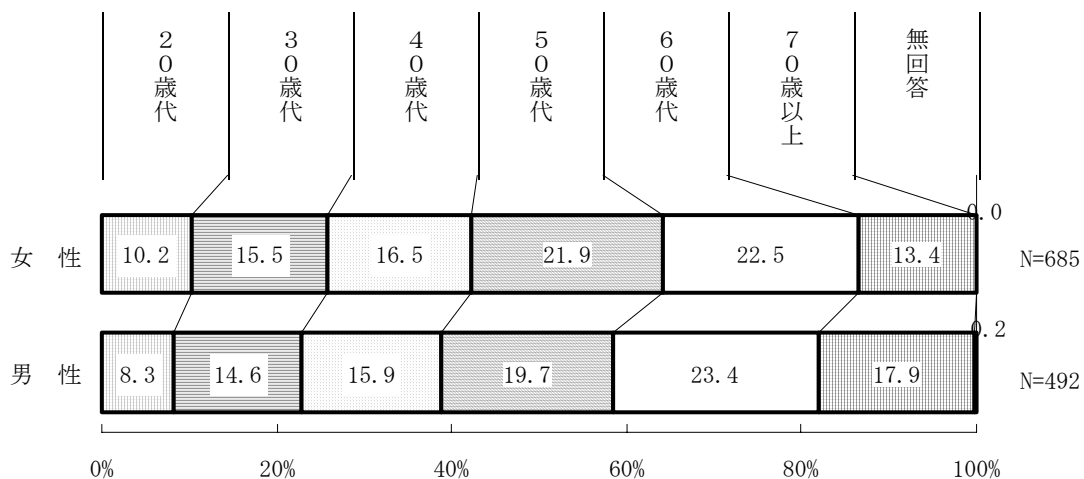
P (%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±3.7	±4.4
45%または55%	±3.7	±4.4
40%または60%	±3.7	±4.3
35%または65%	±3.6	±4.2
30%または70%	±3.4	±4.0
25%または75%	±3.2	±3.8
20%または80%	±3.0	±3.5
15%または85%	±2.7	±3.2
10%または90%	±2.2	±2.6
5%または95%	±1.6	±1.9

1. 性別



回答者の性別は、「女性」57.3%、「男性」41.2%で女性が5割強である。

2. 年代



回答者の年代は、男女ともに60歳代の割合が最も高い。女性では、50歳代と60歳代が2割を超え、次いで40歳代、30歳代がそれぞれ16.5%、15.5%の順となっている。男性では60歳代、50歳代に次いで、70歳以上が17.9%で続いている。

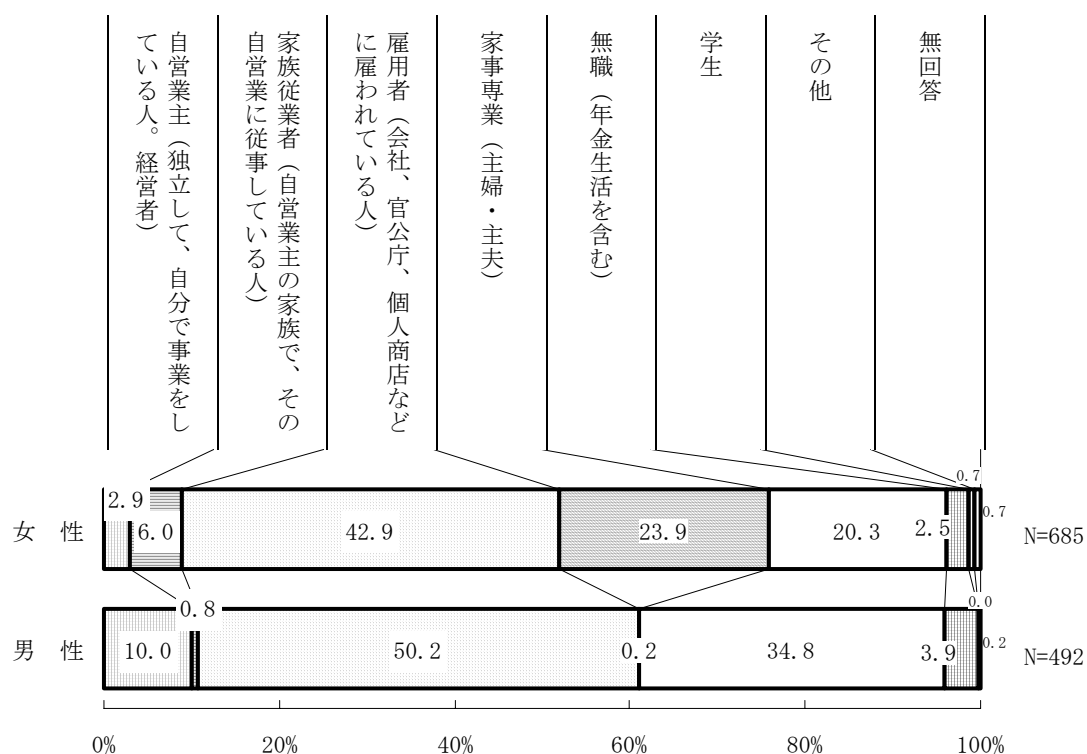
男性は女性と比べて、50歳代以下の割合が低く、60歳代以上の割合が高い。

本市の母集団と比較すると、本調査では女性で40歳代～60歳代の占める割合が母集団よりも高く、男性で60歳代、70歳以上の占める割合が高い。男女とも20歳代、30歳代の割合が母集団よりも低い。調査の結果では、全体を対象とした場合、女性の40～60歳代、男性の60歳代以上の意識がより多く反映されていると考えられる。

【母集団の性・年齢階級別人口構成比】(2004年(平成16年)9月6日現在)

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
女性	164,048	14.9	19.8	14.8	17.8	16.9	15.8
男性	150,444	16.3	21.1	16.0	18.6	16.4	11.7

3. 職業



【性別】

女性の就業状況を見ると、「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」が4割を超え、「自営業主（独立して、自分で事業をしている人。経営者）」と「家族従業者（自営業主の家族で、その自営業に従事している人）」などを含めると、就業している女性は51.8%となっている。次に「家事専業（主婦）」が23.9%、「無職（年金生活を含む）」が20.3%の順となっている。

男性では、「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」が半数を占め、「無職（年金生活を含む）」が34.8%、「自営業主（独立して、自分で事業をしている人。経営者）」が10.0%となっている。

【性・年代別】

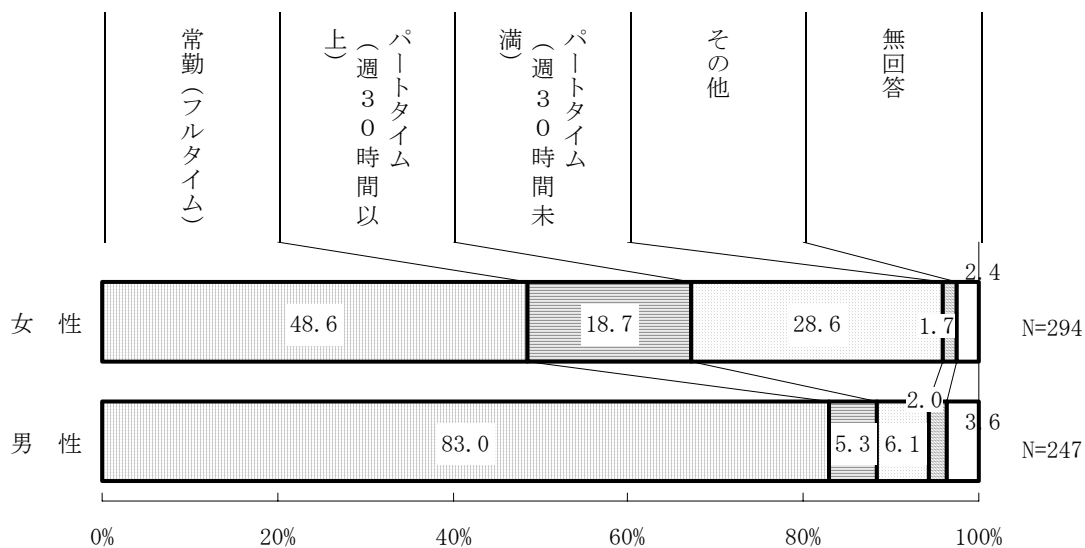
女性は、20歳代から40歳代では雇用者が65%程度であり、男性では20歳代は雇用者と学生が同数、30歳代と40歳代は雇用者が8割前後、50歳代で約7割である。

男女とも60歳代以上は無職の割合が最も高い。

【性・年代別】

	全体	自営業主	家族従業者	雇用者	家事専業	無職	学生	その他	無回答
全体	1195 100.0	69 5.8	45 3.8	543 45.4	165 13.8	313 26.2	36 3.0	5 0.4	19 1.6
女性 20歳代	70 100.0	1 1.4	1 1.4	47 67.1	2 2.9	3 4.3	15 21.4	1 1.4	-
女性 30歳代	106 100.0	2 1.9	6 5.7	68 64.2	21 19.8	8 7.5	1 0.9	-	-
女性 40歳代	113 100.0	3 2.7	5 4.4	74 65.5	29 25.7	1 0.9	1 0.9	-	-
女性 50歳代	150 100.0	5 3.3	15 10.0	74 49.3	47 31.3	7 4.7	-	2 1.3	-
女性 60歳代	154 100.0	6 3.9	11 7.1	30 19.5	45 29.2	59 38.3	-	2 1.3	1 0.6
女性 70歳代以上	92 100.0	3 3.3	3 3.3	1 1.1	20 21.7	61 66.3	-	-	4 4.3
男性 20歳代	41 100.0	2 4.9	1 2.4	17 41.5	-	4 9.8	17 41.5	-	-
男性 30歳代	72 100.0	3 4.2	-	60 83.3	-	7 9.7	2 2.8	-	-
男性 40歳代	78 100.0	10 12.8	1 1.3	60 76.9	-	7 9.0	-	-	-
男性 50歳代	97 100.0	21 21.6	-	67 69.1	-	9 9.3	-	-	-
男性 60歳代	115 100.0	11 9.6	2 1.7	38 33.0	-	64 55.7	-	-	-
男性 70歳代以上	88 100.0	2 2.3	-	5 5.7	1 1.1	79 89.8	-	-	1 1.1

4. 雇用状態



【性別】

雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）と回答した人の雇用状態をみると、男女ともに、「常勤（フルタイム）」が最も高い割合を占めるが、女性（48.6%）は男性（83.0%）と比べると34.4ポイント低い。女性では「パートタイム（週30時間未満）」（28.6%）と「パートタイム（週30時間以上）」（18.7%）を合わせて47.3%で「常勤（フルタイム）」とほぼ同じ割合である。

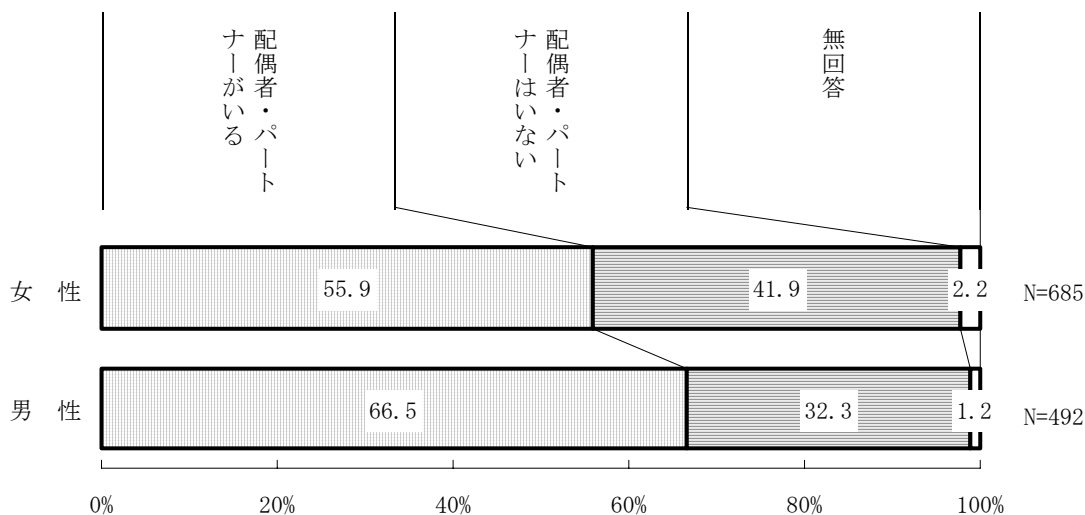
【性・年代別】

女性は、20歳代、30歳代では7割程度がフルタイムであるが、40歳代、50歳代になるとパートタイムが6割になる。男性は30歳代から50歳代まではフルタイムが8～9割を占める。

【性・年代別】

	全体	常勤 (フルタイム)	パートタイム (30時間以上)	パートタイム (30時間未満)	その他	無回答
全体	543 100.0	349 64.3	68 12.5	100 18.4	10 1.8	16 2.9
女性 20歳代	47 100.0	33 70.2	6 12.8	5 10.6	2 4.3	1 2.1
女性 30歳代	68 100.0	46 67.6	11 16.2	10 14.7	-	1 1.5
女性 40歳代	74 100.0	28 37.8	16 21.6	30 40.5	-	-
女性 50歳代	74 100.0	25 33.8	18 24.3	26 35.1	2 2.7	3 4.1
女性 60歳代	30 100.0	11 36.7	4 13.3	12 40.0	1 3.3	2 6.7
女性 70歳代以上	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-
男性 20歳代	17 100.0	12 70.6	-	3 17.6	-	2 11.8
男性 30歳代	60 100.0	50 83.3	3 5.0	4 6.7	2 3.3	1 1.7
男性 40歳代	60 100.0	54 90.0	3 5.0	-	1 1.7	2 3.3
男性 50歳代	67 100.0	63 94.0	2 3.0	-	-	2 3.0
男性 60歳代	38 100.0	22 57.9	5 13.2	7 18.4	2 5.3	2 5.3
男性 70歳代以上	5 100.0	4 80.0	-	1 20.0	-	-

5. 配偶者・パートナーの有無



【性別】

女性では「配偶者・パートナーがいる」が55.9%、「配偶者・パートナーはいない」が41.9%である。男性では、「配偶者・パートナーがいる」が66.5%、「配偶者・パートナーはいない」が32.3%で、女性と比べて「配偶者・パートナーがいる」割合はやや高い。

【性・年代別】

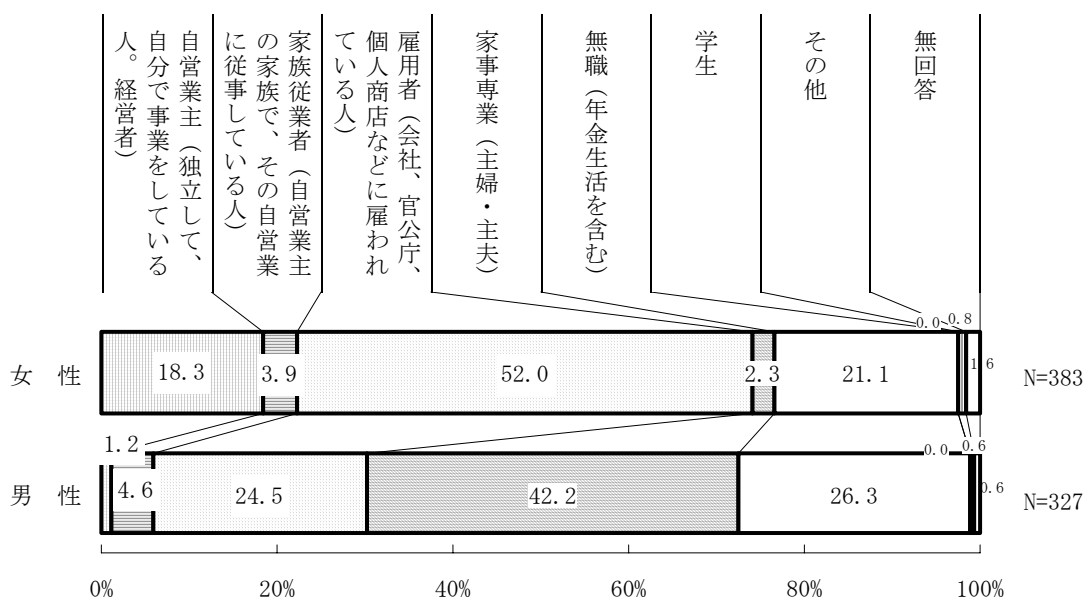
女性は、30歳代は配偶者・パートナーのいる人といない人は同数である。40歳代ではいる人が75.2%で他の年代と比べて最も高く、50歳代以降はいる人の割合が減少している。

男性は、30歳代まではいない人が85%を超えている。60歳代では約9割が、70歳以上でも85.2%に配偶者・パートナーがいる。

【性・年代別】

	全体	いる	いない	無回答
全 体	1195 100.0	718 60.1	448 37.5	29 2.4
女性 20歳代	70 100.0	10 14.3	59 84.3	1 1.4
女性 30歳代	106 100.0	53 50.0	53 50.0	-
女性 40歳代	113 100.0	85 75.2	27 23.9	1 0.9
女性 50歳代	150 100.0	104 69.3	45 30.0	1 0.7
女性 60歳代	154 100.0	98 63.6	54 35.1	2 1.3
女性 70歳代以上	92 100.0	33 35.9	49 53.3	10 10.9
男性 20歳代	41 100.0	1 2.4	38 92.7	2 4.9
男性 30歳代	72 100.0	10 13.9	62 86.1	-
男性 40歳代	78 100.0	56 71.8	22 28.2	-
男性 50歳代	97 100.0	80 82.5	16 16.5	1 1.0
男性 60歳代	115 100.0	104 90.4	10 8.7	1 0.9
男性 70歳代以上	88 100.0	75 85.2	11 12.5	2 2.3

6. 配偶者・パートナーの職業



【性別】

配偶者・パートナーの職業は、女性では「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」の割合が最も高く半数を超える。次いで「無職（年金生活を含む）」（21.1%）、「自営業主（独立して、自分で事業をしている人。経営者）」（18.3%）となっている。男性では「家事専業（主婦）」が約4割で、「無職（年金生活を含む）」（26.3%）、「雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）」（24.5%）と続く。

【性・本人の職業別】

女性本人が雇用者の場合、配偶者・パートナーも雇用者であるのは76.0%だが、男性本人が雇用者の場合は、配偶者・パートナーは家事専業が53.0%、雇用者は40.9%である。

【性・本人の職業別】

女性	全体	配偶者・パートナー								
		自営業主	家族従業者	雇用者	家事専業	無職	学生	その他	無回答	
本人	全体	383	18.3	3.9	52.0	2.3	21.1	-	0.8	1.6
	自営業主	8	12.5	37.5	37.5	-	12.5	-	-	-
	家族従業者	36	75.0	13.9	8.3	-	2.8	-	-	-
	雇用者	146	10.3	2.7	76.0	-	9.6	-	0.7	0.7
	家事専業	149	14.8	2.0	53.0	4.7	23.5	-	0.7	1.3
	無職	39	12.8	-	2.6	5.1	76.9	-	-	2.6
	その他	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-

男性	全体	配偶者・パートナー								
		自営業主	家族従業者	雇用者	家事専業	無職	学生	その他	無回答	
本人	全体	327	1.2	4.6	24.5	42.2	26.3	-	0.6	0.6
	自営業主	41	4.9	36.6	14.6	41.5	-	-	2.4	-
	家族従業者	3	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-
	雇用者	149	0.7	-	40.9	53.0	5.4	-	-	-
	家事専業	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	無職	132	-	-	9.8	31.1	57.6	-	0.8	0.8

※本人の職業で、件数0は省略

【性・年代別】

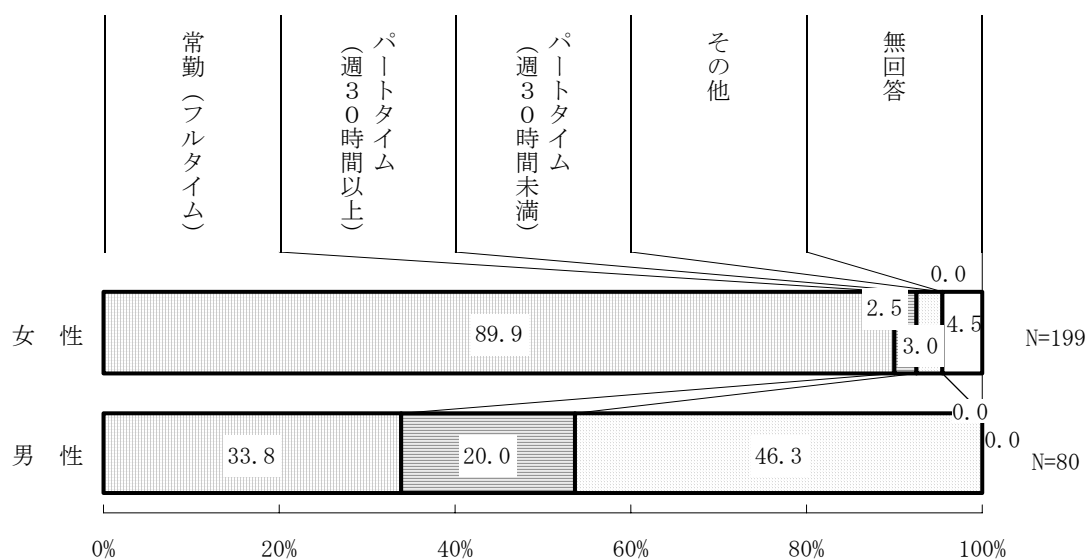
女性の30歳代から50歳代では配偶者・パートナーの職業は6～7割が雇用者である。

男性の40歳代では配偶者・パートナーの職業で5割が雇用者である。

【性・年代別】

	全体	自営業主	家族従業者	雇用者	家事専業	無職	学生	その他	無回答
全体	718	74	30	280	148	168	-	5	13
	100.0	10.3	4.2	39.0	20.6	23.4	-	0.7	1.8
女性 20歳代	10	2	-	8	-	-	-	-	-
	100.0	20.0	-	80.0	-	-	-	-	-
女性 30歳代	53	16	1	36	-	-	-	-	-
	100.0	30.2	1.9	67.9	-	-	-	-	-
女性 40歳代	85	15	3	65	-	1	-	1	-
	100.0	17.6	3.5	76.5	-	1.2	-	1.2	-
女性 50歳代	104	22	4	63	3	10	-	-	2
	100.0	21.2	3.8	60.6	2.9	9.6	-	-	1.9
女性 60歳代	98	13	5	26	4	48	-	2	-
	100.0	13.3	5.1	26.5	4.1	49.0	-	2.0	-
女性 70歳代以上	33	2	2	1	2	22	-	-	4
	100.0	6.1	6.1	3.0	6.1	66.7	-	-	12.1
男性 20歳代	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
男性 30歳代	10	1	1	7	1	-	-	-	-
	100.0	10.0	10.0	70.0	10.0	-	-	-	-
男性 40歳代	56	1	5	28	22	-	-	-	-
	100.0	1.8	8.9	50.0	39.3	-	-	-	-
男性 50歳代	80	-	6	25	45	3	-	1	-
	100.0	-	7.5	31.3	56.3	3.8	-	1.3	-
男性 60歳代	104	2	2	17	48	33	-	1	1
	100.0	1.9	1.9	16.3	46.2	31.7	-	1.0	1.0
男性 70歳代以上	75	-	1	2	22	49	-	-	1
	100.0	-	1.3	2.7	29.3	65.3	-	-	1.3

7. 配偶者・パートナーの雇用状態



【性別】

配偶者・パートナーが雇用者の場合の雇用状態は、女性では「常勤（フルタイム）」が約9割を占める。男性では「パートタイム（週30時間未満）」が46.3%にのぼり、次いで「常勤（フルタイム）」（33.8%）、「パートタイム（週30時間以上）」（20.0%）となっている。

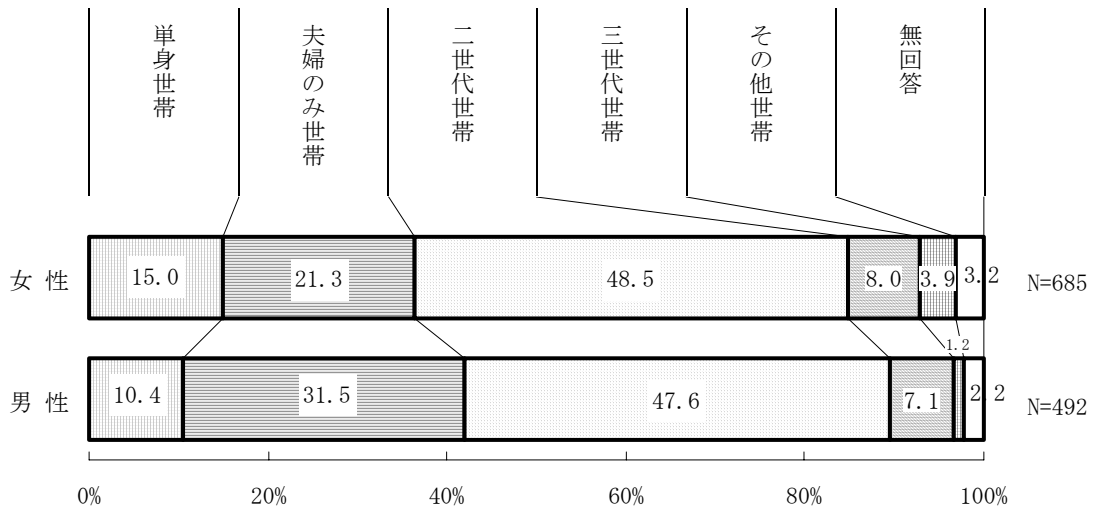
【性・年代別】

女性の30歳代～50歳代では、雇用者である配偶者・パートナーの9割以上がフルタイムであり、男性では、40歳代、50歳代の雇用者である配偶者・パートナーの5割が短時間パートタイムである。

【性・年代別】

	全体	常勤 (フルタイム)	30時間以上パートタイム (週)	30時間未満パートタイム (週)	その他	無回答
全体	280 100.0	207 73.9	21 7.5	43 15.4	-	9 3.2
女性 20歳代	8 100.0	6 75.0	1 12.5	-	-	1 12.5
女性 30歳代	36 100.0	34 94.4	-	-	-	2 5.6
女性 40歳代	65 100.0	63 96.9	-	-	-	2 3.1
女性 50歳代	63 100.0	57 90.5	1 1.6	1 1.6	-	4 6.3
女性 60歳代	26 100.0	19 73.1	2 7.7	5 19.2	-	-
女性 70歳代以上	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
男性 20歳代	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
男性 30歳代	7 100.0	2 28.6	3 42.9	2 28.6	-	-
男性 40歳代	28 100.0	8 28.6	6 21.4	14 50.0	-	-
男性 50歳代	25 100.0	9 36.0	3 12.0	13 52.0	-	-
男性 60歳代	17 100.0	6 35.3	4 23.5	7 41.2	-	-
男性 70歳代以上	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-

8. 家族構成



【性別】

家族構成は、男女とも「二世代会世帯」が5割近くを占める。次に「夫婦のみ世帯」が女性21.3%、男性31.5%、「単身世帯」が女性15.0%、男性10.4%となっている。

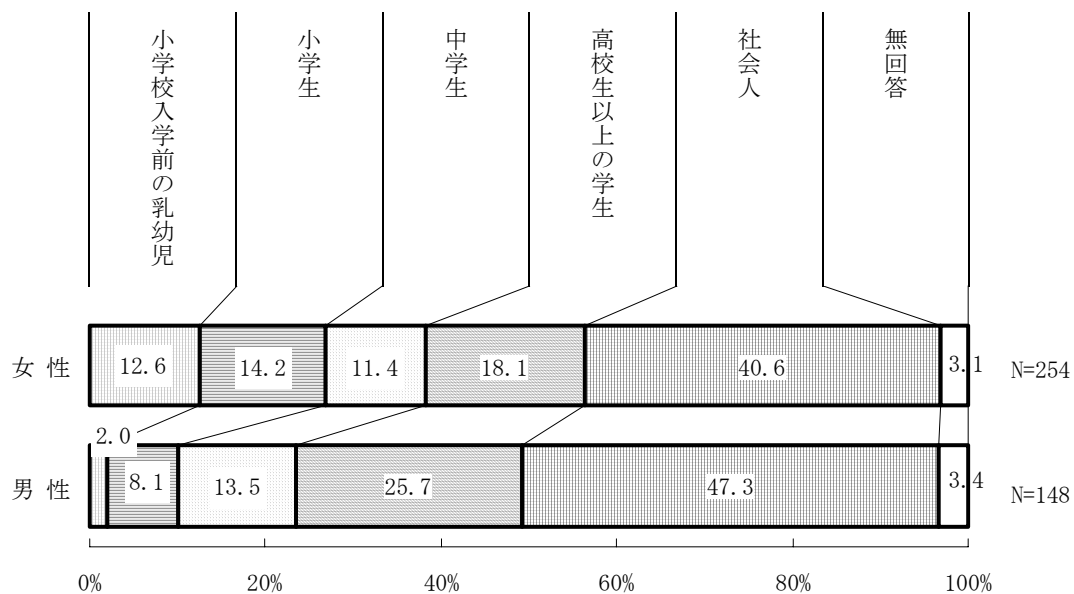
【性・年代別】

女性の70歳以上では4割強が単身世帯である。男性は60歳代以上は夫婦のみ世帯が半数を超えている。

【性・年代別】

	全体	単身世帯	夫婦のみ世帯	二世代会世帯	三世代会世帯	その他世帯	無回答
全体	1195 100.0	158 13.2	303 25.4	573 47.9	91 7.6	33 2.8	37 3.1
女性 20歳代	70 100.0	1 1.4	3 4.3	49 70.0	10 14.3	5 7.1	2 2.9
女性 30歳代	106 100.0	12 11.3	6 5.7	72 67.9	14 13.2	2 1.9	-
女性 40歳代	113 100.0	1 0.9	11 9.7	80 70.8	13 11.5	6 5.3	2 1.8
女性 50歳代	150 100.0	17 11.3	40 26.7	75 50.0	9 6.0	5 3.3	4 2.7
女性 60歳代	154 100.0	34 22.1	62 40.3	38 24.7	5 3.2	7 4.5	8 5.2
女性 70歳代以上	92 100.0	38 41.3	24 26.1	18 19.6	4 4.3	2 2.2	6 6.5
男性 20歳代	41 100.0	2 4.9	-	34 82.9	5 12.2	-	-
男性 30歳代	72 100.0	7 9.7	2 2.8	60 83.3	2 2.8	-	1 1.4
男性 40歳代	78 100.0	10 12.8	5 6.4	53 67.9	8 10.3	1 1.3	1 1.3
男性 50歳代	97 100.0	9 9.3	26 26.8	52 53.6	6 6.2	1 1.0	3 3.1
男性 60歳代	115 100.0	11 9.6	63 54.8	30 26.1	6 5.2	4 3.5	1 0.9
男性 70歳代以上	88 100.0	12 13.6	58 65.9	5 5.7	8 9.1	-	5 5.7

9. 末子の年齢



【性別】

子どもと同居していると回答した人の一番下の子どもは、男女ともに「社会人」が4割を超える。女性では「高校生以上の学生」(18.1%)、「小学生」(14.2%)と続いており、男性では子どもの年齢層が低くなるにつれ、その割合も低くなっている。

1. 日常生活や社会全般について

(1) 性別による役割について〔問1〕(P. 27~32)

性別役割分担やジェンダーに関する意識を問う質問に関して、⑦「夫の親を妻が介護・看護するのは当然だと思う」では、全体で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定派』(以下同じ)(28.5%)よりも「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『否定派』(以下同じ)(35.0%)の方が上回っている。①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい(『肯定派』36.9%、『否定派』36.2%)と⑧「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」(『肯定派』30.7%、『否定派』30.5%)では、『肯定派』と『否定派』の割合はほぼ同じである。これら以外の項目では、『肯定派』の方が割合が高い。中でも⑩「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」では、『肯定派』は81.6%で、③「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」では64.9%である。(P. 29, 30表1-1)

①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい(『肯定派』女性28.0%、男性48.4%)、②「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(『肯定派』女性51.8%、男性73.0%)、③「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(『肯定派』女性55.3%、男性78.1%)の3項目は、女性より男性の方が『肯定派』の割合が高い。(P. 27図1-1)

年代別では、いずれの項目も男女とも年齢層の低い方が『否定派』の割合が高い。(P. 29, 30表1-1)

(2) 男女の平等感について〔問2〕(P. 33~36)

社会のさまざまな分野における男女平等感は、全体で見ると③「学校教育の場」では「平等」(51.1%)が半数を超えているが、それ以外の分野はいずれも「平等」よりも『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)と回答した割合が高い。中でも⑦「社会通念・慣習・しきたり」では『男性優遇』が78.1%である。さらに②「職場」、⑤「政治の場」、①「家庭生活」でも6割程度以上が『男性優遇』と回答している。また、⑧「社会全体」で見たときは、『男性優遇』が72.6%で「平等」の12.7%と大きな開きがある。(P. 34, 35表1-3)

全ての分野で、女性の方が男性よりも『男性優遇』と回答した割合は高い。(P. 33図1-2)

2. 仕事について

(1) 職場での男女平等について〔問4〕(P. 38~43)

雇用されて働いた経験のある人に、職場での男女平等についてたずねている。全体で見ると①「採用・募集」、②「仕事の内容、仕事の分担」、③「昇給や賃金水準」、④「昇進・昇格」、⑤「能力・成果の評価」、⑨「お茶くみやコピー等の雑用」では、6割程度以上が『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)と回答している。中でも④「昇進・昇格」では『男性優遇』と回答した割合は77.7%で特に高い。その他の⑥「教育訓練の機会」、⑦「住宅資金の貸付など福利厚生」、⑧「退職・解雇」でも、「平等になっている」

よりも『男性優遇』と回答した人の割合の方が高くなっている。(P. 40, 41 表 2-2)

全ての事柄で、女性の方が男性よりも『男性優遇』と回答した割合は高く、逆に「平等になっている」と回答した割合は男性の方が女性より高くなっている。(P. 38 図 2-2)

(2) 男女が働きやすい社会環境のために必要なこと〔問5〕(P. 44~49)

男女が働きやすい社会の環境をつくるために必要なことでは、いずれの項目も「必要でない」の回答はわずかである。全体で見ると、ほとんどの項目で、『必要』(「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計)と回答した人が8割を超える中で、特に⑧「保育所、留守家庭児童会(学童保育)などの保育環境を充実する」(91.1%)、⑨「介護、育児休業制度などの活用をすすめる」(89.2%)、⑩「介護保険によるホームヘルパーや施設などのサービスを充実する」(91.3%)では、『必要』とする回答は9割程度と高くなっている。(P. 45~47 表 2-5)

性別では、ほぼ全ての項目で女性の方が『必要』の回答割合が高い中で、①「男女ともに労働時間の短縮をはかる」(女性 61.6%、男性 62.8%)のみ男性の方が高い。(P. 44 図 2-3)

3. 家庭生活について

(1) 家庭生活での役割分担〔問6〕(P. 50~59)

理想の家庭生活の分担は、全体で見ると④「掃除」、⑥「子どもの世話」、⑦「高齢者、病人の介護・看護」では「夫婦で同じくらい」と回答した人は半数を超える。①「生活費を得る」では「主に夫・パートナー(男性)」が、②「家計の管理」、③「食事のしたく」、⑤「洗濯」では「主に妻・パートナー(女性)」が半数を超えるが、「夫婦で同じくらい」の回答も3割以上である。(P. 51, 52 表 3-1)

全ての項目で、女性の方が男性より「夫婦で同じくらい」を理想とする割合は高く、中でも⑥「子どもの世話」(女性 71.2%、男性 57.7%)、③「食事のしたく」(女性 39.9%、男性 28.7%)、⑦「高齢者、病人の介護・看護」(女性 81.9%、男性 70.9%)では女性の方が10ポイント強高い。(P. 50 図 3-1)

年代別では、女性は40歳代、男性は30歳代が、「夫婦で同じくらい」を理想とする割合が高い傾向である。(P. 51, 52 表 3-1)

職業別では、女性の場合、雇用者が「夫婦で同じくらい」を理想とする割合が高い傾向である。(P. 53, 54 表 3-2)

一方、配偶者・パートナーがいる人の現実の家庭生活の分担は、全体で見ると、理想では「夫婦で同じくらい」の回答が半数を超えていた④「掃除」、⑥「子どもの世話」、⑦「高齢者、病人の介護・看護」では、現実の分担が「夫婦で同じくらい」は2~3割程度(⑥「子どもの世話」と⑦「高齢者、病人の介護・看護」は「該当しない」の回答を除いて計算)である。これら以外の項目では、現実の分担が「夫婦で同じくらい」は1割程度となっている。(P. 56, 57 表 3-3)

理想で「主に夫・パートナー(男性)」の回答が64.2%の①「生活費を得る」では、現実には「主に夫・パートナー(男性)」は75.1%であり、理想で「主に妻・パートナー(女性)」が5~6割の②「家計の管理」、③「食事のしたく」、⑤「洗濯」では、現実には「主に妻・パートナー(女性)」

は7～8割程度と高くなっている。(P. 51, 52 表3-1、P. 56, 57 表3-3)

理想と現実を比較したときに、理想では全ての項目で、女性の方が男性より「夫婦で同じくらい」の回答が高いのに対して、現実ではほとんどの項目で男性より低い。つまり理想と現実のギャップは、女性の方が大きいといえる。(P. 50 図3-1、P. 55 図3-2)

(2) 望ましい男女の生き方〔問7〕(P. 60～64)

全体でみると、女性の生き方として望ましいのは「仕事と家庭や地域活動を両立させる」が42.1%、次いで「どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる」が31.0%である。(P. 61 表3-5)

男性の生き方として望ましいのは「仕事と家庭や地域活動を両立させる」(34.9%)が最も高いものの、「仕事を優先させる」29.1%、「どちらかといえば、仕事を優先させる」26.4%で、半数以上は『仕事優先』である。(P. 63 表3-7)

性別では、女性は男性に比べて、女性の生き方、男性の生き方とも「仕事と家庭や地域活動を両立させる」の回答割合が高い。男性は、女性の生き方では、女性より『家庭や地域活動優先』が高く、男性の生き方では『仕事優先』が高くなっている。(P. 60 図3-3、P. 62 図3-4)

男性の生き方に対しては、男女とも年代の高い方が『仕事優先』が高い傾向である。(P. 63 表3-7)

(3) 実際の男女の生き方〔問8〕(P. 65～67)

実際の生き方をみると、全体では「どちらかといえば、仕事を優先させている」が31.5%、「仕事を優先させている」が21.3%で合わせると5割を超え、「仕事と家庭や地域活動を両立させている」は13.9%である。(P. 66 表3-11)

男女ともに両立よりも仕事優先の割合が高く、特に男性は「どちらかといえば、仕事を優先させている」(36.6%)と「仕事を優先させている」(35.2%)は、ほぼ同じで合わせると7割を超える。(P. 65 図3-5)

理想と現実の組合せをみると、「仕事と家庭や地域活動を両立させる」が望ましいと考えている人のうち現実でも両立しているのは女性の場合で23.5%、男性では17.9%である。(P. 65 表3-9、P. 66 表3-10)

年代別では、男性の40歳代は「仕事を優先させている」が43.6%で、他の年代よりも高くなっている。(P. 66 表3-11)

4. 子どもの教育について

(1) 子どもの望ましい最終学歴〔問9〕(P. 68～70)

全体でみると、女の子の場合では、大学以上は54.5%（「大学」49.6%、「大学院」4.9%）であるのに対して、男の子の場合では、大学以上は82.8%（「大学」70.2%、「大学院」12.6%）で、女の子に対する場合と比べて28.3ポイント高くなっている。(P. 69 表4-1、P. 70 表4-2)

(2) 男女平等の推進のために学校で行うとよいもの〔問 10〕(P. 71, 72)

男女平等を推進していくために、学校で行うとよいと思うものは、全体でみると「男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」(78.9%)が最も高く、次いで「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」(64.5%)、「男女で協力して家事ができるようにする」(61.3%)となっている。(P. 72 表 4-4)

性別では、傾向は大きく変わらないが「男女で協力して家事ができるようにする」(女性 68.2%、男性 51.0%)では 17.2 ポイント、「こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を適切に行う」(女性 61.2%、男性 50.6%)は 10.6 ポイント、女性の方が男性よりも高くなっている。(P. 71 図 4-3)

年代別では、女性の 40 歳代は、ほとんどの項目の回答割合が他の年代より高い。(P. 72 表 4-4)

5. 男女の人権について

(1) セクシュアル・ハラスメントの認識〔問 11①〕(P. 73~75)

セクシュアル・ハラスメントにあたる行為の認識では、全体でみると「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」(60.1%)、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」(57.8%)、「故意に身体にふれられる」(55.1%)の順に高くなっている。(P. 74 表 5-1)

全ての項目において、女性の方が男性よりも回答割合が高く、特に「からだをじろじろ見られる」では、女性(42.9%)が男性(31.1%)よりも 11.8 ポイント高い。(P. 73 図 5-1)

年代別では、女性は 40 歳代以下と 50 歳代以上でセクシュアル・ハラスメントの認識が大きく異なり、40 歳代以下では回答割合が高くなっている。男性では 40 歳代の認識が高い。(P. 74 表 5-1)

(2) セクシュアル・ハラスメントの経験〔問 11②~④〕(P. 76~78)

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、どれか一つでも経験のある人は、女性 41.2%、男性 15.0%である。女性では「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」(20.4%)、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(19.4%)、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」(18.1%)は 2 割程度の人が経験している。男性では「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が 9.3%で最も高く、女性に比べるといずれの行為も経験の割合は低くなっている。(P. 76 図 5-2)

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、どれか一つでも経験のある人は、女性 10.7%、男性 7.1%である。項目の中で割合が高いのは「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が女性 7.4%、男性 5.5%となっている。(P. 77 図 5-3)

地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、どれか一つでも経験のある人は、女性 12.3%、男性 4.9%である。女性は「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」、「からだをじろじろ見られる」、「故意に身体にふれられる」が 3~5%である。(P. 78 図 5-4)

職場、学校、地域いずれかで、どれか一つでも経験のある人は、女性 48.8%、男性 18.9%となっている。(P. 78)

(3) DVにあたる行為の認識〔問13〕(P.80~85)

DVにあたる行為について、⑬「命の危険を感じるほどの暴行をされる」(81.7%)、⑫「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」(81.5%)、⑪「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」(78.9%)については、無回答を除くと約8割の人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答している。①「何を言っても長期間無視される」(24.3%)、②「大声でどなられる」(24.2%)は他に比べると暴力の認識が低く、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は全体では4人に1人程度である。(P.81,82表5-5)

ほとんどの項目で、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高く、男女でDVに対する認識の違いがみられる。(P.80図5-6)

(4) DVにあたる行為を受けた経験〔問13〕(P.86~90)

配偶者・パートナー・恋人がいる(いた)と答えた人のDVにあたる行為の経験について、どれか一つでも経験のある人(「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」のいずれかに回答)は全体では54.4%で、女性では56.6%、男性では51.9%となっている。(P.89表5-11)

全体でみると②「大声でどなられる」(40.5%)が最も高く、①「何を言っても長期間無視される」(26.1%)が次いで高い。(P.87表5-9)

暴力の種類別でみると、精神的暴力、身体的暴力、社会的暴力、経済的暴力の行為の経験は男女の違いは小さいが、性的暴力は女性は23.5%が経験しているのに対して男性は8.9%である。(P.88表5-10)

また、⑬「命の危険を感じるほどの暴行をされる」、⑫「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」では、女性で経験があると回答したのは、それぞれ3.3%(20人)、2.6%(16人)である。(P.86図5-7)

暴力の重複状況を見ると、どれか一つだけの経験よりも複数の種類が重複している場合が多く、重複している割合は女性の方が高い。(P.89表5-11)

(5) DVの相談状況〔問14〕(P.91, 92)

DVにあたる行為を受けた人のうち、「相談しようと思わなかった」人が女性は44.2%、男性は63.0%であった。

相談した人の相談先では「友人・知人」が最も高く、女性29.6%、男性15.4%、次いで「親族」が女性20.2%、男性9.7%で続いている。(P.91図5-8)

(6) メディアにおける性・暴力表現について〔問15〕(P.93, 94)

メディアにおける性・暴力表現については、「子どもが性に対してゆがんだ意識をもちやすい」(女性63.6%、男性54.3%)が最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を乱している」(女性54.5%、男性52.4%)となっている。いずれの項目も女性の方が男性より回答割合が高くなっている。(P.93図5-9)

6. 男女共同参画社会の実現について

(1) 男女共同参画社会を実現するためにできること〔問16〕(P.95,96)

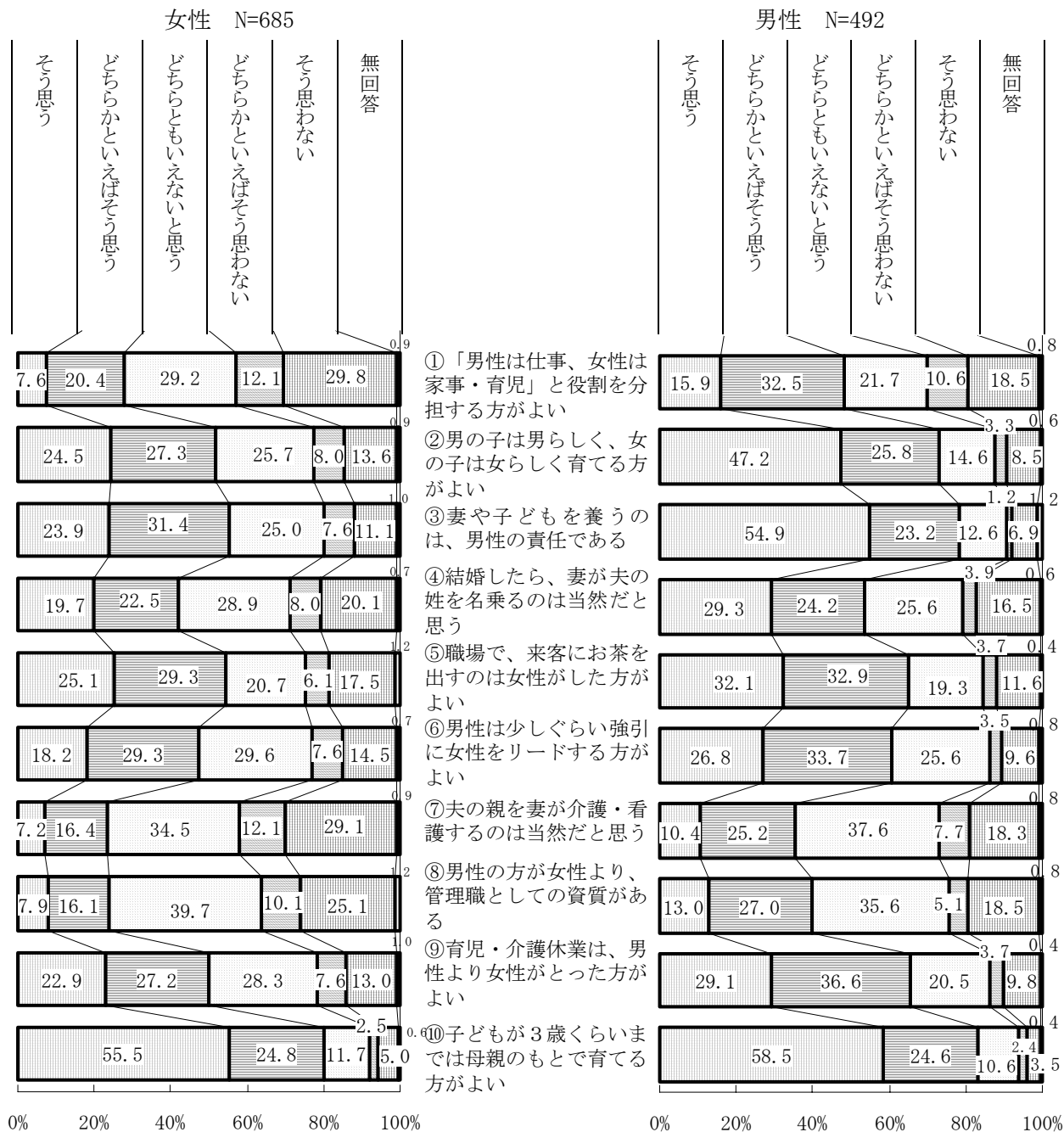
男女共同参画社会をつくるために、回答者自身ができることとしては、全体で見ると「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」(73.0%)、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」(61.3%)、「夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす」(60.4%)の順となっている。(P.96表6-1)

「経済的に自立する」では、女性(39.7%)の方が男性(29.5%)よりも10.2ポイント高くなっている。(P.95図6-1)

1. 日常生活や社会全般について

問1 あなたは、次の①～⑩の項目についてどのように思いますか。感じたままをお答えください。
(〇はそれぞれに1つ)

【図1-1】



【性別】

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『肯定派』の割合は男女ともに⑩「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」が8割を超え最も高い。次いで③「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」の割合が高くなっており、男性では「そう思う」が5割を超えている。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合計した『否定派』は男女ともに①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい」が最も高く、女性は男性

より 12.8 ポイント高い。全ての項目において、『肯定派』は女性よりも男性の方が高い。

①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい、②「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」、③「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」の3項目は男女間の意識の違いが特に大きい。

【性・年代別】

いずれの項目も男女とも比較的若い年代の方が『否定派』の割合が高い傾向である。

① 「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい

女性の20歳代～40歳代は『否定派』が5割を超える。女性は60歳代、男性は50歳代で『否定派』と『肯定派』の割合が逆転している。

② 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい

男性の50歳代以上では『肯定派』が8割を超える。女性の20歳代～30歳代では『否定派』と『肯定派』がほぼ同じ程度である。

③ 妻や子どもを養うのは、男性の責任である

男性は年代による違いが小さい。いずれの年代も『肯定派』は7割以上である。

④ 結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う

男女とも20歳代は、『肯定派』と『否定派』がほぼ同じで男女の違いがほとんどない。女性の20歳代は30歳代、40歳代よりも『肯定派』の割合が高い。

⑤ 職場で、来客にお茶を出すのは女性がした方がよい

男性は40歳代以下と50歳代以上との間で、『肯定派』の割合が約20ポイント違う。50歳代以上では『肯定派』は7割以上である。

⑥ 男性は少しぐらい強引に女性をリードする方がよい

男性の20歳代～40歳代と60歳代以上では、『肯定派』の割合の差が20ポイント前後ある。

⑦ 夫の親を妻が介護・看護するのは当然だと思う

女性の40歳代では『否定派』が6割、一方男性の70歳以上では『肯定派』が6割。ちょうど親子にあたる年代で意識の違いが大きくなっている。

⑧ 男性の方が女性より、管理職としての資質がある

男女とも「どちらともいえないと思う」の割合が高い項目であるが、女性の20歳代～40歳代では『否定派』が『肯定派』を大きく上回る。

⑨ 育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい

男女とも40歳代は『肯定派』の割合が他の年代よりも低い。子育て期を含む女性の20歳代、30歳代は3～4割は『肯定派』である。

⑩ 子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい

男女とも70歳以上は『肯定派』が9割を超える。女性の20歳代では、30歳代、40歳代よりも『肯定派』の割合が高い。

【表1-1 性・年代別】

	全体	①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい			②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい			③妻や子どもを養うのは、男性の責任である			
		肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	
全体	1195 100.0	441 36.9	311 26.0	433 36.2	727 60.8	251 21.0	208 17.4	776 64.9	236 19.7	170 14.2	
女性	20歳代	70 100.0	13 18.6	21 30.0	36 51.4	23 32.9	21 30.0	34 48.6	17 24.3	19 27.1	
	30歳代	106 100.0	19 17.9	30 28.3	57 53.8	37 34.9	34 33.0	57 53.8	27 25.5	22 20.8	
	40歳代	113 100.0	15 13.3	33 29.2	65 57.5	34 30.1	36 31.9	42 37.2	31 27.4	33 29.2	
	50歳代	150 100.0	43 28.7	43 28.7	64 42.7	83 55.3	43 28.7	24 16.0	75 50.0	45 30.0	28 18.7
	60歳代	154 100.0	57 37.0	50 32.5	45 29.2	106 68.8	28 18.2	18 11.7	104 67.5	32 20.8	17 11.0
	70歳代以上	92 100.0	45 48.9	23 25.0	20 21.7	72 78.3	9 9.8	8 8.7	60 65.2	19 20.7	9 9.8
男性	20歳代	41 100.0	12 29.3	9 22.0	20 48.8	26 63.4	5 12.2	10 24.4	31 75.6	6 14.6	4 9.8
	30歳代	72 100.0	23 31.9	23 31.9	26 36.1	37 51.4	22 30.6	13 18.1	53 73.6	10 13.9	9 12.5
	40歳代	78 100.0	29 37.2	17 21.8	32 41.0	47 60.3	17 21.8	14 17.9	56 71.8	12 15.4	9 11.5
	50歳代	97 100.0	46 47.4	24 24.7	27 27.8	79 81.4	10 10.3	8 8.2	73 75.3	12 12.4	11 11.3
	60歳代	115 100.0	65 56.5	19 16.5	28 24.3	92 80.0	12 10.4	9 7.8	96 83.5	11 9.6	5 4.3
	70歳代以上	88 100.0	62 70.5	15 17.0	10 11.4	77 87.5	6 6.8	4 4.5	74 84.1	11 12.5	2 2.3

	全体	④結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う			⑤職場で、来客にお茶を出すのは女性がした方がよい			⑥男性は少しぐらい強引に女性をリードする方がよい			
		肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	
全体	1195 100.0	560 46.9	328 27.4	298 24.9	703 58.8	241 20.2	241 20.2	636 53.2	331 27.7	218 18.2	
女性	20歳代	70 100.0	25 35.7	21 30.0	24 34.3	32 45.7	12 17.1	26 37.1	32 45.7	22 31.4	16 22.9
	30歳代	106 100.0	31 29.2	35 33.0	40 37.7	46 43.4	28 26.4	31 29.2	44 41.5	36 34.0	26 24.5
	40歳代	113 100.0	24 21.2	38 33.6	51 45.1	47 41.6	23 20.4	43 38.1	45 39.8	32 28.3	36 31.9
	50歳代	150 100.0	56 37.3	48 32.0	46 30.7	79 52.7	36 24.0	35 23.3	61 40.7	52 34.7	36 24.0
	60歳代	154 100.0	95 61.7	35 22.7	23 14.9	103 66.9	29 18.8	19 12.3	87 56.5	40 26.0	26 16.9
	70歳代以上	92 100.0	58 63.0	21 22.8	9 9.8	66 71.7	14 15.2	8 8.7	57 62.0	21 22.8	11 12.0
男性	20歳代	41 100.0	15 36.6	11 26.8	15 36.6	21 51.2	14 34.1	6 14.6	20 48.8	15 36.6	6 14.6
	30歳代	72 100.0	29 40.3	25 34.7	18 25.0	39 54.2	16 22.2	17 23.6	37 51.4	22 30.6	13 18.1
	40歳代	78 100.0	35 44.9	22 28.2	21 26.9	39 50.0	18 23.1	21 26.9	36 46.2	26 33.3	16 20.5
	50歳代	97 100.0	54 55.7	21 21.6	22 22.7	70 72.2	15 15.5	12 12.4	58 59.8	29 29.9	10 10.3
	60歳代	115 100.0	71 61.7	30 26.1	12 10.4	84 73.0	19 16.5	10 8.7	82 71.3	18 15.7	11 9.6
	70歳代以上	88 100.0	58 65.9	17 19.3	12 13.6	66 75.0	13 14.8	9 10.2	64 72.7	16 18.2	8 9.1

【表1-1 性・年代別】

	全体	⑦夫の親を妻が介護・看護するのは当然だと思う			⑧男性の方が女性より、管理職としての資質がある			⑨育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい			
		肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	
全体	1195 100.0	341 28.5	426 35.6	418 35.0	367 30.7	451 37.7	365 30.5	678 56.7	296 24.8	212 17.7	
女性	20歳代	70 100.0	15 21.4	19 27.1	35 50.0	9 12.9	30 42.9	31 44.3	28 40.0	27 38.6	15 21.4
	30歳代	106 100.0	20 18.9	40 37.7	46 43.4	19 17.9	38 35.8	49 46.2	35 33.0	38 35.8	32 30.2
	40歳代	113 100.0	21 18.6	24 21.2	68 60.2	17 15.0	43 38.1	53 46.9	36 31.9	36 31.9	41 36.3
	50歳代	150 100.0	25 16.7	59 39.3	65 43.3	31 20.7	69 46.0	49 32.7	75 50.0	43 28.7	31 20.7
	60歳代	154 100.0	44 28.6	63 40.9	46 29.9	50 32.5	63 40.9	39 25.3	108 70.1	31 20.1	13 8.4
	70歳代以上	92 100.0	36 39.1	31 33.7	22 23.9	38 41.3	29 31.5	20 21.7	61 66.3	19 20.7	9 9.8
男性	20歳代	41 100.0	8 19.5	13 31.7	20 48.8	12 29.3	19 46.3	10 24.4	24 58.5	7 17.1	10 24.4
	30歳代	72 100.0	17 23.6	29 40.3	26 36.1	20 27.8	30 41.7	22 30.6	40 55.6	19 26.4	13 18.1
	40歳代	78 100.0	24 30.8	34 43.6	20 25.6	20 25.6	31 39.7	27 34.6	36 46.2	24 30.8	18 23.1
	50歳代	97 100.0	32 33.0	40 41.2	25 25.8	38 39.2	37 38.1	22 22.7	65 67.0	23 23.7	9 9.3
	60歳代	115 100.0	41 35.7	47 40.9	25 21.7	55 47.8	30 26.1	27 23.5	82 71.3	19 16.5	12 10.4
	70歳代以上	88 100.0	52 59.1	22 25.0	12 13.6	51 58.0	28 31.8	8 9.1	75 85.2	9 10.2	4 4.5

	全体	⑩子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい			
		肯定	どちらともいえない	否定	
全体	1195 100.0	975 81.6	132 11.0	82 6.9	
女性	20歳代	70 100.0	53 75.7	12 17.1	5 7.1
	30歳代	106 100.0	71 67.0	20 18.9	14 13.2
	40歳代	113 100.0	80 70.8	15 13.3	18 15.9
	50歳代	150 100.0	122 81.3	22 14.7	6 4.0
	60歳代	154 100.0	138 89.6	10 6.5	5 3.2
	70歳代以上	92 100.0	86 93.5	1 1.1	3 3.3
男性	20歳代	41 100.0	30 73.2	4 9.8	7 17.1
	30歳代	72 100.0	55 76.4	13 18.1	4 5.6
	40歳代	78 100.0	58 74.4	12 15.4	8 10.3
	50歳代	97 100.0	83 85.6	10 10.3	4 4.1
	60歳代	115 100.0	100 87.0	10 8.7	3 2.6
	70歳代以上	88 100.0	82 93.2	3 3.4	3 3.4

【性・職業別/性・就労形態別】

いずれの項目も女性の場合、雇用者中でも常勤フルタイムは『否定派』の割合が高い傾向であり、家事専業・無職は『肯定派』の割合が高い傾向である。

男性の場合、家事専業・無職のうち8割強が60歳代以上であり、年代の高いほうが『肯定派』の割合が高い傾向と一致している。

【表1-2 性・職業別/性・就労形態別】

	全体	①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい			②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい			③妻や子どもを養うのは、男性の責任である			
		肯定	どちらでもない	否定	肯定	どちらでもない	否定	肯定	どちらでもない	否定	
全体	1195 100.0	441 36.9	311 26.0	433 36.2	727 60.8	251 21.0	208 17.4	776 64.9	236 19.7	170 14.2	
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	19 28.8	19 28.8	27 40.9	34 51.5	21 31.8	11 16.7	31 47.0	25 37.9	9 13.6
	雇用者	294 100.0	56 19.0	82 27.9	156 53.0	125 42.5	90 30.6	78 26.5	151 51.4	71 24.1	72 24.4
	家事専業・無職	303 100.0	113 37.3	95 31.4	90 29.7	190 62.7	59 19.5	49 16.1	188 62.1	69 22.8	40 13.3
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	25 47.2	14 26.4	14 26.4	38 71.7	8 15.1	7 13.2	42 79.3	6 11.3	5 9.4
	雇用者	247 100.0	106 42.9	48 19.4	93 37.7	167 67.7	42 17.0	38 15.3	191 77.3	28 11.3	26 10.5
	家事専業・無職	172 100.0	99 57.5	40 23.3	29 16.8	140 81.4	19 11.0	10 5.8	137 79.6	24 14.0	7 4.1
女性	常勤フルタイム	143 100.0	22 15.4	38 26.6	83 58.1	60 42.0	39 27.3	44 30.8	62 43.4	35 24.5	46 32.2
	長時間パートタイム	55 100.0	12 21.8	18 32.7	25 45.4	22 40.0	17 30.9	16 29.0	32 58.2	12 21.8	11 20.0
	短時間パートタイム	84 100.0	20 23.8	23 27.4	41 48.8	37 44.0	31 36.9	16 19.1	50 59.5	21 25.0	13 15.4
男性	常勤フルタイム	205 100.0	84 40.9	43 21.0	78 38.1	137 66.8	35 17.1	33 16.1	156 76.1	24 11.7	23 11.3

	全体	④結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う			⑤職場で、乗客にお茶を出すのは女性がした方がよい			⑥男性は少しぐらい強引に女性をリードする方がよい			
		肯定	どちらでもない	否定	肯定	どちらでもない	否定	肯定	どちらでもない	否定	
全体	1195 100.0	560 46.9	328 27.4	298 24.9	703 58.8	241 20.2	241 20.2	636 53.2	331 27.7	218 18.2	
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	31 47.0	13 19.7	22 33.4	36 54.6	13 19.7	16 24.2	33 50.0	18 27.3	15 22.7
	雇用者	294 100.0	89 30.3	101 34.4	104 35.4	151 51.4	60 20.4	82 27.8	131 44.6	91 31.0	71 24.2
	家事専業・無職	303 100.0	161 53.1	81 26.7	56 18.5	178 58.7	65 21.5	54 17.8	153 50.5	87 28.7	59 19.5
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	30 56.6	9 17.0	14 26.5	34 64.2	7 13.2	12 22.6	33 62.3	8 15.1	12 22.6
	雇用者	247 100.0	124 50.2	67 27.1	56 22.7	153 61.9	50 20.2	44 17.8	140 56.6	72 29.1	35 14.1
	家事専業・無職	172 100.0	104 60.5	43 25.0	22 12.8	122 70.9	30 17.4	18 10.5	111 64.5	41 23.8	16 9.3
女性	常勤フルタイム	143 100.0	33 23.1	51 35.7	59 41.3	66 46.2	27 18.9	49 34.3	55 38.5	45 31.5	43 30.1
	長時間パートタイム	55 100.0	18 32.7	21 38.2	16 29.1	33 60.0	8 14.5	14 25.4	31 56.4	15 27.3	9 16.4
	短時間パートタイム	84 100.0	33 39.2	25 29.8	26 30.9	44 52.4	24 28.6	16 19.1	40 47.6	28 33.3	15 17.8
男性	常勤フルタイム	205 100.0	95 46.3	61 29.8	49 23.9	129 62.9	38 18.5	38 18.5	114 55.6	61 29.8	30 14.6

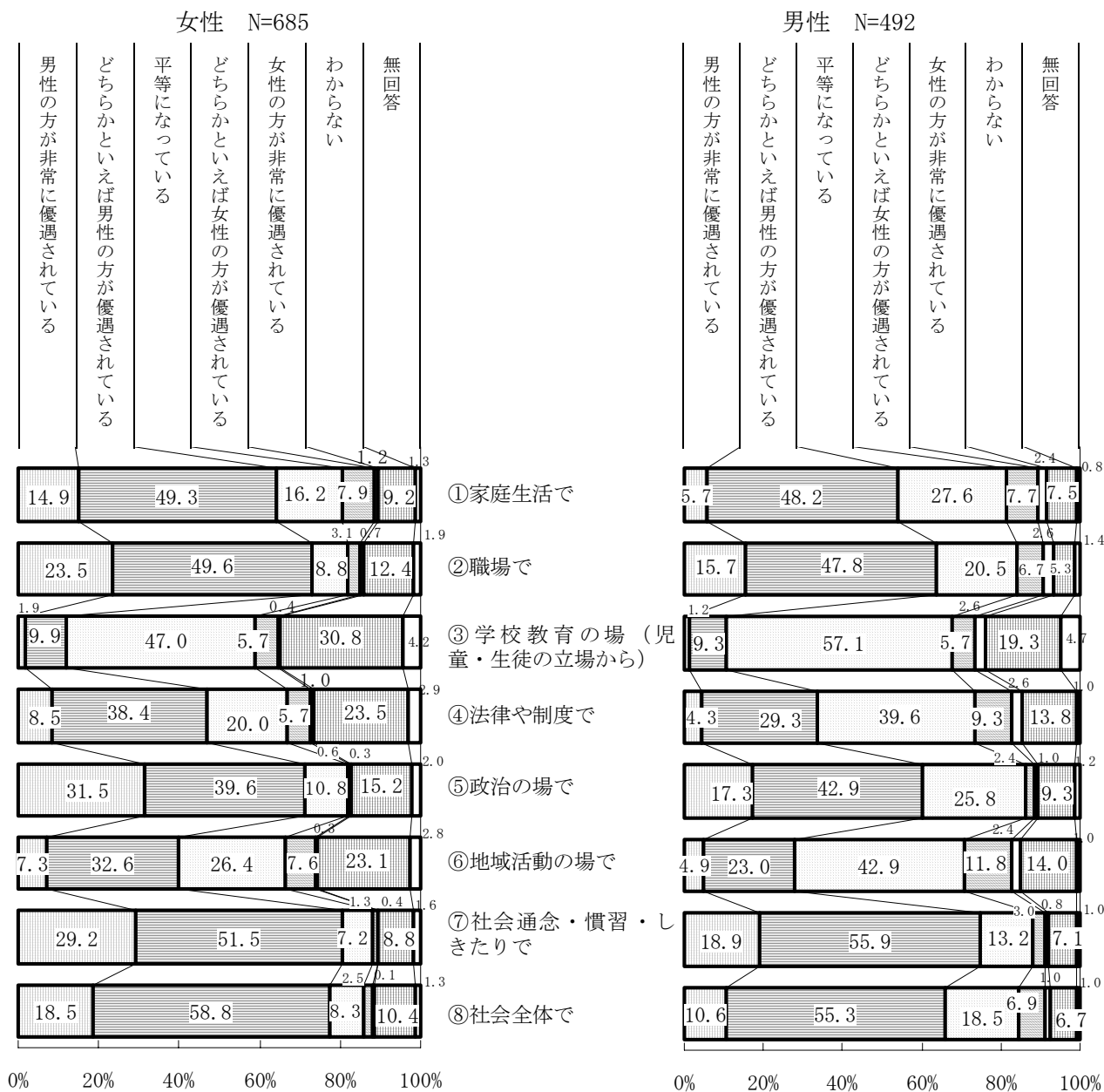
【表1-2 性・職業別/性・就労形態別】

	全体	⑦夫の親を妻が介護・看護するのは当然だと思う			⑧男性の方が女性より、管理職としての資質がある			⑨育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい			
		肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	肯定	どちらともいえない	否定	
全体	1195 100.0	341 28.5	426 35.6	418 35.0	367 30.7	451 37.7	365 30.5	678 56.7	296 24.8	212 17.7	
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	19 28.8	22 33.3	24 36.3	13 19.7	36 54.5	17 25.8	34 51.5	20 30.3	12 18.2
	雇用者	294 100.0	53 18.1	95 32.3	145 49.3	55 18.7	115 39.1	123 41.8	121 41.2	91 31.0	80 27.2
	家事専業・無職	303 100.0	84 27.8	116 38.3	99 32.7	93 30.7	114 37.6	89 29.3	178 58.8	77 25.4	43 14.2
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	18 34.0	18 34.0	17 32.1	22 41.5	18 34.0	13 24.5	32 60.4	15 28.3	6 11.3
	雇用者	247 100.0	79 32.0	98 39.7	70 28.3	83 33.6	89 36.0	75 30.4	149 60.3	57 23.1	41 16.6
	家事専業・無職	172 100.0	73 42.5	60 34.9	35 20.3	85 49.4	57 33.1	26 15.1	128 74.4	26 15.1	16 9.3
女性	常勤フルタイム	143 100.0	23 16.1	41 28.7	78 54.6	21 14.7	46 32.2	76 53.2	49 34.3	46 32.2	47 32.9
	長時間パートタイム	55 100.0	9 16.3	21 38.2	25 45.4	15 27.3	22 40.0	18 32.7	20 36.4	18 32.7	17 30.9
	短時間パートタイム	84 100.0	18 21.5	31 36.9	35 41.7	17 20.2	40 47.6	27 32.1	42 50.0	25 29.8	16 19.0
男性 イム	常勤フルタイム	205 100.0	60 29.3	88 42.9	57 27.8	69 33.7	73 35.6	63 30.7	123 60.0	48 23.4	34 16.5

	全体	⑩子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい			
		肯定	どちらともいえない	否定	
全体	1195 100.0	975 81.6	132 11.0	82 6.9	
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	51 77.3	12 18.2	3 4.5
	雇用者	294 100.0	223 75.8	40 13.6	30 10.2
	家事専業・無職	303 100.0	264 87.1	21 6.9	15 5.0
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	43 81.1	7 13.2	3 5.7
	雇用者	247 100.0	200 81.0	30 12.1	17 6.8
	家事専業・無職	172 100.0	149 86.6	13 7.6	8 4.6
女性	常勤フルタイム	143 100.0	97 67.9	20 14.0	25 17.5
	長時間パートタイム	55 100.0	46 83.6	6 10.9	3 5.4
	短時間パートタイム	84 100.0	69 82.1	13 15.5	2 2.4
男性 イム	常勤フルタイム	205 100.0	162 79.0	27 13.2	16 7.8

問2 あなたは、次の①～⑧の各分野で一般的に男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれに1つ)

【図1-2】



【性別】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』の割合は、男女とも⑦「社会通念・慣習・しきたりで」が最も高く、女性は8割を占める。次いで②「職場で」⑤「政治の場で」①「家庭生活で」の順に男性優遇感が強く男女とも『男性優遇』が5割を超える。

⑧「社会全体で」みたときは、女性77.3%、男性65.9%が『男性優遇』と回答している。

全ての項目で『男性優遇』は女性の方が男性よりも高い割合となっている。「平等になっている」の割合は男女ともに③「学校教育の場(児童・生徒の立場から)」が最も高いが、女性(47.0%)よりも男性(57.1%)の方が10.1ポイント上回っている。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合計した『女性優遇』は、女性では①「家庭生活で」が9.1%、男性では⑥「地域活動の場で」が14.2%で他の項目よりもやや高くなっている。

【性・年代別】

各分野の男女平等感に、男女とも年代による違いはあまりみられない。

① 家庭生活で

男性は、年代が高くなるほど『男性優遇』の割合が高くなっているが、女性では30歳代～50歳代と70歳以上では『男性優遇』が7割弱で、20歳代、60歳代に比べて高い。

② 職場で

女性では、40歳代、50歳代の『男性優遇』が他の年代より高いが、男性の40歳代は『男性優遇』が他の年代よりも低くなっている。

③ 学校教育の場（児童・生徒の立場から）

女性は年代が若いほど『平等』が高い傾向である。男性では30歳代と40歳代の『平等』に27.6ポイントの差がある。（40歳代の方が高い）

④ 法律や制度で

女性の40歳代では、『男性優遇』が特に高い。

⑤ 政治の場で

女性の50歳代以下と男性の20歳代は『男性優遇』が8割前後で高い。

⑥ 地域活動の場で

女性の40歳代と50歳代では半数以上が、『男性優遇』と感じている。女性の20歳代と30歳代は約4割がわからないと回答。地域活動への参加が少ないせいかな。

⑦ 社会通念・慣習・しきたりで

女性の40歳代では『男性優遇』は9割の回答で高い。

⑧ 社会全体で

女性の40歳代、50歳代は『男性優遇』が85%以上で、特に高い。

【表1-3 性・年代別】

	全体	①家庭生活で				②職場で				③学校教育の場（児童・生徒の立場から）				
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	
全体	1195 100.0	715 59.8	252 21.1	113 9.5	102 8.5	824 69.0	163 13.6	73 6.1	113 9.5	136 11.4	611 51.1	85 7.1	310 25.9	
女性	20歳代	70 100.0	37 52.9	12 17.1	8 11.4	13 18.6	48 68.6	6 8.6	4 5.7	12 17.1	6 8.6	37 52.9	6 8.6	21 30.0
	30歳代	106 100.0	72 67.9	15 14.2	4 3.8	14 13.2	75 70.8	12 11.3	6 5.7	13 12.3	15 14.2	51 48.1	5 4.7	35 33.0
	40歳代	113 100.0	79 69.9	17 15.0	10 8.8	6 5.3	87 77.0	10 8.8	3 2.7	13 11.5	11 9.7	56 49.6	12 10.6	32 28.3
	50歳代	150 100.0	102 68.0	22 14.7	15 10.0	11 7.3	122 81.3	9 6.0	7 4.7	11 7.3	28 18.7	68 45.3	9 6.0	42 28.0
	60歳代	154 100.0	88 57.1	32 20.8	17 11.0	14 9.1	109 70.8	12 7.8	4 2.6	24 15.6	11 7.1	72 46.8	7 4.5	52 33.8
	70歳代以上	92 100.0	62 67.4	13 14.1	8 8.7	5 5.4	60 65.2	11 12.0	2 2.2	12 13.0	10 10.9	38 41.3	3 3.3	29 31.5
男性	20歳代	41 100.0	15 36.6	15 36.6	5 12.2	6 14.6	28 68.3	4 9.8	5 12.2	3 7.3	6 14.6	24 58.5	7 17.1	4 9.8
	30歳代	72 100.0	33 45.8	15 20.8	11 15.3	13 18.1	45 62.5	9 12.5	11 15.3	7 9.7	9 12.5	29 40.3	7 9.7	24 33.3
	40歳代	78 100.0	39 50.0	22 28.2	10 12.8	7 9.0	43 55.1	17 21.8	13 16.7	5 6.4	6 7.7	53 67.9	3 3.8	12 15.4
	50歳代	97 100.0	54 55.7	26 26.8	12 12.4	5 5.2	62 63.9	22 22.7	9 9.3	4 4.1	9 9.3	54 55.7	12 12.4	21 21.6
	60歳代	115 100.0	65 56.5	37 32.2	6 5.2	5 4.3	77 67.0	25 21.7	6 5.2	5 4.3	12 10.4	67 58.3	6 5.2	21 18.3
	70歳代以上	88 100.0	59 67.0	20 22.7	6 6.8	1 1.1	56 63.6	24 27.3	2 2.3	2 2.3	10 11.4	53 60.2	6 6.8	13 14.8

【表1-3 性・年代別】

	全体	④法律や制度で				⑤政治の場で				⑥地域活動の場で				
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	
全体	1195 100.0	493 41.3	338 28.3	106 8.9	233 19.5	792 66.3	207 17.3	23 1.9	153 12.8	414 34.6	401 33.6	126 10.5	230 19.2	
女性	20歳代	70 100.0	34 48.6	9 12.9	6 8.6	20 28.6	53 75.7	3 4.3	1 1.4	13 18.6	14 20.0	20 28.6	7 10.0	29 41.4
	30歳代	106 100.0	56 52.8	15 14.2	6 5.7	27 25.5	81 76.4	7 6.6	- -	18 17.0	39 36.8	21 19.8	5 4.7	41 38.7
	40歳代	113 100.0	73 64.6	11 9.7	7 6.2	22 19.5	93 82.3	5 4.4	- -	15 13.3	60 53.1	19 16.8	9 8.0	24 21.2
	50歳代	150 100.0	75 50.0	24 16.0	14 9.3	37 24.7	119 79.3	11 7.3	1 0.7	19 12.7	82 54.7	34 22.7	6 4.0	25 16.7
	60歳代	154 100.0	56 36.4	45 29.2	8 5.2	38 24.7	90 58.4	27 17.5	2 1.3	29 18.8	50 32.5	55 35.7	18 11.7	24 15.6
	70歳代以上	92 100.0	27 29.3	33 35.9	5 5.4	17 18.5	51 55.4	21 22.8	2 2.2	10 10.9	28 30.4	32 34.8	9 9.8	15 16.3
男性	20歳代	41 100.0	15 36.6	13 31.7	6 14.6	7 17.1	32 78.0	6 14.6	1 2.4	2 4.9	6 14.6	19 46.3	7 17.1	9 22.0
	30歳代	72 100.0	21 29.2	20 27.8	11 15.3	20 27.8	39 54.2	16 22.2	3 4.2	14 19.4	13 18.1	27 37.5	9 12.5	23 31.9
	40歳代	78 100.0	29 37.2	29 37.2	10 12.8	10 12.8	51 65.4	17 21.8	2 2.6	8 10.3	24 30.8	31 39.7	11 14.1	12 15.4
	50歳代	97 100.0	33 34.0	34 35.1	17 17.5	13 13.4	59 60.8	22 22.7	7 7.2	9 9.3	26 26.8	40 41.2	20 20.6	11 11.3
	60歳代	115 100.0	40 34.8	52 45.2	9 7.8	12 10.4	70 60.9	34 29.6	2 1.7	7 6.1	38 33.0	50 43.5	13 11.3	12 10.4
	70歳代以上	88 100.0	27 30.7	46 52.3	6 6.8	6 6.8	45 51.1	31 35.2	2 2.3	6 6.8	30 34.1	43 48.9	10 11.4	2 2.3

	全体	⑦社会通念・慣習・しきたりで				⑧社会全体で				
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	
全体	1195 100.0	933 78.1	116 9.7	33 2.8	97 8.1	867 72.6	152 12.7	57 4.8	105 8.8	
女性	20歳代	70 100.0	56 80.0	4 5.7	- -	10 14.3	53 75.7	5 7.1	1 1.4	11 15.7
	30歳代	106 100.0	90 84.9	2 1.9	1 0.9	12 11.3	82 77.4	9 8.5	1 0.9	14 13.2
	40歳代	113 100.0	102 90.3	1 0.9	1 0.9	9 8.0	99 87.6	1 0.9	2 1.8	11 9.7
	50歳代	150 100.0	131 87.3	9 6.0	2 1.3	7 4.7	128 85.3	5 3.3	5 3.3	11 7.3
	60歳代	154 100.0	108 70.1	18 11.7	6 3.9	18 11.7	110 71.4	18 11.7	6 3.9	17 11.0
	70歳代以上	92 100.0	66 71.7	15 16.3	2 2.2	4 4.3	58 63.0	19 20.7	3 3.3	7 7.6
男性	20歳代	41 100.0	35 85.4	3 7.3	- -	3 7.3	30 73.2	6 14.6	4 9.8	1 2.4
	30歳代	72 100.0	49 68.1	7 9.7	7 9.7	9 12.5	42 58.3	12 16.7	11 15.3	7 9.7
	40歳代	78 100.0	65 83.3	6 7.7	2 2.6	5 6.4	50 64.1	16 20.5	4 5.1	8 10.3
	50歳代	97 100.0	78 80.4	10 10.3	3 3.1	6 6.2	66 68.0	11 11.3	14 14.4	6 6.2
	60歳代	115 100.0	87 75.7	13 11.3	4 3.5	9 7.8	89 77.4	15 13.0	3 2.6	6 5.2
	70歳代以上	88 100.0	54 61.4	25 28.4	3 3.4	3 3.4	47 53.4	30 34.1	3 3.4	5 5.7

《参考》

内閣府と大阪府では、本調査とほぼ同じ時期に調査が実施されており、両調査結果の推移は以下のとおりである。

大阪府の平成16年の調査結果では、平成11年調査に比べ全般に『男性優遇』の割合がやや低くなり、「平等である」がやや高くなっている。大阪府調査（平成16年）と比較すると、男女とも「家庭生活で」と「職場の中で」では、本調査の方が『男性優遇』とする人の割合は高いが、その他の分野では本調査の方が『男性優遇』の割合は低くなっている。

世論調査（平成16年）と比較すると、「家庭生活で」、「職場で」、「社会通念・慣習・しきたり」では、男女とも『男性優遇』と回答している人の割合は本調査の方が世論調査を上回っており、女性では「職場で」で10.3ポイント高く、男性では「家庭生活で」で13.1ポイント高くなっている。

《表1-4 男女の地位の平等について》

	女性						男性					
	『男性優遇』		平等である		『女性優遇』		『男性優遇』		平等である		『女性優遇』	
	H11	H16	H11	H16	H11	H16	H11	H16	H11	H16	H11	H16
家庭生活で	73.5	60.6	15.1	25.1	5.2	7.6	53.1	50.3	34.6	34.6	6.3	9.9
職場の中で	76.9	70.0	8.3	11.8	3.1	4.1	66.3	57.4	17.6	22.4	8.5	7.7
学校教育の場で	32.1	18.0	40.0	52.5	21.8	4.6	13.9	17.0	58.8	51.6	5.6	6.8
法律や制度の上で	58.9	53.2	19.3	23.9	4.1	4.9	41.5	35.3	37.4	40.7	9.4	12.5
政治の場で	76.4	79.1	7.7	9.1	8.3	0.7	66.0	70.8	18.2	17.3	2.5	1.6
地域活動の場で	53.1	43.4	22.8	31.0	6.2	5.1	31.4	34.9	37.1	42.9	12.0	9.3
社会通念・慣習・しきたりなどで	87.0	84.5	3.3	6.7	1.9	1.2	80.2	80.5	6.6	10.3	3.7	3.2
全体として	83.0	76.4	6.0	11.6	1.9	2.2	72.6	68.6	15.1	22.4	5.3	3.8

男女協働社会の実現をめざす府民の意識調査（1999年・平成11年）

男女共同参画に関する府民意識調査（2004年・平成16年）

《表1-5 男女の地位の平等感》

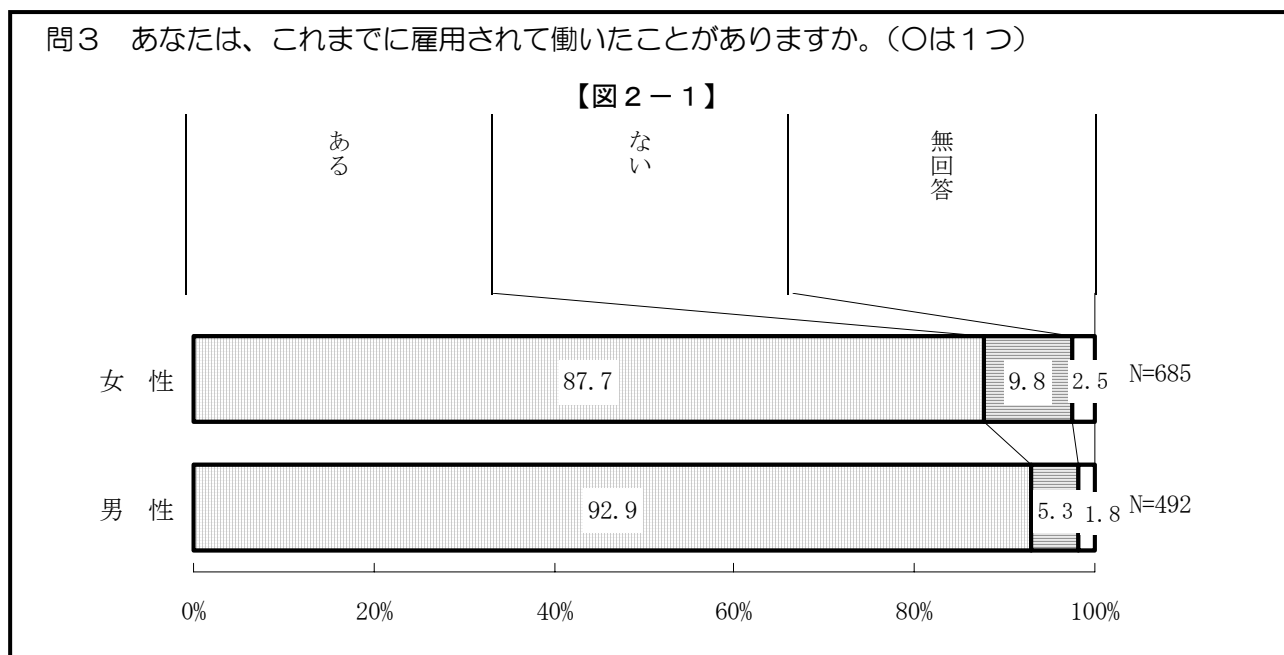
	女性						男性					
	『男性優遇』		平等である		『女性優遇』		『男性優遇』		平等である		『女性優遇』	
	H14	H16	H14	H16	H14	H16	H14	H16	H14	H16	H14	H16
家庭生活	57.5	56.6	34.3	33.9	4.8	7.0	41.5	40.8	47.8	46.9	7.5	9.5
職場	61.4	62.8	21.8	20.6	2.3	2.9	56.1	55.5	30.8	30.2	4.1	5.8
学校教育の場	16.9	15.9	60.9	64.1	3.0	3.0	11.8	11.1	65.6	70.0	4.1	4.2
法律や制度の上	55.9	53.3	27.4	30.9	3.5	3.6	39.4	37.6	46.2	49.2	6.2	6.7
政治の場	76.7	77.0	14.0	14.2	1.3	0.9	67.3	66.0	24.6	26.1	3.0	1.8
社会通念・慣習・しきたりなど	75.2	78.7	16.2	13.0	2.4	2.9	70.8	70.0	20.9	22.2	3.8	3.7
社会全体	80.7	79.7	14.4	14.9	1.8	2.9	68.3	67.1	25.7	26.1	3.9	5.0

男女共同参画社会に関する世論調査（2002年・平成14年）

男女共同参画社会に関する世論調査（2004年・平成16年）

2. 仕事について

問3 あなたは、これまでに雇用されて働いたことがありますか。(○は1つ)



【性別】

雇用されて働いた経験は、「ある」が女性では87.7%、男性では92.9%となっており、男性の方がやや高い。

【性・年代別】

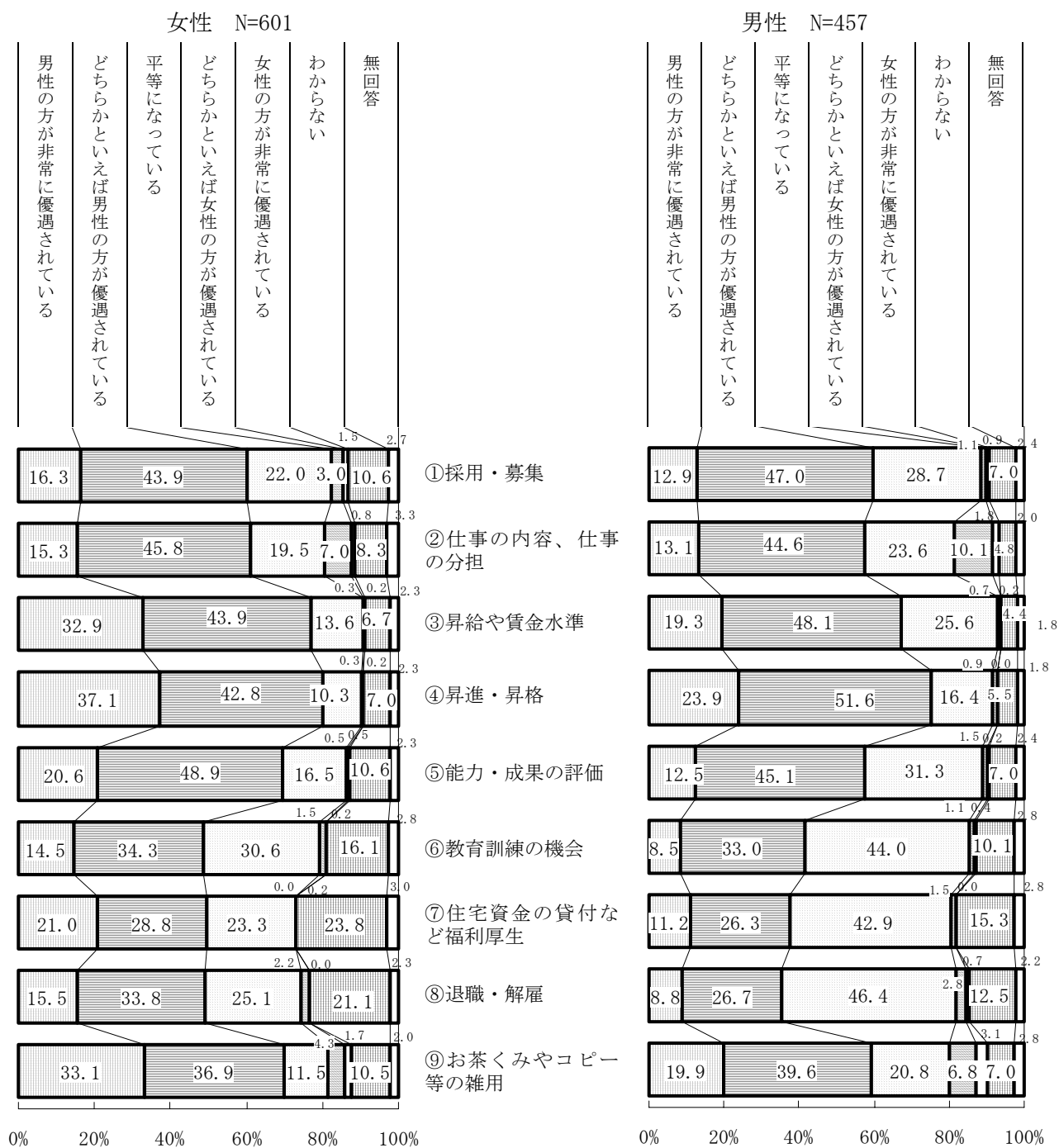
男性 20 歳代の 4 割は学生であるため雇用されて働いた経験のある人は 6 割強であるが、男女ともほとんどが雇用されて働いた経験がある。

【表2-1 性・年代別】

	全体	ある	ない	無回答
全体	1195 100.0	1071 89.6	97 8.1	27 2.3
女性 20 歳代	70 100.0	58 82.9	12 17.1	-
女性 30 歳代	106 100.0	103 97.2	3 2.8	-
女性 40 歳代	113 100.0	109 96.5	4 3.5	-
女性 50 歳代	150 100.0	136 90.7	13 8.7	1 0.7
女性 60 歳代	154 100.0	127 82.5	20 13.0	7 4.5
女性 70 歳代以上	92 100.0	68 73.9	15 16.3	9 9.8
男性 20 歳代	41 100.0	26 63.4	14 34.1	1 2.4
男性 30 歳代	72 100.0	69 95.8	3 4.2	-
男性 40 歳代	78 100.0	77 98.7	1 1.3	-
男性 50 歳代	97 100.0	94 96.9	3 3.1	-
男性 60 歳代	115 100.0	110 95.7	2 1.7	3 2.6
男性 70 歳代以上	88 100.0	80 90.9	3 3.4	5 5.7

問4 あなたは、職場で次の①～⑨の項目について男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれに1つ)

【図2-2】



【性別】

雇用されて働いた経験のある人に、職場での男女平等についてきくと、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』は男女とも④「昇進・昇格」が最も高く、女性は約8割にのぼる。次に③「昇給や賃金水準」が女性では76.8%、男性では67.4%となっている。全ての項目で『男性優遇』の割合は女性の方が男性よりも高く、「平等になっている」と回答した割合は男性の方が女性より高くなっている。

これらの項目の中で、⑧「退職・解雇」、⑦「住宅資金の貸付など福利厚生」は特に男女の平等

感の違いが大きい。女性の方が『男性優遇』が 10 ポイント以上高い一方「平等になっている」は約 20 ポイント低い。

【性・年代別】

女性 20 歳代は全ての項目で、他の年代よりも『男性優遇』が低い。

① 採用・募集

男女とも 50 歳代以上は 40 歳代以下よりも『男性優遇』が高い。女性 20 歳代の 1 割は『女性優遇』と回答している。

② 仕事の内容、仕事の分担

採用・募集と同様の傾向で、男女とも 50 歳代以上は『男性優遇』が高い。女性 20 歳代の 17.2%は『女性優遇』と回答し女性の中では高い。

③ 昇給や賃金水準

女性の 50 歳代、60 歳代では『男性優遇』が 8 割を超える。

④ 昇進・昇格

昇給や賃金水準と同様に『男性優遇』の高い項目である。女性では 40 歳代以上、男性では 50 歳代以上は『男性優遇』が 8 割を超える。特に男性は 40 歳代以下との差が大きい。

⑤ 能力・成果の評価

女性 40 歳代以上と男性 70 歳以上では、『男性優遇』が 7 割を超えており他の年代より高い。

⑥ 教育訓練の機会

男性 20 歳代は、『平等』が 5 割を超えており、女性 20 歳代と 30 歳代でも 4 割を超えて他の年代よりも高くなっている。

⑦ 住宅資金の貸付など福利厚生

男性の 50 歳代以下は、『平等』が『男性優遇』を上回り、女性は 20 歳代で『平等』が『男性優遇』よりやや高い。しかし、女性の 30 歳代以上は『男性優遇』が 4～5 割で平等よりもかなり高い。

⑧ 退職・解雇

福利厚生と同様の傾向で、男性 20 歳代～60 歳代は、『平等』が『男性優遇』を上回る。女性 20 歳代は『平等』と『男性優遇』が同じ割合である。しかし、女性の 30 歳代以上は『男性優遇』の方が高い。

⑨ お茶くみやコピー等の雑用

男女とも『男性優遇』は高い。中でも女性 40 歳代は『男性優遇』が 8 割近い。

【表2-2 性・年代別】

	全体	①採用・募集				②仕事の内容、仕事の分担				③昇給や賃金水準			
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない
全体	1071 100.0	642 59.9	266 24.8	37 3.5	98 9.2	639 59.7	228 21.3	101 9.4	73 6.8	776 72.5	205 19.1	7 0.7	60 5.6
女性	20歳代	58 100.0	25 43.1	18 31.0	6 10.3	25 43.1	14 24.1	10 17.2	6 10.3	36 62.1	15 25.9	- -	4 6.9
	30歳代	103 100.0	60 58.3	25 24.3	3 12.6	56 54.4	23 22.3	6 5.8	15 14.6	79 76.7	17 16.5	- -	5 4.9
	40歳代	109 100.0	59 54.1	29 26.6	7 12.8	67 61.5	21 19.3	8 7.3	10 9.2	85 78.0	14 12.8	- -	8 7.3
	50歳代	136 100.0	89 65.4	27 19.9	3 2.2	13 67.6	26 19.1	9 6.6	8 5.9	110 80.9	18 13.2	- -	8 5.9
	60歳代	127 100.0	84 66.1	23 18.1	5 3.9	12 65.4	26 20.5	11 8.7	4 3.1	104 81.9	13 10.2	2 1.6	6 4.7
	70歳代以上	68 100.0	45 66.2	10 14.7	3 4.4	6 64.7	7 10.3	3 4.4	7 10.3	48 70.6	5 7.4	1 1.5	9 13.2
男性	20歳代	26 100.0	15 57.7	8 30.8	- 7.7	15 57.7	8 30.8	1 3.8	1 3.8	12 46.2	12 46.2	- -	2 7.7
	30歳代	69 100.0	38 55.1	16 23.2	4 13.0	33 47.8	13 18.8	13 18.8	7 10.1	40 58.0	18 26.1	1 1.4	7 10.1
	40歳代	77 100.0	37 48.1	31 40.3	3 3.9	5 46.8	19 24.7	16 20.8	5 6.5	42 54.5	27 35.1	1 1.3	6 7.8
	50歳代	94 100.0	57 60.6	24 25.5	2 2.1	8 57.4	21 22.3	14 14.9	4 4.3	71 75.5	21 22.3	1 1.1	- -
	60歳代	110 100.0	72 65.5	29 26.4	- -	6 63.6	25 22.7	10 9.1	3 2.7	79 71.8	24 21.8	1 0.9	4 3.6
	70歳代以上	80 100.0	54 67.5	23 28.8	- -	2 70.0	21 26.3	- -	2 2.5	63 78.8	15 18.8	- -	1 1.3

	全体	④昇進・昇格				⑤能力・成果の評価				⑥教育訓練の機会			
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない
全体	1071 100.0	832 77.7	140 13.1	7 0.7	69 6.4	688 64.2	244 22.8	14 1.3	99 9.2	489 45.7	388 36.2	17 1.6	146 13.6
女性	20歳代	58 100.0	40 69.0	11 19.0	3 5.2	33 56.9	16 27.6	1 1.7	5 8.6	18 31.0	25 43.1	2 3.4	10 17.2
	30歳代	103 100.0	80 77.7	17 16.5	- 3.9	4 60.2	27 26.2	- -	12 11.7	43 41.7	42 40.8	3 2.9	13 12.6
	40歳代	109 100.0	91 83.5	7 6.4	- 9.2	10 71.6	15 13.8	1 0.9	14 12.8	64 58.7	31 28.4	- -	13 11.9
	50歳代	136 100.0	112 82.4	14 10.3	- 7.4	10 75.7	22 16.2	1 0.7	8 5.9	75 55.1	38 27.9	3 2.2	19 14.0
	60歳代	127 100.0	102 80.3	11 8.7	1 0.8	9 73.2	13 10.2	1 0.8	15 11.8	63 49.6	31 24.4	1 0.8	27 21.3
	70歳代以上	68 100.0	55 80.9	2 2.9	1 1.5	6 72.1	6 8.8	2 2.9	10 14.7	30 44.1	17 25.0	1 1.5	15 22.1
男性	20歳代	26 100.0	14 53.8	8 30.8	- 15.4	4 50.0	10 38.5	1 3.8	2 7.7	8 30.8	14 53.8	1 3.8	2 7.7
	30歳代	69 100.0	43 62.3	13 18.8	1 13.0	9 47.8	20 29.0	3 4.3	10 14.5	21 30.4	28 40.6	3 4.3	13 18.8
	40歳代	77 100.0	47 61.0	23 29.9	- 7.8	6 48.1	28 36.4	3 3.9	7 9.1	30 39.0	36 46.8	1 1.3	9 11.7
	50歳代	94 100.0	77 81.9	13 13.8	2 1.1	1 62.8	29 30.9	- -	5 5.3	42 44.7	44 46.8	1 1.1	6 6.4
	60歳代	110 100.0	93 84.5	10 9.1	1 0.9	4 56.4	39 35.5	1 0.9	5 4.5	52 47.3	43 39.1	1 0.9	11 10.0
	70歳代以上	80 100.0	70 87.5	8 10.0	- 1.3	1 72.5	17 21.3	- -	3 3.8	36 45.0	36 45.0	- -	5 6.3

【表2-2 性・年代別】

	全体	⑦住宅資金の貸付など福利厚生				⑧退職・解雇				⑨お茶くみやコピー等の雑用				
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	
全体	1071 100.0	476 44.4	338 31.6	8 0.7	216 20.2	463 43.2	367 34.3	30 2.8	186 17.4	700 65.4	165 15.4	84 7.8	96 9.0	
女性	20歳代	58 100.0	18 31.0	19 32.8	- -	18 31.0	19 32.8	19 32.8	1 1.7	16 27.6	34 58.6	8 13.8	5 8.6	8 13.8
	30歳代	103 100.0	44 42.7	29 28.2	- -	28 27.2	46 44.7	36 35.0	2 1.9	17 16.5	73 70.9	19 18.4	3 2.9	6 5.8
	40歳代	109 100.0	62 56.9	24 22.0	- -	21 19.3	62 56.9	21 19.3	2 1.8	23 21.1	85 78.0	14 12.8	3 2.8	6 5.5
	50歳代	136 100.0	74 54.4	34 25.0	1 0.7	26 19.1	78 57.4	31 22.8	4 2.9	22 16.2	97 71.3	11 8.1	8 5.9	20 14.7
	60歳代	127 100.0	71 55.9	19 15.0	- -	31 24.4	63 49.6	29 22.8	3 2.4	28 22.0	88 69.3	10 7.9	9 7.1	16 12.6
	70歳代以上	68 100.0	30 44.1	15 22.1	- -	19 27.9	28 41.2	15 22.1	1 1.5	21 30.9	44 64.7	7 10.3	8 11.8	7 10.3
男性	20歳代	26 100.0	5 19.2	15 57.7	- -	6 23.1	8 30.8	12 46.2	1 3.8	5 19.2	14 53.8	7 26.9	2 7.7	2 7.7
	30歳代	69 100.0	19 27.5	25 36.2	2 2.9	19 27.5	19 27.5	30 43.5	4 5.8	13 18.8	35 50.7	16 23.2	8 11.6	7 10.1
	40歳代	77 100.0	20 26.0	42 54.5	1 1.3	13 16.9	19 24.7	42 54.5	3 3.9	12 15.6	45 58.4	19 24.7	4 5.2	7 9.1
	50歳代	94 100.0	38 40.4	41 43.6	3 3.2	11 11.7	34 36.2	39 41.5	4 4.3	16 17.0	61 64.9	19 20.2	7 7.4	6 6.4
	60歳代	110 100.0	53 48.2	40 36.4	- -	12 10.9	44 40.0	55 50.0	2 1.8	6 5.5	69 62.7	18 16.4	15 13.6	4 3.6
	70歳代以上	80 100.0	36 45.0	32 40.0	1 1.3	9 11.3	38 47.5	33 41.3	2 2.5	5 6.3	48 60.0	15 18.8	9 11.3	6 7.5

【性・職業別/性・就労形態別】

男女とも、雇用者よりも自営業・家族従業者等や家事専業・無職の方が『男性優遇』が高い傾向である。

就労形態別では、女性の長時間パートタイムの『男性優遇』が全ての項目で高い。

【表2-3 性・職業別/性・就労形態別】

	全体	①採用・募集				②仕事の内容、仕事の分担				③昇給や賃金水準				
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	
全体	1071 100.0	642 59.9	266 24.8	37 3.5	98 9.2	639 59.7	228 21.3	101 9.4	73 6.8	776 72.5	205 19.1	7 0.7	60 5.6	
女性	自営業・家族従業者等	55 100.0	36 65.5	13 23.6	0 0.0	5 9.1	36 65.5	10 18.2	6 10.9	2 3.6	38 69.1	11 20.0	0 0.0	5 9.1
	雇用者	294 100.0	169 57.4	66 22.4	15 5.1	36 12.2	170 57.8	64 21.8	22 7.5	27 9.2	227 77.2	42 14.3	0 0.0	18 6.1
	家事専業・無職	245 100.0	155 63.3	50 20.4	10 4.1	23 9.4	159 64.9	41 16.7	16 6.5	21 8.6	191 78.0	28 11.4	3 1.2	17 6.9
男性	自営業・家族従業者等	46 100.0	30 65.2	11 23.9	1 2.2	2 4.3	29 63.0	8 17.4	7 15.2	1 2.2	37 80.4	6 13.0	1 2.2	2 4.3
	雇用者	247 100.0	134 54.2	76 30.8	7 2.8	22 8.9	124 50.2	59 23.9	42 17.0	14 5.7	144 58.3	80 32.4	3 1.2	12 4.9
	家事専業・無職	160 100.0	107 66.9	43 26.9	1 0.6	8 5.0	107 66.9	41 25.6	5 3.2	7 4.4	125 78.1	29 18.1	0 0.0	6 3.8
女性	常勤フルタイム	143 100.0	86 60.2	33 23.1	9 6.3	14 9.8	81 56.7	36 25.2	11 7.7	12 8.4	108 75.6	27 18.9	0 0.0	7 4.9
	長時間パートタイム	55 100.0	40 72.7	10 18.2	1 1.8	3 5.5	39 70.9	4 7.3	4 7.3	7 12.7	48 87.2	3 5.5	0 0.0	3 5.5
	短時間パートタイム	84 100.0	36 42.9	21 25.0	4 4.8	17 20.2	43 51.2	22 26.2	5 6.0	7 8.3	61 72.6	10 11.9	0 0.0	8 9.5
男性イム	205 100.0	115 56.1	64 31.2	6 3.0	15 7.3	106 51.7	51 24.9	33 16.1	10 4.9	122 59.5	67 32.7	3 1.5	8 3.9	

【表2-3 性・職業別/性・就労形態別】

	全体	④昇進・昇格				⑤能力・成果の評価				⑥教育訓練の機会				
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	
全体	1071 100.0	832 77.7	140 13.1	7 0.7	69 6.4	688 64.2	244 22.8	14 1.3	99 9.2	489 45.7	388 36.2	17 1.6	146 13.6	
女性	自営業・家族従業者等	55 100.0	39 70.9	13 23.6	0 0.0	3 5.5	39 71.0	9 16.4	0 0.0	6 10.9	33 60.0	9 16.4	0 0.0	11 20.0
	雇用者	294 100.0	234 79.6	30 10.2	1 0.3	21 7.1	197 67.0	53 18.0	2 0.6	34 11.6	139 47.3	100 34.0	6 2.0	41 13.9
	家事専業・無職	245 100.0	201 82.1	18 7.3	2 0.8	18 7.3	179 73.1	34 13.9	4 1.6	23 9.4	119 48.6	71 29.0	4 1.6	44 18.0
男性	自営業・家族従業者等	46 100.0	37 80.5	6 13.0	1 2.2	2 4.3	29 63.1	12 26.1	1 2.2	4 8.7	25 54.4	16 34.8	1 2.2	4 8.7
	雇用者	247 100.0	168 68.1	53 21.5	3 1.2	15 6.1	130 52.7	85 34.4	6 2.4	17 6.9	93 37.6	113 45.7	5 2.0	26 10.5
	家事専業・無職	160 100.0	137 85.7	15 9.4	0 0.0	8 5.0	102 63.8	45 28.1	1 0.6	10 6.3	70 43.8	71 44.4	1 0.6	15 9.4
女性	常勤フルタイム	143 100.0	117 81.9	19 13.3	0 0.0	6 4.2	95 66.5	28 19.6	2 1.4	17 11.9	68 47.6	58 40.6	1 0.7	15 10.5
	長時間パートタイム	55 100.0	47 85.5	3 5.5	0 0.0	4 7.3	38 69.1	10 18.2	0 0.0	6 10.9	30 54.6	13 23.6	1 1.8	10 18.2
	短時間パートタイム	84 100.0	61 72.6	5 6.0	1 1.2	11 13.1	55 65.4	13 15.5	0 0.0	10 11.9	36 42.9	25 29.8	3 3.6	14 16.7
男性イム	205 100.0	140 68.3	46 22.4	3 1.5	11 5.4	112 54.7	71 34.6	5 2.5	11 5.4	79 38.6	99 48.3	3 1.5	17 8.3	

	全体	⑦住宅資金の貸付など福利厚生				⑧退職・解雇				⑨お茶くみやコピー等の雑用				
		男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	男性優遇	平等	女性優遇	わからない	
全体	1071 100.0	476 44.4	338 31.6	8 0.7	216 20.2	463 43.2	367 34.3	30 2.8	186 17.4	700 65.4	165 15.4	84 7.8	96 9.0	
女性	自営業・家族従業者等	55 100.0	35 63.6	8 14.5	0 0.0	10 18.2	27 49.0	10 18.2	2 3.6	14 25.5	40 72.8	3 5.5	5 10.9	
	雇用者	294 100.0	141 47.9	77 26.2	1 0.3	66 22.4	141 47.9	86 29.3	8 2.7	51 17.3	194 66.0	45 15.3	18 6.1	29 9.9
	家事専業・無職	245 100.0	123 50.2	52 21.2	0 0.0	63 25.7	126 51.4	54 22.0	3 1.2	58 23.7	181 73.9	21 8.6	12 4.9	28 11.4
男性	自営業・家族従業者等	46 100.0	25 54.3	12 26.1	1 2.2	7 15.2	21 45.6	18 39.1	1 2.2	6 13.0	31 67.4	7 15.2	4 8.7	3 6.5
	雇用者	247 100.0	79 32.0	117 47.4	5 2.0	37 15.0	71 28.8	118 47.8	13 5.2	37 15.0	137 55.5	60 24.3	23 9.3	18 7.3
	家事専業・無職	160 100.0	66 41.3	65 40.6	1 0.6	25 15.6	67 41.9	75 46.9	2 1.3	14 8.8	100 62.5	28 17.5	18 11.3	11 6.9
女性	常勤フルタイム	143 100.0	61 42.7	51 35.7	0 0.0	29 20.3	65 45.5	49 34.3	5 3.5	23 16.1	99 69.3	28 19.6	4 2.8	11 7.7
	長時間パートタイム	55 100.0	33 60.0	7 12.7	0 0.0	14 25.5	27 49.1	15 27.3	2 3.6	10 18.2	43 78.2	2 3.6	5 9.1	4 7.3
	短時間パートタイム	84 100.0	43 51.2	15 17.9	1 1.2	19 22.6	40 47.7	21 25.0	1 1.2	16 19.0	45 53.6	12 14.3	9 10.7	12 14.3
男性イム	205 100.0	65 31.7	105 51.2	3 1.5	26 12.7	57 27.8	105 51.2	12 5.9	26 12.7	115 56.1	51 24.9	20 9.7	13 6.3	

《参考》

大阪府調査（平成 16 年）と比較すると、本調査結果は、男女とも「平等になっている」の割合が大阪府調査結果よりも低くなっている。

《表 2-4 職場における男女平等感》

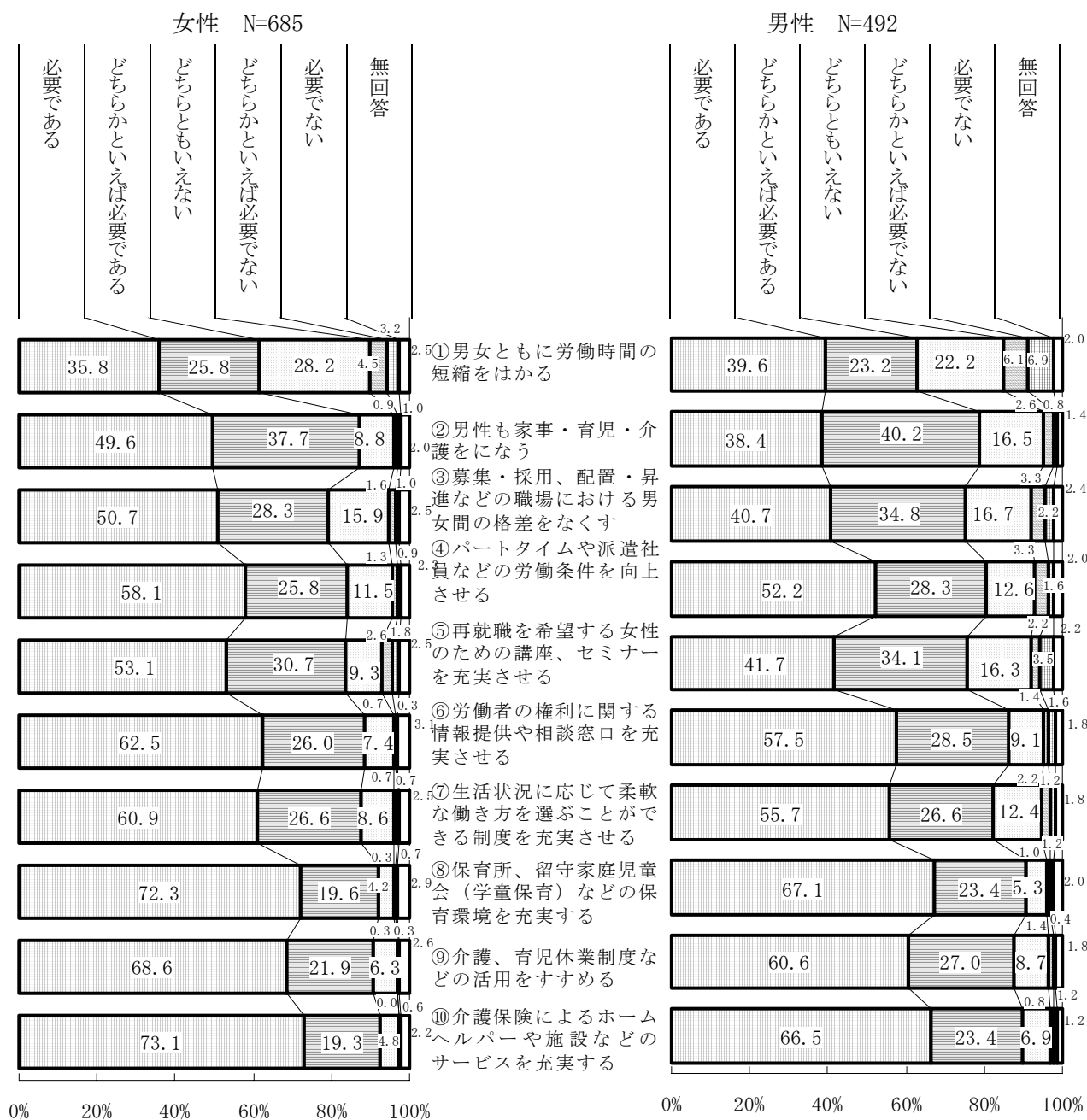
	女性				男性			
	全体	男性優遇	平等になっている	女性優遇	全体	男性優遇	平等になっている	女性優遇
採用・募集	601	60.2	22.0	4.5	457	59.9	28.7	2.0
募集・採用の仕方	238	22.7	37.8	12.2	228	32.5	42.1	2.6
仕事の内容、仕事の分担	601	61.1	19.5	7.8	457	57.7	23.6	11.9
仕事の内容	238	25.2	42.4	7.6	228	29.4	35.1	15.8
昇給や賃金水準	601	76.8	13.6	0.5	457	67.4	25.6	0.9
賃金	238	37.4	33.2	-	228	36.8	37.3	2.2
昇進・昇格	601	79.9	10.3	0.5	457	75.5	16.4	0.9
昇進・昇格	238	45.4	23.1	2.1	228	39.5	30.7	2.6
能力・成果の評価	601	69.5	16.5	1.0	457	57.6	31.3	1.7
能力評価	238	33.6	27.3	1.3	228	28.5	38.6	4.4
教育訓練の機会	601	48.8	30.6	1.7	457	41.5	44.0	1.5
研修の頻度や内容	238	18.5	40.3	1.3	228	21.9	45.6	2.2

上段：本調査結果 下段：男女共同参画に関する府民意識調査（大阪府 平成 16 年）

※本調査結果の『女性優遇』は「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計で、『男性優遇』は「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計
いずれの調査結果とも、「わからない」と無回答は省略している

問5 これから男女が働きやすい社会の環境をつくるためには、次の①～⑩の項目についてどう思いますか。(〇はそれぞれに1つ)

【図2-3】



【性別】

「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合計した『必要』の割合は、女性では⑩「介護保険によるホームヘルパーや施設などのサービスを充実する」(92.4%)と⑧「保育所、留守家庭児童会(学童保育)などの保育環境を充実する」(91.9%)、⑨「介護、育児休業制度などの活用をすすめる」(90.5%)で9割を超える。男性では、⑧「保育所、留守家庭児童会(学童保育)などの保育環境を充実する」が90.5%で最も高い。育児や介護と仕事との両立支援に関しては、男女ともほとんどの人が『必要』と考えている。

ほぼ全ての項目で女性の方が『必要』の回答割合が高い中で、①「男女ともに労働時間の短縮をはかる」のみ男性の方がやや高い。

【性・年代別】

男女とも 60 歳代以上で『必要』の回答割合がやや低い程度で、年代による違いはあまりみられない。

① 男女ともに労働時間の短縮をはかる

男女とも 30 歳代で『必要』の回答割合が高い。

② 男性も家事・育児・介護をにやう

女性では 50 歳代以下は 9 割以上が『必要』と回答している。男性では 20 歳代は 9 割が『必要』と回答している。

③ 募集・採用、配置・昇進などの職場における男女間の格差をなくす

女性 20 歳代では 9 割以上が、30 歳代～50 歳代は 8 割が『必要』と回答している。

④ パートタイムや派遣社員などの労働条件を向上させる

女性はパートタイマーで働く人が多い年代の 40 歳代、50 歳代で『必要』の割合が高い。

⑤ 再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実させる

前問と同様、女性 40 歳代で『必要』が高く、9 割近い。

⑥ 労働者の権利に関する情報提供や相談窓口を充実させる

男性の 40 歳代が低い以外、『必要』の回答割合に年代の違いはほとんどない。

⑦ 生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる制度を充実させる

男性は年代による違いはほとんどない。女性は 40 歳代以下は『必要』がやや高い。

⑧ 保育所、留守家庭児童会（学童保育）などの保育環境を充実する

男女とも年代による違いはみられず、全体に『必要』が高い。

⑨ 介護、育児休業制度などの活用をすすめる

50 歳代以下の女性は 60 歳代以上よりも『必要』が、やや高い。男性の年代による違いは小さい。

⑩ 介護保険によるホームヘルパーや施設などのサービスを充実する

全体で『必要』が最も高い項目である。男女とも、どの年代も 9 割前後の回答である。

【表 2-5 性・年代別】

		全体	①男女ともに労働時間の短縮をはかる			②男性も家事・育児・介護をにやう			③募集・採用、配置・昇進などの職場における男女間の格差をなくす		
			必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない
全体		1195 100.0	742 62.1	307 25.7	118 9.9	998 83.5	145 12.1	30 2.5	922 77.2	197 16.5	45 3.8
女性	20 歳代	70 100.0	47 67.1	14 20.0	8 11.4	63 90.0	6 8.6	-	64 91.4	5 7.1	-
	30 歳代	106 100.0	75 70.8	25 23.6	6 5.7	96 90.6	8 7.5	2 1.9	86 81.1	17 16.0	3 2.8
	40 歳代	113 100.0	72 63.7	35 31.0	4 3.5	104 92.0	4 3.5	3 2.7	97 85.8	11 9.7	3 2.7
	50 歳代	150 100.0	86 57.3	51 34.0	12 8.0	137 91.3	10 6.7	1 0.7	120 80.0	27 18.0	2 1.3
	60 歳代	154 100.0	93 60.4	42 27.3	12 7.8	127 82.5	20 13.0	3 1.9	104 67.5	37 24.0	8 5.2
	70 歳代以上	92 100.0	49 53.3	26 28.3	11 12.0	71 77.2	12 13.0	4 4.3	70 76.1	12 13.0	2 2.2
	男性	20 歳代	41 100.0	27 65.9	6 14.6	8 19.5	37 90.2	3 7.3	1 2.4	31 75.6	7 17.1
30 歳代		72 100.0	50 69.4	17 23.6	4 5.6	61 84.7	10 13.9	-	55 76.4	11 15.3	4 5.6
40 歳代		78 100.0	45 57.7	17 21.8	15 19.2	61 78.2	14 17.9	3 3.8	63 80.8	9 11.5	4 5.1
50 歳代		97 100.0	63 64.9	15 15.5	18 18.6	83 85.6	11 11.3	3 3.1	70 72.2	21 21.6	6 6.2
60 歳代		115 100.0	69 60.0	28 24.3	12 10.4	83 72.2	22 19.1	6 5.2	85 73.9	18 15.7	8 7.0
70 歳代以上		88 100.0	54 61.4	26 29.5	7 8.0	61 69.3	21 23.9	4 4.5	66 75.0	16 18.2	2 2.3

【表2-5 性・年代別】

	全体	④パートタイムや派遣社員などの労働条件を向上させる			⑤再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実させる			⑥労働者の権利に関する情報提供や相談窓口を充実させる			
		必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	
全体	1195 100.0	985 82.4	144 12.1	39 3.3	960 80.3	147 12.3	58 4.9	1044 87.4	97 8.1	23 1.9	
女性	20歳代	70 100.0	54 77.1	9 12.9	6 8.6	57 81.4	10 14.3	2 2.9	64 91.4	4 5.7	1 1.4
	30歳代	106 100.0	85 80.2	17 16.0	4 3.8	88 83.0	10 9.4	8 7.5	95 89.6	8 7.5	3 2.8
	40歳代	113 100.0	100 88.5	9 8.0	2 1.8	101 89.4	8 7.1	2 1.8	101 89.4	8 7.1	- -
	50歳代	150 100.0	131 87.3	17 11.3	1 0.7	122 81.3	20 13.3	6 4.0	133 88.7	15 10.0	1 0.7
	60歳代	154 100.0	130 84.4	18 11.7	1 0.6	130 84.4	9 5.8	10 6.5	134 87.0	12 7.8	2 1.3
	70歳代以上	92 100.0	75 81.5	9 9.8	1 1.1	76 82.6	7 7.6	2 2.2	79 85.9	4 4.3	- -
男性	20歳代	41 100.0	29 70.7	8 19.5	4 9.8	32 78.0	6 14.6	3 7.3	37 90.2	3 7.3	1 2.4
	30歳代	72 100.0	57 79.2	9 12.5	4 5.6	44 61.1	19 26.4	7 9.7	62 86.1	4 5.6	4 5.6
	40歳代	78 100.0	61 78.2	11 14.1	6 7.7	52 66.7	21 26.9	5 6.4	59 75.6	15 19.2	4 5.1
	50歳代	97 100.0	84 86.6	11 11.3	2 2.1	75 77.3	18 18.6	4 4.1	85 87.6	10 10.3	2 2.1
	60歳代	115 100.0	94 81.7	12 10.4	5 4.3	92 80.0	11 9.6	6 5.2	97 84.3	10 8.7	4 3.5
	70歳代以上	88 100.0	70 79.5	11 12.5	3 3.4	77 87.5	5 5.7	3 3.4	82 93.2	3 3.4	- -

	全体	⑦生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる制度を充実させる			⑧保育所、留守家庭児童会（学童保育）などの保育環境を充実させる			⑨介護、育児休業制度などの活用をすすめる			
		必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	
全体	1195 100.0	1019 85.3	121 10.1	28 2.3	1089 91.1	57 4.8	18 1.5	1066 89.2	88 7.4	13 1.1	
女性	20歳代	70 100.0	64 91.4	4 5.7	1 1.4	66 94.3	3 4.3	-	66 94.3	3 4.3	-
	30歳代	106 100.0	99 93.4	4 3.8	3 2.8	99 93.4	5 4.7	2 1.9	97 91.5	9 8.5	-
	40歳代	113 100.0	103 91.2	6 5.3	2 1.8	106 93.8	3 2.7	1 0.9	106 93.8	5 4.4	-
	50歳代	150 100.0	133 88.7	14 9.3	2 1.3	137 91.3	10 6.7	2 1.3	141 94.0	6 4.0	2 1.3
	60歳代	154 100.0	123 79.9	23 14.9	2 1.3	137 89.0	8 5.2	2 1.3	130 84.4	17 11.0	2 1.3
	70歳代以上	92 100.0	77 83.7	8 8.7	-	84 91.3	-	-	80 87.0	3 3.3	-
男性	20歳代	41 100.0	34 82.9	7 17.1	-	37 90.2	3 7.3	1 2.4	36 87.8	5 12.2	-
	30歳代	72 100.0	58 80.6	9 12.5	3 4.2	64 88.9	3 4.2	2 2.8	62 86.1	8 11.1	1 1.4
	40歳代	78 100.0	67 85.9	8 10.3	3 3.8	72 92.3	3 3.8	3 3.8	72 92.3	4 5.1	2 2.6
	50歳代	97 100.0	81 83.5	10 10.3	5 5.2	87 89.7	8 8.2	2 2.1	85 87.6	9 9.3	3 3.1
	60歳代	115 100.0	91 79.1	15 13.0	5 4.3	103 89.6	5 4.3	3 2.6	97 84.3	10 8.7	3 2.6
	70歳代以上	88 100.0	73 83.0	12 13.6	1 1.1	81 92.0	4 4.5	-	78 88.6	7 8.0	-

【表2-5 性・年代別】

	全体	⑩介護保険によるホームヘルパーや施設などのサービスを充実する			
		必要	どちらともいえない	必要でない	
全体	1195 100.0	1091 91.3	68 5.7	14 1.2	
女性	20歳代	70 100.0	67 95.7	2 2.9	- -
	30歳代	106 100.0	98 92.5	6 5.7	2 1.9
	40歳代	113 100.0	108 95.6	3 2.7	- -
	50歳代	150 100.0	139 92.7	9 6.0	1 0.7
	60歳代	154 100.0	138 89.6	10 6.5	1 0.6
	70歳代以上	92 100.0	83 90.2	3 3.3	- -
男性	20歳代	41 100.0	37 90.2	2 4.9	2 4.9
	30歳代	72 100.0	62 86.1	9 12.5	- -
	40歳代	78 100.0	69 88.5	6 7.7	3 3.8
	50歳代	97 100.0	91 93.8	5 5.2	1 1.0
	60歳代	115 100.0	103 89.6	6 5.2	2 1.7
	70歳代以上	88 100.0	79 89.8	6 6.8	2 2.3

【性・職業別/性・就労形態別】

いずれの項目も女性の場合、雇用者は『必要』の割合がやや高い。

①「男女ともに労働時間の短縮をはかる」では、女性常勤フルタイムは他よりも『必要』の割合が高く、④「パートタイムや派遣社員などの労働条件を向上させる」では、長時間・短時間パートタイムは『必要』の割合が特に高くなっている。

【表2-6 性・職業別/性・就労形態別】

	全体	①男女ともに労働時間の短縮をはかる			②男性も家事・育児・介護をになう			③募集・採用、配置・昇進などの職場における男女間の格差をなくす			
		必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	
全体	1195 100.0	742 62.1	307 25.7	118 9.9	998 83.5	145 12.1	30 2.5	922 77.2	197 16.5	45 3.8	
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	36 54.6	19 28.8	8 12.1	54 81.8	7 10.6	1 1.5	52 78.8	9 13.6	1 1.5
	雇用者	294 100.0	198 67.3	75 25.5	18 6.1	269 91.5	20 6.8	2 0.6	249 84.7	37 12.6	6 2.0
	家事専業・無職	303 100.0	177 58.4	91 30.0	25 8.2	256 84.5	31 10.2	10 3.4	222 73.3	62 20.5	9 3.0
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	26 49.0	12 22.6	15 28.3	38 71.7	13 24.5	2 3.8	41 77.3	7 13.2	4 7.6
	雇用者	247 100.0	165 66.8	46 18.6	31 12.6	204 82.6	33 13.4	7 2.8	188 76.1	41 16.6	13 5.2
	家事専業・無職	172 100.0	104 60.5	48 27.9	15 8.7	128 74.4	33 19.2	8 4.6	129 75.0	30 17.4	8 4.6
女性	常勤フルタイム	143 100.0	105 73.5	28 19.6	10 7.0	128 89.5	13 9.1	2 1.4	123 86.0	19 13.3	1 0.7
	長時間パートタイム	55 100.0	35 63.6	18 32.7	2 3.6	51 92.7	3 5.5	0 0.0	50 90.9	4 7.3	1 1.8
	短時間パートタイム	84 100.0	51 60.7	26 31.0	4 4.8	80 95.3	2 2.4	0 0.0	66 78.6	13 15.5	3 3.6
男性イム	205 100.0	137 66.9	38 18.5	28 13.7	171 83.5	29 14.1	5 2.5	158 77.1	34 16.6	11 5.4	

【表2-6 性・職業別/性・就労形態別】

	全体	④パートタイムや派遣社員などの労働条件を向上させる			⑤再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実させる			⑥労働者の権利に関する情報提供や相談窓口を充実させる			
		必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	
全体	1195 100.0	985 82.4	144 12.1	39 3.3	960 80.3	147 12.3	58 4.9	1044 87.4	97 8.1	23 1.9	
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	50 75.7	9 13.6	3 4.5	54 81.8	5 7.6	3 4.5	56 84.9	5 7.6	1 1.5
	雇用者	294 100.0	256 87.1	30 10.2	6 2.1	248 84.3	29 9.9	14 4.8	268 91.2	17 5.8	5 1.7
	家事専業・無職	303 100.0	255 84.2	34 11.2	5 1.6	253 83.5	28 9.2	13 4.3	266 87.8	25 8.3	1 0.3
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	44 83.0	6 11.3	3 5.7	40 75.4	10 18.9	3 5.7	41 77.4	8 15.1	4 7.6
	雇用者	247 100.0	197 79.7	32 13.0	14 5.6	175 70.9	52 21.1	16 6.4	208 84.2	26 10.5	9 3.6
	家事専業・無職	172 100.0	140 81.4	21 12.2	6 3.4	143 83.1	15 8.7	7 4.1	156 90.7	10 5.8	1 0.6
女性	常勤フルタイム	143 100.0	114 79.7	23 16.1	6 4.2	118 82.6	16 11.2	9 6.3	128 89.5	11 7.7	3 2.1
	長時間パートタイム	55 100.0	53 96.4	2 3.6	0 0.0	48 87.2	5 9.1	2 3.6	53 96.4	2 3.6	0 0.0
	短時間パートタイム	84 100.0	80 95.2	2 2.4	0 0.0	72 85.7	8 9.5	1 1.2	76 90.5	4 4.8	1 1.2
男性イム	205 100.0	161 78.5	30 14.6	13 6.3	140 68.3	49 23.9	15 7.3	172 83.9	24 11.7	8 3.9	

	全体	⑦生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる制度を充実させる			⑧保育所、留守家庭児童会（学童保育）などの保育環境を充実させる			⑨介護、育児休業制度などの活用をすすめる			
		必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	必要	どちらともいえない	必要でない	
全体	1195 100.0	1019 85.3	121 10.1	28 2.3	1089 91.1	57 4.8	18 1.5	1066 89.2	88 7.4	13 1.1	
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	53 80.3	9 13.6	0 0.0	57 86.3	3 4.5	1 1.5	55 83.4	4 6.1	2 3.0
	雇用者	294 100.0	261 88.7	25 8.5	6 2.0	272 92.5	16 5.4	3 1.0	274 93.2	18 6.1	0 0.0
	家事専業・無職	303 100.0	265 87.5	24 7.9	4 1.4	280 92.4	9 3.0	3 1.0	272 89.8	19 6.3	2 0.6
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	42 79.2	5 9.4	5 9.4	50 94.4	2 3.8	1 1.9	47 88.6	4 7.5	2 3.8
	雇用者	247 100.0	205 83.0	29 11.7	9 3.6	222 89.9	14 5.7	6 2.4	220 89.0	18 7.3	6 2.4
	家事専業・無職	172 100.0	141 82.0	24 14.0	3 1.8	156 90.7	8 4.7	3 1.8	147 85.5	19 11.0	1 0.6
女性	常勤フルタイム	143 100.0	130 90.9	10 7.0	3 2.1	134 93.7	7 4.9	1 0.7	133 93.0	10 7.0	0 0.0
	長時間パートタイム	55 100.0	49 89.1	5 9.1	1 1.8	48 87.3	5 9.1	2 3.6	51 92.7	4 7.3	0 0.0
	短時間パートタイム	84 100.0	74 88.1	8 9.5	0 0.0	78 92.8	4 4.8	0 0.0	79 94.1	3 3.6	0 0.0
男性イム	205 100.0	169 82.4	27 13.2	8 3.9	184 89.7	13 6.3	6 3.0	181 88.3	18 8.8	6 3.0	

【表 2-6 性・職業別/性・就労形態別】

		全体	⑩介護保険によるホームヘルパーや施設などのサービスを充実する		
			必要	どちらともいえない	必要でない
全体		1195 100.0	1091 91.3	68 5.7	14 1.2
女性	自営業・家族従業者等	66 100.0	57 86.4	4 6.1	0 0.0
	雇用者	294 100.0	279 94.9	12 4.1	1 0.3
	家事専業・無職	303 100.0	278 91.7	16 5.3	3 1.0
男性	自営業・家族従業者等	53 100.0	49 92.5	2 3.8	2 3.8
	雇用者	247 100.0	220 89.1	19 7.7	5 2.0
	家事専業・無職	172 100.0	155 90.1	11 6.4	3 1.8
女性	常勤フルタイム	143 100.0	138 96.5	4 2.8	1 0.7
	長時間パートタイム	55 100.0	52 94.5	3 5.5	0 0.0
	短時間パートタイム	84 100.0	78 92.9	4 4.8	0 0.0
男性	常勤フルタイム	205 100.0	187 91.2	14 6.8	4 2.0

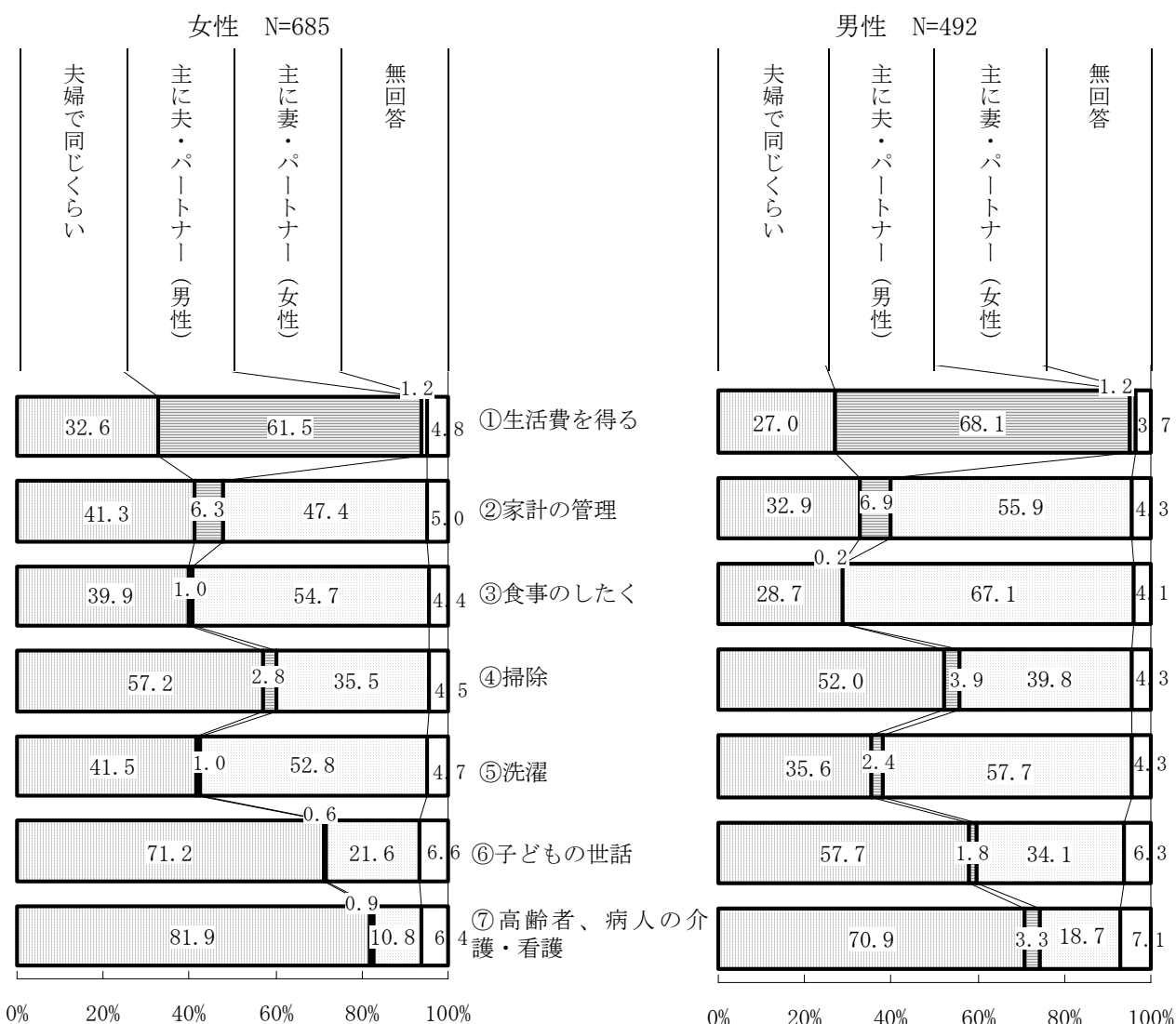
3. 家庭生活について

問6 家庭生活の分担は、配偶者・パートナー（結婚の届出の有無と関係なく）でどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

（①～⑦の項目について、理想と現実それぞれ各項目に○は1つ）

理想

【図3-1】



【性別】

理想の家庭生活の分担は、①「生活費を得る」では「主に夫・パートナー（男性）」が男女とも6割を超え最も高いが、その他の項目は「主に妻・パートナー（女性）」か「夫婦同じくらい」の割合が高い。

⑦「高齢者、病人の介護・看護」では男女とも「夫婦同じくらい」が他の項目に比べて高く、女性81.9%、男性70.9%である。

全ての項目で「夫婦で同じくらい」を理想とする割合は、男性より女性の方が高く、中でも⑥「子どもの世話」、③「食事のしたく」、⑦「高齢者、病人の介護・看護」では女性の方が10ポイント強高く男女間で理想の意識の違いがみられる。

【性・年代別】

女性は40歳代、男性は30歳代が、「夫婦で同じくらい」を理想とする割合が高い傾向である。

① 生活費を得る

男女ともどの年代も、「夫・パートナー」の割合が最も高いが、女性40歳代、男性30歳代は「夫婦で同じくらい」の割合も高く、「夫・パートナー」との差が小さい。

② 家計の管理

他の年代はいずれも「妻・パートナー」の割合が最も高いのに対して、女性40歳代は「夫婦で同じくらい」の方が20ポイント近く高い。男性30歳代は「妻・パートナー」と「夫婦で同じくらい」が同じ割合である。

③ 食事のしたく

②の項目と同様の傾向で、女性40歳代は「夫婦で同じくらい」の方が「妻・パートナー」よりも20ポイント近く高い。男性30歳代は「夫婦で同じくらい」と「妻・パートナー」はほぼ同じ程度である。

④ 掃除

女性60歳代、男性50歳代を除いて、「夫婦で同じくらい」が最も高い。中でも女性では20歳代と40歳代が、男性では30歳代以下が高い。

⑤ 洗濯

女性は50歳代以下、男性は30歳代以下では、「夫婦で同じくらい」が5割前後となっている。

⑥ 子どもの世話

女性は子育て世代の30歳代では、9割以上が「夫婦で同じくらい」と回答している。男性は20歳代では8割以上が「夫婦で同じくらい」である。

⑦ 高齢者、病人の介護・看護

女性の30歳代、40歳代は「夫婦で同じくらい」が9割を超えている。男性は20歳代、30歳代で8割を超える。

理想【表3-1 性・年代別】

	全体	①生活費を得る			②家計の管理			③食事のしたく			
		く夫婦で同じ	性トナに主(男)に夫・パ	性トナに主(女)に妻・パ	く夫婦で同じ	性トナに主(男)に夫・パ	性トナに主(女)に妻・パ	く夫婦で同じ	性トナに主(男)に夫・パ	性トナに主(女)に妻・パ	
全体	1195 100.0	360 30.1	767 64.2	14 1.2	451 37.7	79 6.6	607 50.8	417 34.9	8 0.7	718 60.1	
女性	20歳代	70 100.0	20 28.6	47 67.1	-	25 35.7	2 2.9	40 57.1	34 48.6	1 1.4	33 47.1
	30歳代	106 100.0	42 39.6	62 58.5	2 1.9	47 44.3	7 6.6	52 49.1	50 47.2	1 0.9	55 51.9
	40歳代	113 100.0	52 46.0	57 50.4	1 0.9	61 54.0	8 7.1	41 36.3	64 56.6	2 1.8	44 38.9
	50歳代	150 100.0	49 32.7	98 65.3	-	68 45.3	5 3.3	74 49.3	66 44.0	-	81 54.0
	60歳代	154 100.0	39 25.3	102 66.2	3 1.9	53 34.4	16 10.4	74 48.1	37 24.0	1 0.6	108 70.1
	70歳代以上	92 100.0	21 22.8	55 59.8	2 2.2	29 31.5	5 5.4	44 47.8	22 23.9	2 2.2	54 58.7
	男性	20歳代	41 100.0	14 34.1	26 63.4	1 2.4	13 31.7	3 7.3	25 61.0	17 41.5	1 2.4
30歳代		72 100.0	33 45.8	37 51.4	1 1.4	33 45.8	4 5.6	33 45.8	34 47.2	-	36 50.0
40歳代		78 100.0	28 35.9	48 61.5	-	34 43.6	6 7.7	36 46.2	19 24.4	-	57 73.1
50歳代		97 100.0	21 21.6	76 78.4	-	25 25.8	4 4.1	67 69.1	29 29.9	-	68 70.1
60歳代		115 100.0	17 14.8	87 75.7	4 3.5	36 31.3	5 4.3	67 58.3	25 21.7	-	83 72.2
70歳代以上		88 100.0	20 22.7	60 68.2	-	20 22.7	12 13.6	47 53.4	16 18.2	-	63 71.6

理想【表3-1 性・年代別】

	全体	④掃除			⑤洗濯			⑥子どもの世話			
		く 夫 ら い 同 じ	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 夫 ・ パ ー （ 女 ）	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 夫 ・ パ ー （ 女 ）	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 夫 ・ パ ー （ 女 ）	性 ト ナ ー （ 男 ）	主 に 夫 ・ パ ー （ 女 ）	
全体	1195 100.0	654 54.7	38 3.2	449 37.6	463 38.7	19 1.6	658 55.1	778 65.1	14 1.2	325 27.2	
女性	20歳代	70 100.0	51 72.9	2 2.9	15 21.4	38 54.3	- -	30 42.9	54 77.1	- -	14 20.0
	30歳代	106 100.0	69 65.1	- -	37 34.9	51 48.1	1 0.9	54 50.9	97 91.5	- -	9 8.5
	40歳代	113 100.0	82 72.6	5 4.4	23 20.4	56 49.6	1 0.9	53 46.9	93 82.3	1 0.9	16 14.2
	50歳代	150 100.0	88 58.7	1 0.7	57 38.0	78 52.0	- -	69 46.0	111 74.0	1 0.7	34 22.7
	60歳代	154 100.0	59 38.3	4 2.6	82 53.2	35 22.7	3 1.9	106 68.8	87 56.5	2 1.3	47 30.5
	70歳代以上	92 100.0	43 46.7	7 7.6	29 31.5	26 28.3	2 2.2	50 54.3	46 50.0	- -	28 30.4
男性	20歳代	41 100.0	26 63.4	4 9.8	11 26.8	23 56.1	3 7.3	15 36.6	34 82.9	1 2.4	5 12.2
	30歳代	72 100.0	49 68.1	1 1.4	20 27.8	37 51.4	- -	33 45.8	47 65.3	- -	23 31.9
	40歳代	78 100.0	43 55.1	2 2.6	31 39.7	29 37.2	3 3.8	44 56.4	57 73.1	1 1.3	18 23.1
	50歳代	97 100.0	43 44.3	2 2.1	52 53.6	31 32.0	2 2.1	64 66.0	51 52.6	4 4.1	41 42.3
	60歳代	115 100.0	55 47.8	3 2.6	50 43.5	31 27.0	2 1.7	74 64.3	58 50.4	2 1.7	42 36.5
	70歳代以上	88 100.0	39 44.3	7 8.0	32 36.4	24 27.3	2 2.3	53 60.2	37 42.0	1 1.1	39 44.3

	全体	⑦高齢者、病人の介護・看護		
		く 夫 ら い 同 じ	性 ト ナ ー （ 男 ）	性 ト ナ ー （ 女 ）
全体	1195 100.0	922 77.2	23 1.9	169 14.1
女性	20歳代	70 100.0	61 87.1	- -
	30歳代	106 100.0	100 94.3	1 0.9
	40歳代	113 100.0	102 90.3	1 0.9
	50歳代	150 100.0	124 82.7	2 1.3
	60歳代	154 100.0	114 74.0	- -
	70歳代以上	92 100.0	60 65.2	2 2.2
男性	20歳代	41 100.0	34 82.9	2 4.9
	30歳代	72 100.0	58 80.6	2 2.8
	40歳代	78 100.0	61 78.2	1 1.3
	50歳代	97 100.0	64 66.0	5 5.2
	60歳代	115 100.0	73 63.5	4 3.5
	70歳代以上	88 100.0	58 65.9	2 2.3

【性・職業別/性・就労形態別】

いずれの項目も女性の場合、雇用者は「夫婦で同じくらい」を理想とする割合が高い傾向である。

⑥「子どもの世話」、⑦「高齢者、病人の介護・看護」では、女性の常勤フルタイムは9割以上が「夫婦で同じくらい」をあげている。

理想【表3-2 性・職業別/性・就労形態別】

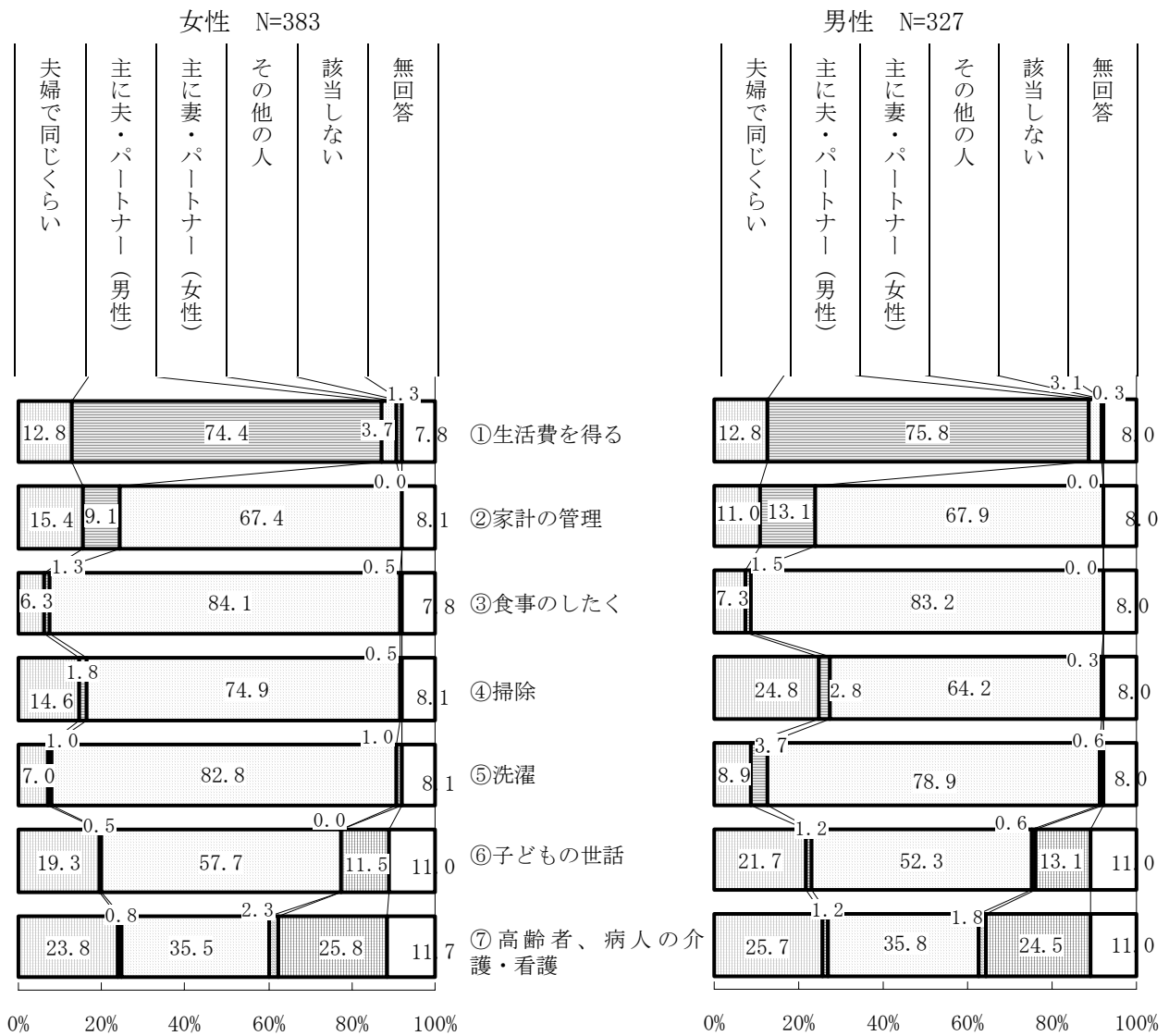
	全体	①生活費を得る			②家計の管理			③食事のしたく			
		夫 婦 で 同 じ	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	
全体	1195 100.0	360 30.1	767 64.2	14 1.2	451 37.7	79 6.6	607 50.8	417 34.9	8 0.7	718 60.1	
女性	自営業・家 族従業者等	66 100.0	22 33.3	40 60.6	- -	23 34.8	3 4.5	36 54.5	25 37.9	1 1.5	37 56.1
	雇用者	294 100.0	116 39.5	170 57.8	3 1.0	136 46.3	20 6.8	133 45.2	4 1.4	139 47.3	
	家事専業・ 無職	303 100.0	77 25.4	200 66.0	5 1.7	116 38.3	19 6.3	146 48.2	88 29.0	2 0.7	193 63.7
男性	自営業・家 族従業者等	53 100.0	11 20.8	40 75.5	2 3.8	19 35.8	5 9.4	29 54.7	17 32.1	1 1.9	35 66.0
	雇用者	247 100.0	75 30.4	165 66.8	2 0.8	84 34.0	11 4.5	145 58.7	72 29.1	- -	169 68.4
	家事専業・ 無職	172 100.0	41 23.8	117 68.0	2 1.2	51 29.7	17 9.9	91 52.9	43 25.0	- -	116 67.4
女性	常勤フルタ イム	143 100.0	64 44.8	75 52.4	2 1.4	69 48.3	11 7.7	62 43.4	2 1.4	65 45.5	
	長時間パー トタイム	55 100.0	14 25.5	39 70.9	1 1.8	19 34.5	1 1.8	34 61.8	24 43.6	1 1.8	29 52.7
	短時間パー トタイム	84 100.0	33 39.3	49 58.3	- -	44 52.4	7 8.3	30 35.7	1 1.2	37 44.0	
男性 イム	205 100.0	61 29.8	138 67.3	2 1.0	66 32.2	10 4.9	123 60.0	59 28.8	- -	141 68.8	

	全体	④掃除			⑤洗濯			⑥子どもの世話			
		夫 婦 で 同 じ	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	性 ト ナ ー (男)	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (女)	
全体	1195 100.0	654 54.7	38 3.2	449 37.6	463 38.7	19 1.6	658 55.1	778 65.1	14 1.2	325 27.2	
女性	自営業・家 族従業者等	66 100.0	32 48.5	2 3.0	28 42.4	22 33.3	1 1.5	38 57.6	45 68.2	- -	14 21.2
	雇用者	294 100.0	198 67.3	6 2.0	85 28.9	153 52.0	2 0.7	134 45.6	235 79.9	1 0.3	49 16.7
	家事専業・ 無職	303 100.0	144 47.5	11 3.6	128 42.2	92 30.4	4 1.3	187 61.7	194 64.0	3 1.0	80 26.4
男性	自営業・家 族従業者等	53 100.0	22 41.5	4 7.5	27 50.9	21 39.6	3 5.7	29 54.7	27 50.9	2 3.8	22 41.5
	雇用者	247 100.0	132 53.4	4 1.6	104 42.1	90 36.4	5 2.0	146 59.1	153 61.9	4 1.6	81 32.8
	家事専業・ 無職	172 100.0	90 52.3	10 5.8	59 34.3	55 32.0	3 1.7	100 58.1	88 51.2	2 1.2	63 36.6
女性	常勤フルタ イム	143 100.0	107 74.8	1 0.7	34 23.8	82 57.3	1 0.7	59 41.3	129 90.2	- -	12 8.4
	長時間パー トタイム	55 100.0	33 60.0	2 3.6	19 34.5	29 52.7	1 1.8	24 43.6	36 65.5	1 1.8	17 30.9
	短時間パー トタイム	84 100.0	53 63.1	3 3.6	25 29.8	38 45.2	- -	43 51.2	64 76.2	- -	14 16.7
男性 イム	205 100.0	106 51.7	4 2.0	89 43.4	74 36.1	5 2.4	121 59.0	127 62.0	3 1.5	67 32.7	

理想【表3-2 性・職業別/性・就労形態別】

		全体	⑦高齢者、病人の介護・看護		
			く 夫 ら い で 同 じ	性 ト 主 ナ ー （ 男 ）	性 ト 主 ナ ー （ 女 ）
全体		1195 100.0	922 77.2	23 1.9	169 14.1
女性	自営業・家 族従業者等	66 100.0	47 71.2	1 1.5	11 16.7
	雇用者	294 100.0	263 89.5	1 0.3	19 6.5
	家事専業・ 無職	303 100.0	233 76.9	3 1.0	44 14.5
男性	自営業・家 族従業者等	53 100.0	34 64.2	1 1.9	15 28.3
	雇用者	247 100.0	181 73.3	11 4.5	44 17.8
	家事専業・ 無職	172 100.0	120 69.8	3 1.7	29 16.9
女性	常勤フルタ イム	143 100.0	135 94.4	- -	6 4.2
	長時間パー トタイム	55 100.0	46 83.6	1 1.8	6 10.9
	短時間パー トタイム	84 100.0	73 86.9	- -	5 6.0
男性 イム	常勤フルタ	205 100.0	147 71.7	11 5.4	38 18.5

【図3-2】



【性別】

配偶者・パートナーがいる人の、現実での家庭役割は、①「生活費を得る」では「主に夫・パートナー(男性)」が男女とも約75%で最も高いが、それ以外の項目は全て「主に妻・パートナー(女性)」が最も高い。中でも③「食事のしたく」、⑤「洗濯」は、男女とも8割前後が「主に妻・パートナー(女性)」である。

家庭役割における現実認識で男女の違いはほとんどみられない中で、④「掃除」については、男性の方が「夫婦で同じくらい」の回答割合が10.2ポイント高く、女性が認識する以上に男性は「夫婦で同じくらい」していると考えている。

理想と現実を比較したときに、理想では男性より女性の方が全ての項目で「夫婦で同じくらい」の回答が高いのに対して、現実ではほとんどの項目で男性より低い。つまり理想と現実のギャップは、女性の方が大きいといえる。

現実【表3-3 性・年代別】

	全体	④掃除				⑤洗濯				
		らい 夫婦で 同じく	主 に夫・ パート ナー (男性)	主 に妻・ パート ナー (女性)	そ 他の 人	らい	夫 婦で 同じく	主 に夫・ パート ナー (男性)	主 に妻・ パート ナー (女性)	そ 他の 人
全体	718 100.0	138 19.2	16 2.2	502 69.9	3 0.4	56 7.8	16 2.2	581 80.9	6 0.8	
女性	20歳代	10 100.0	2 20.0	- -	4 40.0	- -	- -	6 60.0	- -	
	30歳代	53 100.0	5 9.4	1 1.9	38 71.7	1 1.9	5 9.4	2 3.8	36 67.9	
	40歳代	85 100.0	7 8.2	1 1.2	75 88.2	- -	2 2.4	- -	80 94.1	
	50歳代	104 100.0	14 13.5	1 1.0	84 80.8	- -	9 8.7	- -	91 87.5	
	60歳代	98 100.0	18 18.4	2 2.0	68 69.4	1 1.0	5 5.1	- -	83 84.7	
	70歳代以上	33 100.0	10 30.3	2 6.1	18 54.5	- -	6 18.2	2 6.1	21 63.6	
男性	20歳代	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
	30歳代	10 100.0	3 30.0	- -	4 40.0	- -	- -	6 60.0	1 10.0	
	40歳代	56 100.0	11 19.6	- -	41 73.2	- -	5 8.9	3 5.4	44 78.6	
	50歳代	80 100.0	15 18.8	2 2.5	61 76.3	1 1.3	4 5.0	3 3.8	72 90.0	
	60歳代	104 100.0	23 22.1	5 4.8	66 63.5	- -	11 10.6	3 2.9	79 76.0	
	70歳代以上	75 100.0	29 38.7	2 2.7	37 49.3	- -	9 12.0	3 4.0	56 74.7	

	全体	⑥子どもの世話					⑦高齢者、病人の介護・看護					
		らい 夫婦で 同じく	主 に夫・ パート ナー (男性)	主 に妻・ パート ナー (女性)	そ 他の 人	該 当し ない	らい	夫 婦で 同じく	主 に夫・ パート ナー (男性)	主 に妻・ パート ナー (女性)	そ 他の 人	該 当し ない
全体	718 100.0	146 20.3	6 0.8	396 55.2	2 0.3	88 12.3	177 24.7	7 1.0	256 35.7	15 2.1	180 25.1	
女性	20歳代	10 100.0	1 10.0	- -	1 10.0	- -	2 20.0	1 10.0	2 20.0	- -	2 20.0	
	30歳代	53 100.0	13 24.5	- -	25 47.2	- -	7 13.2	10 18.9	16 30.2	- -	19 35.8	
	40歳代	85 100.0	11 12.9	- -	61 71.8	- -	11 12.9	12 14.1	29 34.1	3 3.5	38 44.7	
	50歳代	104 100.0	23 22.1	- -	69 66.3	- -	7 6.7	26 25.0	1 1.0	47 45.2	4 3.8	18 17.3
	60歳代	98 100.0	20 20.4	2 2.0	47 48.0	- -	15 15.3	35 35.7	- -	28 28.6	2 2.0	18 18.4
	70歳代以上	33 100.0	6 18.2	- -	18 54.5	- -	2 6.1	7 21.2	1 3.0	14 42.4	- -	4 12.1
男性	20歳代	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
	30歳代	10 100.0	2 20.0	- -	4 40.0	- -	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0	
	40歳代	56 100.0	14 25.0	1 1.8	34 60.7	- -	3 5.4	8 14.3	19 33.9	1 1.8	23 41.1	
	50歳代	80 100.0	19 23.8	1 1.3	48 60.0	- -	9 11.3	16 20.0	1 1.3	41 51.3	2 2.5	18 22.5
	60歳代	104 100.0	22 21.2	1 1.0	52 50.0	1 1.0	15 14.4	33 31.7	2 1.9	31 29.8	2 1.9	22 21.2
	70歳代以上	75 100.0	14 18.7	1 1.3	33 44.0	1 1.3	14 18.7	25 33.3	1 1.3	24 32.0	- -	14 18.7

【性・職業別/性・就労形態別】

①「生活費を得る」では、女性の常勤フルタイムは、理想・現実とも「夫婦で同じくらい」が4割強である。

ただ、女性の常勤フルタイムであっても、現実の③「食事のしたく」、④「掃除」、⑤「洗濯」は「妻・パートナー」が分担している割合が高い。

現実【表3-4 性・職業別/性・就労形態別】

	全体	①生活費を得る				②家計の管理				③食事のしたく				
		ら い 夫 婦 で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (男 性)	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー (女 性)	そ の 他 の 人	ら い 夫 婦 で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (男 性)	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー (女 性)	そ の 他 の 人	ら い 夫 婦 で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (男 性)	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー (女 性)	そ の 他 の 人	
全体	718 100.0	91 12.7	539 75.1	24 3.3	6 0.8	97 13.5	78 10.9	484 67.4	-	48 6.7	10 1.4	600 83.6	2 0.3	
女性	自営業・家 族従業者等	46 100.0	9 19.6	32 69.6	1 2.2	1 2.2	6 13.0	3 6.5	33 71.7	-	3 6.5	-	37 80.4	1 2.2
	雇用者	146 100.0	29 19.9	88 60.3	9 6.2	4 2.7	24 16.4	8 5.5	99 67.8	-	10 6.8	3 2.1	117 80.1	1 0.7
	家事専業・ 無職	188 100.0	11 5.9	163 86.7	4 2.1	-	29 15.4	24 12.8	124 66.0	-	11 5.9	2 1.1	166 88.3	-
男性	自営業・家 族従業者等	44 100.0	6 13.6	37 84.1	1 2.3	-	7 15.9	6 13.6	31 70.5	-	5 11.4	-	39 88.6	-
	雇用者	149 100.0	14 9.4	122 81.9	3 2.0	-	11 7.4	14 9.4	114 76.5	-	6 4.0	4 2.7	129 86.6	-
	家事専業・ 無職	133 100.0	22 16.5	89 66.9	6 4.5	1 0.8	18 13.5	23 17.3	77 57.9	-	13 9.8	1 0.8	104 78.2	-
女性	常勤フルタ イム	50 100.0	21 42.0	11 22.0	5 10.0	1 2.0	12 24.0	2 4.0	25 50.0	-	4 8.0	3 6.0	31 62.0	1 2.0
	長時間パート タイム	27 100.0	4 14.8	20 74.1	-	1 3.7	4 14.8	1 3.7	20 74.1	-	3 11.1	-	22 81.5	-
	短時間パート タイム	61 100.0	2 3.3	54 88.5	3 4.9	1 1.6	7 11.5	5 8.2	48 78.7	-	3 4.9	-	57 93.4	-
男性 イム	129 100.0	11 8.5	109 84.5	2 1.6	-	9 7.0	13 10.1	100 77.5	-	4 3.1	3 2.3	115 89.1	-	

	全体	④掃除				⑤洗濯				
		ら い 夫 婦 で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (男 性)	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー (女 性)	そ の 他 の 人	ら い 夫 婦 で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ ー (男 性)	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ ー (女 性)	そ の 他 の 人	
全体	718 100.0	138 19.2	16 2.2	502 69.9	3 0.4	56 7.8	16 2.2	581 80.9	6 0.8	
女性	自営業・家 族従業者等	46 100.0	6 13.0	-	33 71.7	2 4.3	4 8.7	-	35 76.1	2 4.3
	雇用者	146 100.0	22 15.1	1 0.7	108 74.0	-	12 8.2	2 1.4	115 78.8	2 1.4
	家事専業・ 無職	188 100.0	28 14.9	6 3.2	144 76.6	-	11 5.9	2 1.1	165 87.8	-
男性	自営業・家 族従業者等	44 100.0	8 18.2	1 2.3	34 77.3	1 2.3	3 6.8	3 6.8	38 86.4	-
	雇用者	149 100.0	29 19.5	2 1.3	108 72.5	-	10 6.7	4 2.7	124 83.2	1 0.7
	家事専業・ 無職	133 100.0	44 33.1	6 4.5	68 51.1	-	16 12.0	5 3.8	96 72.2	1 0.8
女性	常勤フルタ イム	50 100.0	8 16.0	1 2.0	30 60.0	-	7 14.0	2 4.0	29 58.0	1 2.0
	長時間パート タイム	27 100.0	5 18.5	-	20 74.1	-	3 11.1	-	21 77.8	1 3.7
	短時間パート タイム	61 100.0	8 13.1	-	52 85.2	-	2 3.3	-	58 95.1	-
男性 イム	129 100.0	26 20.2	1 0.8	95 73.6	-	7 5.4	4 3.1	110 85.3	1 0.8	

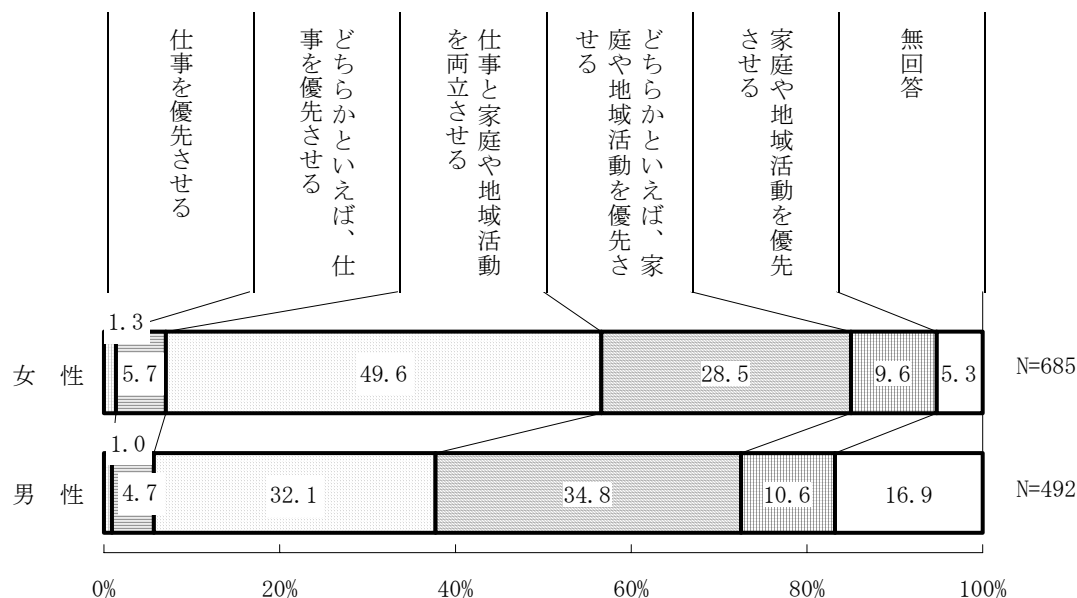
【表3-4 性・職業別/性・就労形態別】**現実**

	全体	⑥子どもの世話					⑦高齢者、病人の介護・看護					
		ら 夫 婦 で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト (男 性)	主 に 妻 ・ パ ー ト (女 性)	そ の 他 の 人	該 当 し な い	ら い 夫 婦 で 同 じ く	主 に 夫 ・ パ ー ト (男 性)	主 に 妻 ・ パ ー ト (女 性)	そ の 他 の 人	該 当 し な い	
全体	718 100.0	146 20.3	6 0.8	396 55.2	2 0.3	88 12.3	177 24.7	7 1.0	256 35.7	15 2.1	180 25.1	
女性	自営業・家 族従業者等	46 100.0	7 15.2	- -	30 65.2	- -	4 8.7	10 21.7	1 2.2	15 32.6	- -	12 26.1
	雇用者	146 100.0	26 17.8	1 0.7	81 55.5	- -	18 12.3	29 19.9	- -	47 32.2	6 4.1	44 30.1
	家事専業・ 無職	188 100.0	41 21.8	1 0.5	108 57.4	- -	22 11.7	51 27.1	2 1.1	73 38.8	3 1.6	43 22.9
男性	自営業・家 族従業者等	44 100.0	15 34.1	- -	24 54.5	1 2.3	3 6.8	9 20.5	1 2.3	15 34.1	2 4.5	16 36.4
	雇用者	149 100.0	33 22.1	3 2.0	85 57.0	- -	16 10.7	35 23.5	1 0.7	61 40.9	2 1.3	38 25.5
	家事専業・ 無職	133 100.0	23 17.3	1 0.8	62 46.6	1 0.8	24 18.0	40 30.1	2 1.5	41 30.8	2 1.5	26 19.5
女性	常勤フルタ イム	50 100.0	10 20.0	1 2.0	17 34.0	- -	9 18.0	8 16.0	- -	11 22.0	3 6.0	16 32.0
	長時間パー トタイム	27 100.0	5 18.5	- -	17 63.0	- -	3 11.1	4 14.8	- -	11 40.7	- -	9 33.3
	短時間パー トタイム	61 100.0	10 16.4	- -	42 68.9	- -	5 8.2	14 23.0	- -	24 39.3	2 3.3	17 27.9
男性 イム	常勤フルタ イム	129 100.0	29 22.5	3 2.3	74 57.4	- -	14 10.9	28 21.7	1 0.8	55 42.6	2 1.6	34 26.4

問7 あなたは、男女の生き方として、仕事と家庭や地域活動について、一般的にどのような生き方が望ましいと思われますか。女性と男性の両方にお答えください。(〇はそれぞれに1つ)

女性の生き方として

【図3-3】



【性別】

女性の生き方として望ましいのは、女性は「仕事と家庭や地域活動を両立させる」が約半数を占め、男性よりも17.5ポイント高くなっている。男性は「どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる」が34.8%で最も高い。

男女ともに「仕事を優先させる」と「家庭や地域活動を優先させる」の両極の回答割合はわずかで、男女の違いはほとんどない。その他大多数の考えは、「仕事と家庭や地域活動を両立させる」と「どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる」の2つに大きく分かれている。女性の場合、全体の半数が両立させるのが望ましいと考えているのに対して、男性は、「仕事と家庭や地域活動を両立させる」と「どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる」は全体の3分の1ずつで「どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる」の方がわずかに高くなっている。

【性・年代別】

女性の生き方として、「仕事と家庭を両立させる」は、女性では40歳代が他の年代に比べて高い。
男性では30歳代、40歳代がやや高い。

望ましい女性の生き方【表3-5 性・年代別】

	全体	仕事を優先させる	どちらかといえば、仕事を優先させる	仕事と家庭や地域活動を両立させる	どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる	家庭や地域活動を優先させる	無回答
全体	1195 100.0	15 1.3	62 5.2	503 42.1	370 31.0	121 10.1	124 10.4
女性 20歳代	70 100.0	1 1.4	3 4.3	30 42.9	31 44.3	4 5.7	1 1.4
女性 30歳代	106 100.0	-	3 2.8	58 54.7	35 33.0	10 9.4	-
女性 40歳代	113 100.0	2 1.8	4 3.5	72 63.7	26 23.0	7 6.2	2 1.8
女性 50歳代	150 100.0	3 2.0	6 4.0	80 53.3	41 27.3	16 10.7	4 2.7
女性 60歳代	154 100.0	-	15 9.7	62 40.3	38 24.7	20 13.0	19 12.3
女性 70歳代以上	92 100.0	3 3.3	8 8.7	38 41.3	24 26.1	9 9.8	10 10.9
男性 20歳代	41 100.0	-	1 2.4	13 31.7	18 43.9	5 12.2	4 9.8
男性 30歳代	72 100.0	-	4 5.6	27 37.5	23 31.9	9 12.5	9 12.5
男性 40歳代	78 100.0	3 3.8	3 3.8	30 38.5	26 33.3	9 11.5	7 9.0
男性 50歳代	97 100.0	-	6 6.2	29 29.9	33 34.0	11 11.3	18 18.6
男性 60歳代	115 100.0	1 0.9	6 5.2	32 27.8	46 40.0	10 8.7	20 17.4
男性 70歳代以上	88 100.0	1 1.1	3 3.4	26 29.5	25 28.4	8 9.1	25 28.4

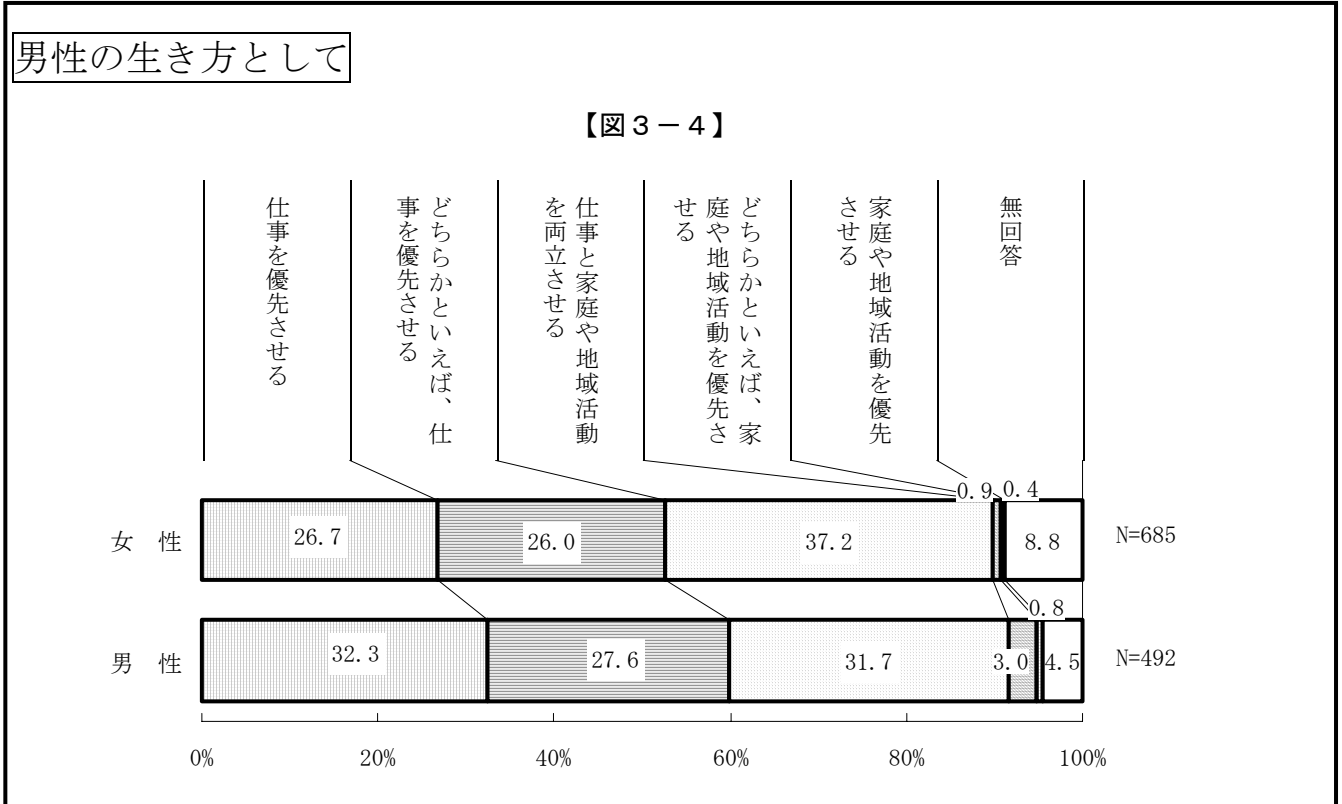
《参考》

世論調査と比較すると、選択肢の文言がやや異なるが、仕事と家庭や地域活動を両立させるのが望ましいと回答した割合は、女性では本調査の方が高いが、男性では本調査の方が低くなっている。

《表3-6 望ましい女性の生き方》

	全体	女性	男性
本調査	1195	685	492
世論調査	3502	1886	1616
仕事を優先させる	1.3	1.3	1.0
家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する	3.9	3.9	4.0
どちらかといえば、仕事を優先させる	5.2	5.7	4.7
家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる	21.2	21.6	20.6
仕事と家庭や地域活動を両立させる	42.1	49.6	32.1
家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる	37.1	36.8	37.4
どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる	31.0	28.5	34.8
仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる	20.6	21.0	20.2
家庭や地域活動を優先させる	10.1	9.6	10.6
仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する	11.2	10.7	11.9

上段：本調査結果 下段：男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府 平成16年）
 ※世論調査の「わからない」は省略している



【性別】

男性の望ましい生き方をみると、男女とも「仕事を優先させる」、「どちらかといえば、仕事を優先させる」、「仕事と家庭や地域活動を両立させる」の3つに分かれている。女性では「仕事と家庭

や地域活動を両立させる」が 37.2%、男性では「仕事を優先させる」が 32.3%で最も高い。「仕事を優先させる」と「どちらかといえば、仕事を優先させる」を合計した『仕事を優先』は男性では約 6 割を占めている。

女性の望ましい生き方と比べると、女性の生き方では『仕事を優先』が望ましいとする人は男女ともに 1 割に満たないが、男性の生き方では、半数を超える。

【性・年代別】

男性の生き方に対して、女性では 50 歳代以下は「仕事と家庭や地域活動を両立させる」が 5 割近い。男性では 40 歳代は両立させるが 4 割で他の年代より高い。男女とも、年代の高い方が『仕事を優先』が高い傾向である。

望ましい男性の生き方【表 3-7 性・年代別】

	全体	仕事を優先させる	どちらかといえば、仕事を優先させる	仕事と家庭や地域活動を両立させる	家庭や地域活動を優先させる	どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる	無回答
全体	1195 100.0	348 29.1	315 26.4	417 34.9	23 1.9	7 0.6	85 7.1
女性 20 歳代	70 100.0	12 17.1	22 31.4	33 47.1	2 2.9	-	1 1.4
女性 30 歳代	106 100.0	20 18.9	34 32.1	49 46.2	2 1.9	1 0.9	-
女性 40 歳代	113 100.0	17 15.0	32 28.3	56 49.6	-	-	8 7.1
女性 50 歳代	150 100.0	33 22.0	36 24.0	71 47.3	-	-	10 6.7
女性 60 歳代	154 100.0	70 45.5	35 22.7	22 14.3	2 1.3	-	25 16.2
女性 70 歳代以上	92 100.0	31 33.7	19 20.7	24 26.1	-	2 2.2	16 17.4
男性 20 歳代	41 100.0	13 31.7	15 36.6	8 19.5	3 7.3	-	2 4.9
男性 30 歳代	72 100.0	18 25.0	23 31.9	25 34.7	1 1.4	3 4.2	2 2.8
男性 40 歳代	78 100.0	21 26.9	22 28.2	32 41.0	2 2.6	-	1 1.3
男性 50 歳代	97 100.0	33 34.0	28 28.9	32 33.0	3 3.1	-	1 1.0
男性 60 歳代	115 100.0	38 33.0	33 28.7	34 29.6	3 2.6	1 0.9	6 5.2
男性 70 歳代以上	88 100.0	35 39.8	15 17.0	25 28.4	3 3.4	-	10 11.4

《参考》

大阪府調査と比較すると、選択肢の文言がやや異なるが、仕事と両立させるのが望ましいと回答した割合は本調査の方が低く、世論調査と比較すると、本調査の方が高くなっている。

《表 3-8 望ましい男性の生き方》

	全体	女性	男性
本調査	1195	685	492
大阪府調査	719	406	312
世論調査	3502	1886	1616
仕事を優先させる	29.1	26.7	32.3
家事や地域活動は妻に任せ、仕事に専念する	4.2	1.7	7.4
家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する	27.4	28.0	26.6
どちらかといえば、仕事を優先させる	26.4	26.0	27.6
家庭や地域活動を尊重するが、あくまでも仕事を優先させる	42.1	38.7	46.8
家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる	41.1	41.3	41.0
仕事と家庭や地域活動を両立させる	34.9	37.2	31.7
家事や地域活動に妻とともに参加し、仕事と両立させる	43.0	47.5	36.9
家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる	23.1	21.8	24.6
どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる	1.9	0.9	3.0
どちらかといえば、仕事よりも、家庭や地域活動などを優先させる	1.4	0.5	2.6
仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる	3.7	3.8	3.5
家庭や地域活動を優先させる	0.6	0.4	0.8
仕事は妻に任せ、家事や地域活動に専念する	-	-	-
仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する	0.9	0.7	1.2

上段：本調査結果 中段：男女共同参画に関する府民意識調査（大阪府 平成 16 年）

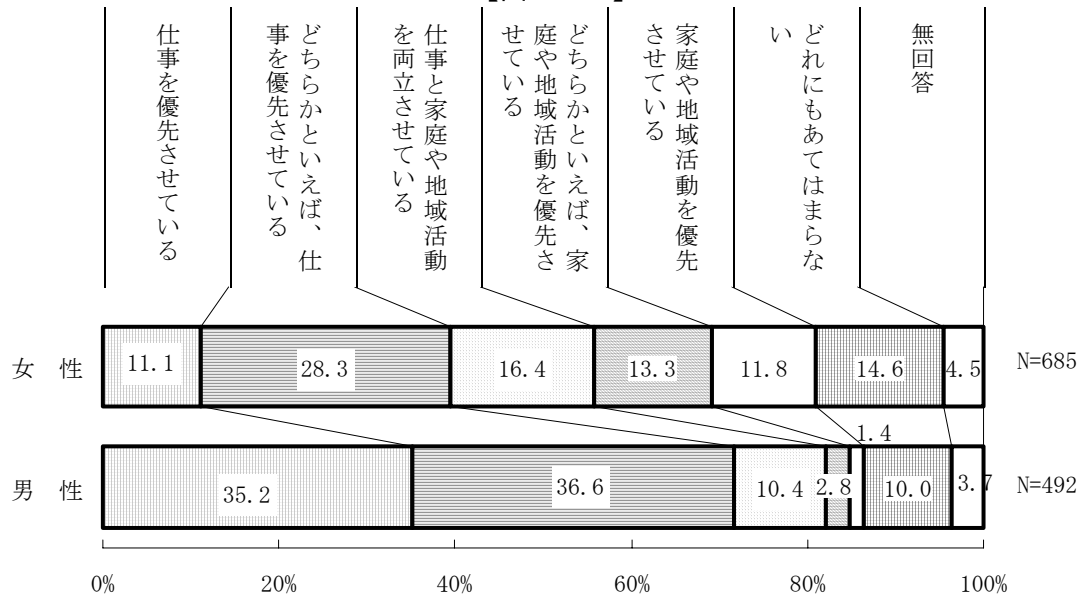
下段：男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府 平成 16 年）

※大阪府調査では、男性についてのみたずねている。

大阪府調査の「その他」、「わからない」、世論調査の「わからない」は省略している

問8 あなたご自身は、仕事と家庭や地域活動について、実際にはどのようにされていますか（されてきましたか）。（〇は1つ）

【図3-5】



【性別】

実際の生き方については、男女ともに「どちらかといえば、仕事を優先させている」の割合が最も高く、『仕事を優先』している人は、女性では約4割、男性では7割を超えている。

理想の生き方と比べると、現実に「仕事と家庭や地域活動を両立させている」人の割合は、「仕事と家庭や地域活動を両立させる」を理想とする割合よりも女性は33.2ポイント低く、男性は21.3ポイント低い結果となっている。

理想と現実の組合せをみると、「仕事と家庭や地域活動を両立させる」が望ましいと考えている人のうち現実でも両立させていると回答しているのは女性の場合で23.5%、男性では17.9%となっている。男性の場合、仕事優先が望ましいと考えている人の中では、現実でも仕事優先と回答している人が5割を超える。

【表3-9 理想と現実の生き方/女性】

		現実							
		全体	仕事を優先させている	どちらかといえば、仕事を優先させている	仕事と家庭や地域活動を両立させている	どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させている	家庭や地域活動を優先させている	どれもあてはまらない	無回答
女性									
理想	全体	685	11.1	28.3	16.4	13.3	11.8	14.6	4.5
	仕事を優先させる	9	44.4	44.4	11.1	-	-	-	-
	どちらかといえば、仕事を優先させる	39	33.3	43.6	5.1	2.6	5.1	7.7	2.6
	仕事と家庭や地域活動を両立させる	340	11.2	30.3	23.5	10.9	7.6	13.2	3.2
	どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる	195	5.1	26.7	10.3	19.0	18.5	17.4	3.1
	家庭や地域活動を優先させる	66	10.6	19.7	7.6	21.2	24.2	13.6	3.0

内の数字は理想と現実の一致を示している

【表3-10 理想と現実の生き方/男性】

		現実							
		全体	仕事 を優先 させて いる	どちら かとい えば、 仕事 を優先 させて いる	仕事 と家 庭や 地域 活動 を両 立 させ て いる	ど ち ら か と い え ば、 家 庭 や 地 域 活 動 を 優 先 さ せ て い る	ど ち ら か と い え ば、 家 庭 や 地 域 活 動 を 優 先 さ せ て い る	ど れ に も あ て は ま ら な い	無 回 答
理想	男性								
	全体	492	35.2	36.6	10.4	2.8	1.4	10.0	3.7
	仕事を優先させる	159	56.6	25.8	6.9	1.9	-	8.8	-
	どちらかといえば、仕事を優先させる	136	23.5	52.9	7.4	0.7	1.5	11.8	2.2
	仕事と家庭や地域活動を両立させる	156	29.5	35.9	17.9	3.2	3.2	7.1	3.2
	どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる	15	13.3	26.7	-	33.3	-	26.7	-
	家庭や地域活動を優先させる	4	-	100.0	-	-	-	-	-

■内の数字は理想と現実の一致を示している

【性・年代別】

男性では40歳代は『仕事優先』が4割を超えて、他の年代よりも高くなっている。

【表3-11 性・年代別】

	全体	仕事 を優先 させて いる	どちら かとい えば、 仕事 を優先 させて いる	仕事 と家 庭や 地域 活動 を両 立 させ て いる	ど ち ら か と い え ば、 家 庭 や 地 域 活 動 を 優 先 さ せ て い る	ど れ に も あ て は ま ら な い	無 回 答	
全体	1195 100.0	254 21.3	376 31.5	166 13.9	106 8.9	88 7.4	153 12.8	52 4.4
女性 20歳代	70 100.0	12 17.1	26 37.1	7 10.0	4 5.7	2 2.9	14 20.0	5 7.1
女性 30歳代	106 100.0	12 11.3	34 32.1	17 16.0	19 17.9	15 14.2	8 7.5	1 0.9
女性 40歳代	113 100.0	10 8.8	33 29.2	27 23.9	18 15.9	16 14.2	9 8.0	-
女性 50歳代	150 100.0	17 11.3	47 31.3	27 18.0	21 14.0	16 10.7	20 13.3	2 1.3
女性 60歳代	154 100.0	17 11.0	40 26.0	25 16.2	19 12.3	22 14.3	26 16.9	5 3.2
女性 70歳代以上	92 100.0	8 8.7	14 15.2	9 9.8	10 10.9	10 10.9	23 25.0	18 19.6
男性 20歳代	41 100.0	13 31.7	9 22.0	4 9.8	-	-	13 31.7	2 4.9
男性 30歳代	72 100.0	27 37.5	26 36.1	6 8.3	1 1.4	1 1.4	8 11.1	3 4.2
男性 40歳代	78 100.0	34 43.6	31 39.7	9 11.5	-	-	4 5.1	-
男性 50歳代	97 100.0	26 26.8	49 50.5	11 11.3	2 2.1	1 1.0	8 8.2	-
男性 60歳代	115 100.0	38 33.0	42 36.5	16 13.9	5 4.3	1 0.9	8 7.0	5 4.3
男性 70歳代以上	88 100.0	35 39.8	23 26.1	5 5.7	5 5.7	4 4.5	8 9.1	8 9.1

《参考》

世論調査と比較すると、選択肢の文言がやや異なるが、仕事と家庭や地域活動を両立させている割合は、男女とも本調査の方が低くなっている。男女とも仕事優先の割合は本調査の方が高い。

《表3-12 現実の生き方》

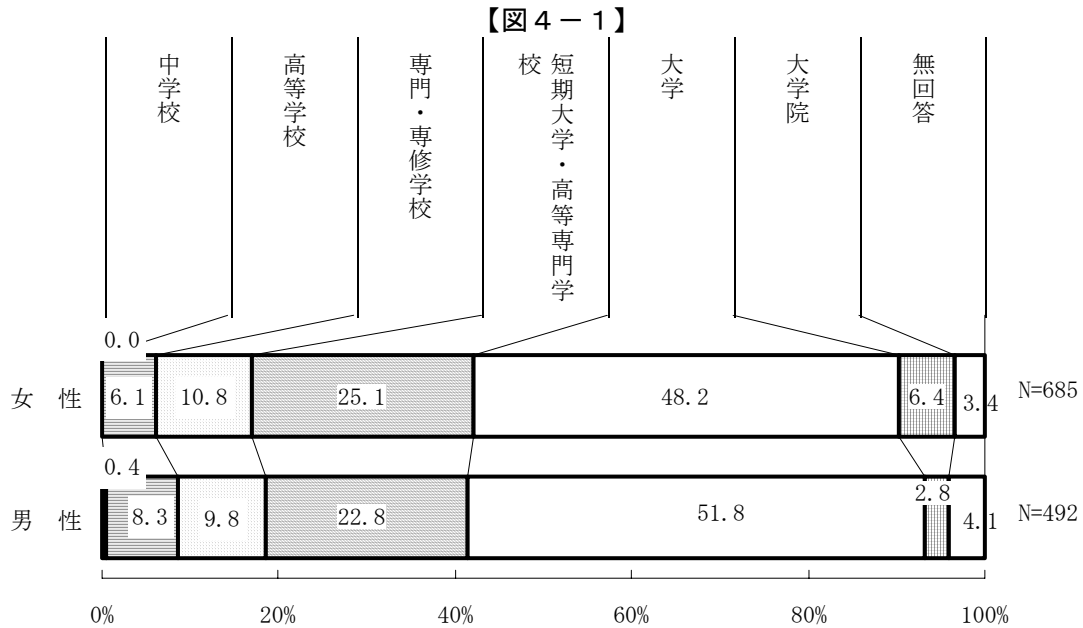
	全体	女性	男性
本調査	1195	685	492
世論調査	3502	1886	1616
仕事を優先させている	21.3	11.1	35.2
家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念している	19.6	11.1	29.5
どちらかといえば、仕事を優先させている	31.5	28.3	36.6
家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている	21.4	15.5	28.3
仕事と家庭や地域活動を両立させている	13.9	16.4	10.4
家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させている	18.6	19.6	17.5
どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させている	8.9	13.3	2.8
仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させている	8.2	11.3	4.6
家庭や地域活動を優先させている	7.4	11.8	1.4
仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念している	23.8	33.5	12.4

上段：本調査結果 下段：男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府 平成16年）
 ※本調査の「どれにもあてはまらない」、世論調査の「わからない」は省略している

4. 子どもの教育について

問9 あなたは、子どもにはどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない場合、いと仮定して親としての考え・希望を女の子、男の子それぞれにお答えください。(〇はそれぞれに1つ)

女の子の場合



【性別】

女の子の場合、男女ともに「大学」が最も高く約半数を占め、男性の方が女性よりもやや割合が高くなっている。「大学院」と合わせると男女とも54.6%が高等教育を受けさせたいと考えている。

【性・年代別】

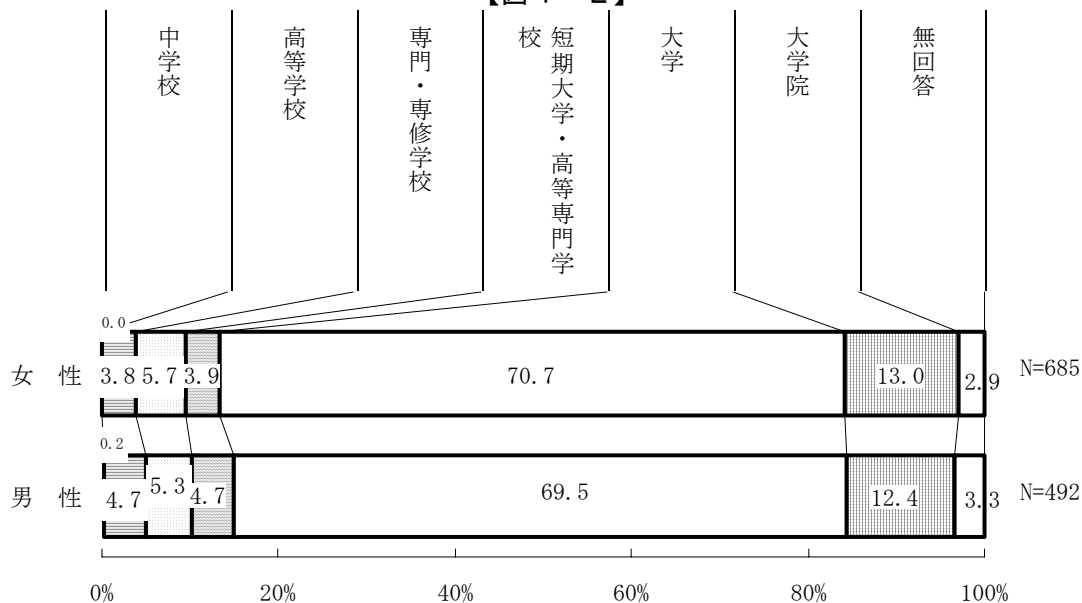
女性の40歳代、男性の20歳代は7割以上が大学以上の学歴を望んでいる。

女の子の場合【表4-1 性・年代別】

	全体	中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	無回答
全体	1195 100.0	2 0.2	85 7.1	125 10.5	288 24.1	593 49.6	58 4.9	44 3.7
女性 20歳代	70 100.0	-	8 11.4	6 8.6	14 20.0	36 51.4	5 7.1	1 1.4
女性 30歳代	106 100.0	-	11 10.4	7 6.6	35 33.0	46 43.4	6 5.7	1 0.9
女性 40歳代	113 100.0	-	2 1.8	8 7.1	15 13.3	76 67.3	10 8.8	2 1.8
女性 50歳代	150 100.0	-	10 6.7	13 8.7	34 22.7	80 53.3	8 5.3	5 3.3
女性 60歳代	154 100.0	-	6 3.9	26 16.9	50 32.5	61 39.6	6 3.9	5 3.2
女性 70歳代以上	92 100.0	-	5 5.4	14 15.2	24 26.1	31 33.7	9 9.8	9 9.8
男性 20歳代	41 100.0	-	3 7.3	3 7.3	3 7.3	30 73.2	2 4.9	-
男性 30歳代	72 100.0	2.8	4 5.6	4 5.6	19 26.4	40 55.6	2 2.8	1 1.4
男性 40歳代	78 100.0	-	7 9.0	8 10.3	15 19.2	41 52.6	4 5.1	3 3.8
男性 50歳代	97 100.0	-	5 5.2	10 10.3	19 19.6	57 58.8	1 1.0	5 5.2
男性 60歳代	115 100.0	-	15 13.0	9 7.8	34 29.6	49 42.6	3 2.6	5 4.3
男性 70歳代以上	88 100.0	-	7 8.0	13 14.8	22 25.0	38 43.2	2 2.3	6 6.8

男の子の場合

【図4-2】



【性別】

男の子の場合、男女ともに「大学」までが約7割を占め、「大学院」を合わせると8割を超える。

女の子と男の子を比較すると、大学以上に進学させたいと希望する割合は、女の子は5割程度であるが、男の子は8割を超えており、男女ともに男の子の方により高学歴を期待する傾向がある。

【性・年代別】

男性20歳代は、女の子、男の子いずれに対しても大学以上を期待する割合が7割を超えている。

男の子の場合【表4-2 性・年代別】

	全体	中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	無回答
全体	1195 100.0	1 0.1	49 4.1	67 5.6	51 4.3	839 70.2	151 12.6	37 3.1
女性 20歳代	70 100.0	-	8 11.4	6 8.6	1 1.4	48 68.6	6 8.6	1 1.4
女性 30歳代	106 100.0	-	8 7.5	8 7.5	6 5.7	73 68.9	10 9.4	1 0.9
女性 40歳代	113 100.0	-	2 1.8	5 4.4	2 1.8	88 77.9	16 14.2	-
女性 50歳代	150 100.0	-	2 1.3	9 6.0	5 3.3	110 73.3	19 12.7	5 3.3
女性 60歳代	154 100.0	-	4 2.6	10 6.5	9 5.8	101 65.6	25 16.2	5 3.2
女性 70歳代以上	92 100.0	-	2 2.2	1 1.1	4 4.3	64 69.6	13 14.1	8 8.7
男性 20歳代	41 100.0	-	3 7.3	4 9.8	-	29 70.7	5 12.2	-
男性 30歳代	72 100.0	1 1.4	6 8.3	2 2.8	4 5.6	49 68.1	7 9.7	3 4.2
男性 40歳代	78 100.0	-	4 5.1	5 6.4	7 9.0	52 66.7	8 10.3	2 2.6
男性 50歳代	97 100.0	-	3 3.1	7 7.2	2 2.1	71 73.2	10 10.3	4 4.1
男性 60歳代	115 100.0	-	7 6.1	4 3.5	4 3.5	83 72.2	14 12.2	3 2.6
男性 70歳代以上	88 100.0	-	-	4 4.5	6 6.8	57 64.8	17 19.3	4 4.5

《参考》

大阪府調査と比較すると、女性が男の子に対して大学以上を期待する割合が、本調査結果の方がやや高い程度で、ほとんど違いはみられない。

《表4-3 受けさせたい教育/女の子/男の子》

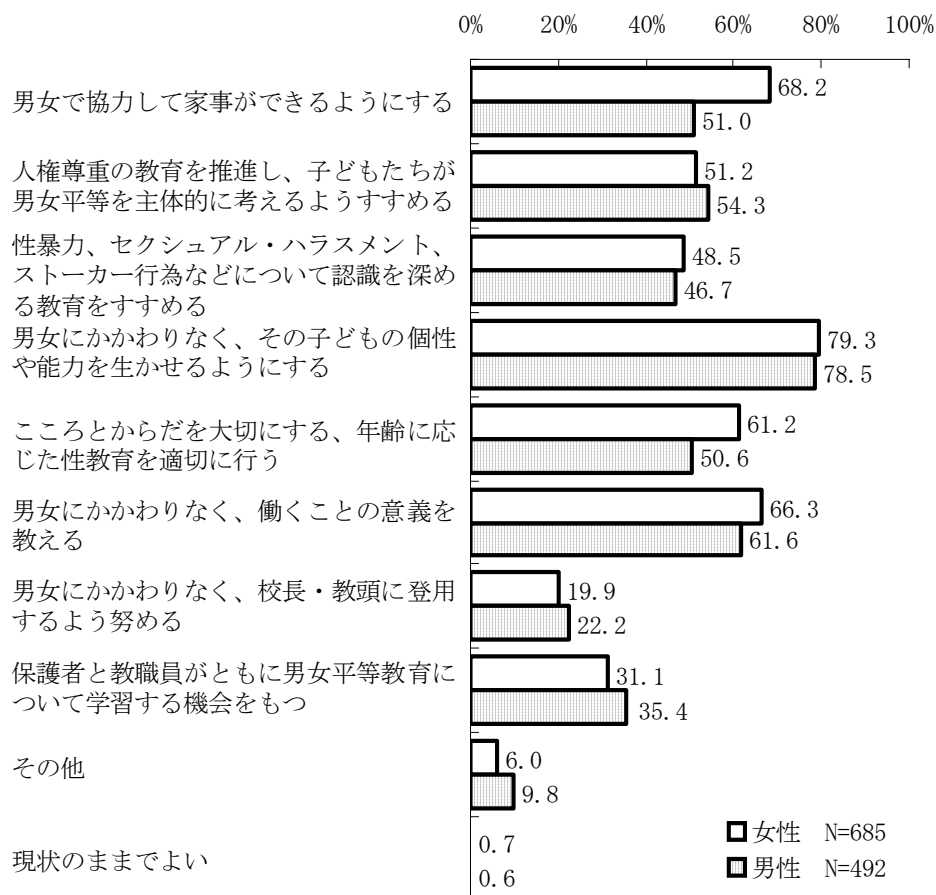
	女性						男性					
	全体	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	全体	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院
女の子	685	6.1	10.8	25.1	48.2	6.4	492	8.3	9.8	22.8	51.8	2.8
	406	9.1	8.4	21.7	49.3	3.4	312	9.3	7.1	25.6	49.0	3.8
男の子	685	3.8	5.7	3.9	70.7	13.0	492	4.7	5.3	4.7	69.5	12.4
	406	4.7	6.7	6.2	68.2	7.6	312	4.5	4.2	4.2	71.8	9.0

上段：本調査結果 下段：男女共同参画に関する府民意識調査（大阪府 2004年・平成16年）

※両調査の「中学生」と大阪府調査の「その他」は省略している

問 10 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中学校で行うとよいと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)

【図 4 - 3】



【性別】

男女ともに「男女にかかわらず、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」が約8割にのぼる。女性では次に「男女で協力して家事ができるようにする」が68.2%で続いており、男性では、「男女にかかわらず、働くことの意義を教える」(66.3%)が2番目に高い項目である。

「男女で協力して家事ができるようにする」では17.2ポイント、「こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を適切に行う」は10.6ポイント、女性の方が男性よりも高く、回答割合に違いがみられる。

【性・年代別】

女性の40歳代は、ほとんどの項目の回答割合が他の年代より高いが、中でも「男女で協力して家事ができるようにする」、「こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を適切に行う」が高い。

男性の70歳以上は、「男女にかかわらず、働くことの意義を教える」、「人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる」が他の年代より高い。

【表4-4 性・年代別】

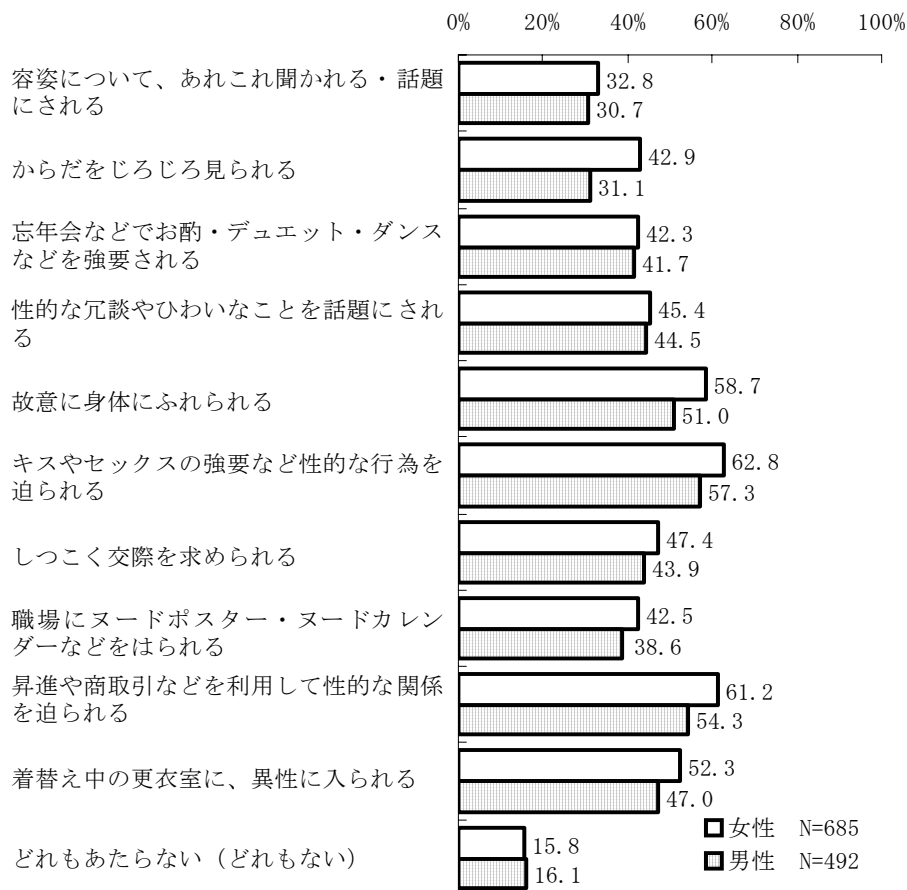
	全体	男女で協力して家事ができるようにする	人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる	性暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などについて認識を深める教育をすすめる	男女にかかわらず、その子どもの個性や能力を生かせるようにする	年齢に応じた性教育を適切に行う	男女にかかわらず、働くことの意義を教える	男女にかかわらず、校長・教頭に登用するよう努める	保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ	その他	現状のままでよい
全体	1195 100.0	732 61.3	628 52.6	569 47.6	943 78.9	678 56.7	771 64.5	250 20.9	396 33.1	89 7.4	8 0.7
女性 20歳代	70 100.0	47 67.1	36 51.4	34 48.6	55 78.6	39 55.7	47 67.1	25 35.7	29 41.4	4 5.7	- -
女性 30歳代	106 100.0	72 67.9	51 48.1	49 46.2	85 80.2	64 60.4	64 60.4	19 17.9	32 30.2	9 8.5	- -
女性 40歳代	113 100.0	87 77.0	65 57.5	56 49.6	96 85.0	78 69.0	73 64.6	19 16.8	32 28.3	3 2.7	1 0.9
女性 50歳代	150 100.0	108 72.0	77 51.3	73 48.7	114 76.0	92 61.3	97 64.7	34 22.7	33 22.0	13 8.7	2 1.3
女性 60歳代	154 100.0	94 61.0	71 46.1	75 48.7	126 81.8	92 59.7	105 68.2	23 14.9	53 34.4	9 5.8	1 0.6
女性 70歳代以上	92 100.0	59 64.1	51 55.4	45 48.9	67 72.8	54 58.7	68 73.9	16 17.4	34 37.0	3 3.3	1 1.1
男性 20歳代	41 100.0	22 53.7	17 41.5	18 43.9	30 73.2	20 48.8	17 41.5	6 14.6	15 36.6	4 9.8	- -
男性 30歳代	72 100.0	32 44.4	35 48.6	37 51.4	56 77.8	36 50.0	44 61.1	17 23.6	25 34.7	8 11.1	- -
男性 40歳代	78 100.0	35 44.9	42 53.8	45 57.7	65 83.3	37 47.4	42 53.8	12 15.4	24 30.8	8 10.3	- -
男性 50歳代	97 100.0	52 53.6	50 51.5	40 41.2	78 80.4	49 50.5	60 61.9	22 22.7	34 35.1	9 9.3	1 1.0
男性 60歳代	115 100.0	56 48.7	62 53.9	47 40.9	91 79.1	57 49.6	71 61.7	25 21.7	37 32.2	13 11.3	1 0.9
男性 70歳代以上	88 100.0	54 61.4	60 68.2	43 48.9	65 73.9	49 55.7	68 77.3	27 30.7	39 44.3	6 6.8	1 1.1

5. 男女の人権について

問 11 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメントにあたると思いますか。また、あなたは、自分の意思に反して職場、学校、地域で次のようなことをされたことがありますか。
(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントにあたると思う

【図 5 - 1】



【性別】

女性では、「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」、「故意に身体にふれられる」の項目をセクシュアル・ハラスメントにあたる人は約6割にのぼる。全ての項目において、女性の方が男性よりも回答割合が高く、特に「からだをじろじろ見られる」では、女性（42.9%）が男性（31.1%）よりも11.8ポイント高い。女性がセクシュアル・ハラスメントにあたると感じる行為でも男性はそう感じていない場合があることが分かる。

【性・年代別】

女性は40歳代以下と50歳代以上でセクシュアル・ハラスメントの認識が大きく異なる。男性では40歳代の認識が高い。

【性・職業別/性・就労形態別】

女性の雇用者は、いずれも回答割合が高く、中でも常勤フルタイムはさらに高くなっている。

【表5-1 性・年代別】セクシュアル・ハラスメントにあたると思う

	全体	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	からだをじろじろ見られる	忘年会などでお酌・デュエツト・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	故意に身体にふられる	キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	しつこく交際を求められる	職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどはられる	昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	着替え中の更衣室に、異性に入られる	どれもあたらな(どれもない)	無回答
全体	1195 100.0	379 31.7	450 37.7	501 41.9	535 44.8	659 55.1	718 60.1	545 45.6	483 40.4	691 57.8	594 49.7	189 15.8	218 18.2
女性	70 100.0	28 40.0	45 64.3	38 54.3	41 58.6	52 74.3	59 84.3	37 52.9	42 60.0	60 85.7	52 74.3	- -	7 10.0
20歳代	106 100.0	44 41.5	65 61.3	63 59.4	67 63.2	90 84.9	93 87.7	73 68.9	61 57.5	92 86.8	83 78.3	7 6.6	2 1.9
30歳代	113 100.0	52 46.0	67 59.3	65 57.5	68 60.2	89 78.8	92 81.4	70 61.9	67 59.3	90 79.6	81 71.7	10 8.8	6 5.3
40歳代	150 100.0	49 32.7	62 41.3	66 44.0	74 49.3	93 62.0	101 67.3	73 48.7	63 42.0	96 64.0	74 49.3	21 14.0	19 12.7
50歳代	154 100.0	38 24.7	40 26.0	40 26.0	43 27.9	53 34.4	60 39.0	51 33.1	41 26.6	55 35.7	48 31.2	45 29.2	33 21.4
60歳代	92 100.0	14 15.2	15 16.3	18 19.6	18 19.6	25 27.2	25 27.2	21 22.8	17 18.5	26 28.3	20 21.7	25 27.2	32 34.8
70歳代以上	41 100.0	9 22.0	12 29.3	21 51.2	23 56.1	23 56.1	30 73.2	22 53.7	25 61.0	28 68.3	24 58.5	5 12.2	6 14.6
男性	72 100.0	28 38.9	24 33.3	34 47.2	37 51.4	45 62.5	50 69.4	34 47.2	33 45.8	46 63.9	38 52.8	5 6.9	15 20.8
20歳代	78 100.0	31 39.7	37 47.4	46 59.0	44 56.4	48 61.5	59 75.6	45 57.7	39 50.0	56 71.8	51 65.4	6 7.7	12 15.4
30歳代	97 100.0	37 38.1	34 35.1	43 44.3	46 47.4	51 52.6	56 57.7	47 48.5	35 36.1	54 55.7	44 45.4	19 19.6	16 16.5
40歳代	115 100.0	31 27.0	27 23.5	38 33.0	44 38.3	56 48.7	60 52.2	45 39.1	35 30.4	55 47.8	47 40.9	21 18.3	32 27.8
50歳代	88 100.0	15 17.0	19 21.6	23 26.1	25 28.4	28 31.8	27 30.7	23 26.1	23 26.1	28 31.8	27 30.7	23 26.1	28 31.8
60歳代													
70歳代以上													

【表5-2 性・職業別/性・就労形態別】セクシュアル・ハラスメントにあたると思う

	全体	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	からだをじろじろ見られる	忘年会などでお酌・デュエツト・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	故意に身体にふられる	キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	しつこく交際を求められる	職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどはられる	昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	着替え中の更衣室に、異性に入られる	どれもあたらな(どれもない)	
全体	1195 100.0	379 31.7	450 37.7	501 41.9	535 44.8	659 55.1	718 60.1	545 45.6	483 40.4	691 57.8	594 49.7	189 15.8	
女性	自営業・家族従業員等	66 100.0	20 30.3	22 33.3	24 36.4	26 39.4	35 53.0	35 39.4	26 28.8	19 36.6	36 54.5	29 43.9	14 21.2
	雇用者	294 100.0	124 42.2	166 56.5	153 52.0	164 55.8	217 73.8	231 78.6	179 60.9	158 53.7	227 77.2	193 65.6	21 7.1
	家事専業・無職	303 100.0	74 24.4	93 30.7	101 33.3	111 36.6	138 45.5	148 48.8	111 36.6	99 32.7	140 46.2	121 39.9	72 23.8
男性	自営業・家族従業員等	53 100.0	19 35.8	22 41.5	26 49.1	27 50.9	30 56.6	36 67.9	31 58.5	24 45.3	35 66.0	30 56.6	8 15.1
	雇用者	247 100.0	91 36.8	89 36.0	117 47.4	119 48.2	140 56.7	159 64.4	119 48.2	103 41.7	147 59.5	126 51.0	37 15.0
	家事専業・無職	172 100.0	37 21.5	37 21.5	50 29.1	60 34.9	68 39.5	71 41.3	54 31.4	49 28.5	70 40.7	63 36.6	32 18.6
女性	常勤フルタイム	143 100.0	66 46.2	89 62.2	83 58.0	91 63.6	117 81.8	119 83.2	97 67.8	79 55.2	118 82.5	103 72.0	8 5.6
	長時間パートタイム	55 100.0	25 45.5	30 54.5	30 54.5	26 47.3	37 67.3	42 76.4	28 50.9	27 49.1	42 76.4	32 58.2	4 7.3
	短時間パートタイム	84 100.0	29 34.5	44 52.4	37 44.0	42 50.0	56 66.7	61 72.6	45 53.6	43 51.2	59 70.2	53 63.1	7 8.3
男性	常勤フルタイム	205 100.0	80 39.0	81 39.5	100 48.8	105 51.2	116 56.6	133 64.9	103 50.2	87 42.4	126 61.5	107 52.2	29 14.1

《参考》

「女性の就労に関する調査」と比較すると、男女とも全ての項目で本調査の割合の方が低い。「女性の就労に関する調査」では、雇われて働いている人のみにセクシュアル・ハラスメントの経験と認識をたずねており、働いている場合とそうでない場合とではセクシュアル・ハラスメントに対する認識に違いがあることが考えられる。

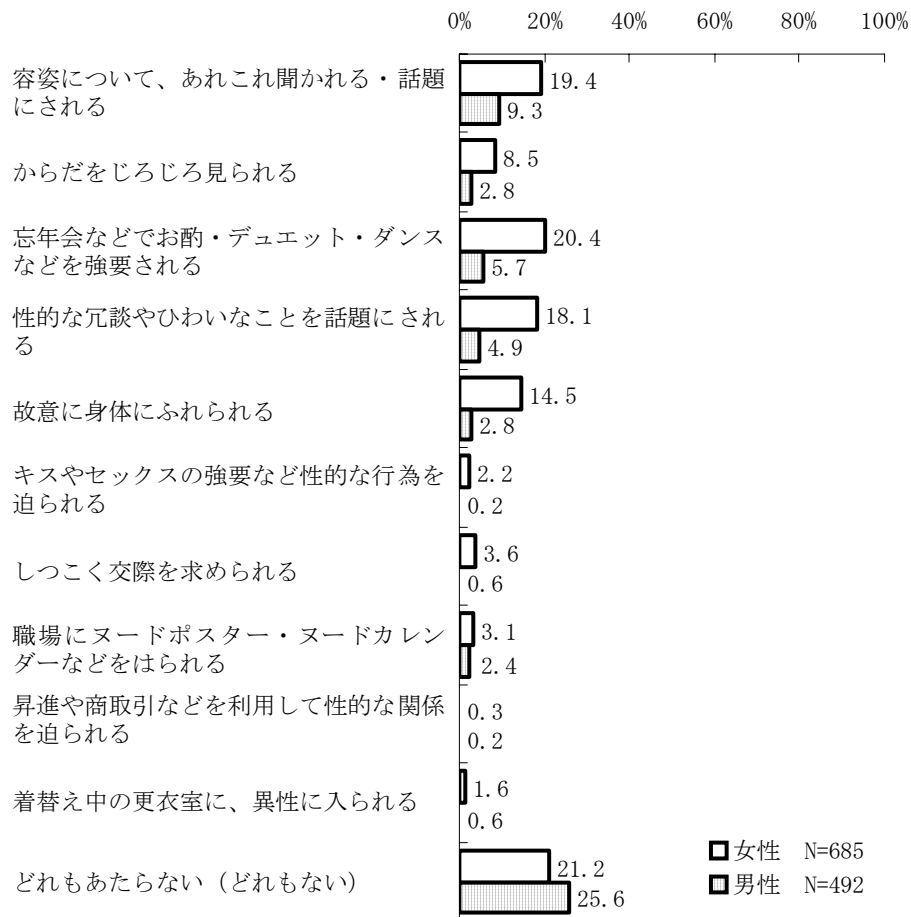
《表 5-3 セクシュアル・ハラスメントの認識》

	女性	男性
容姿について、あれこれ聞かれる（話題にされる）	34.8	39.8
からだをじろじろ見られる	52.6	53.3
忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	52.6	65.0
性的な冗談やひわいなことを話題にされる	56.9	61.3
故意に身体にふれられる	81.3	80.5
キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	88.3	87.3
しつこく交際を求められる	69.5	70.8
職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる	50.2	53.0
昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	83.8	81.8

女性の就労に関する調査（豊中市、2001年・平成13年）

職場でされたことがある

【図5-2】



【性別】

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性で「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が2割で最も高い。次いで「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(19.4%)、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」(18.1%)が僅差で続いている。男性では「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が9.3%で最も高いが、いずれの項目も1割に満たない。

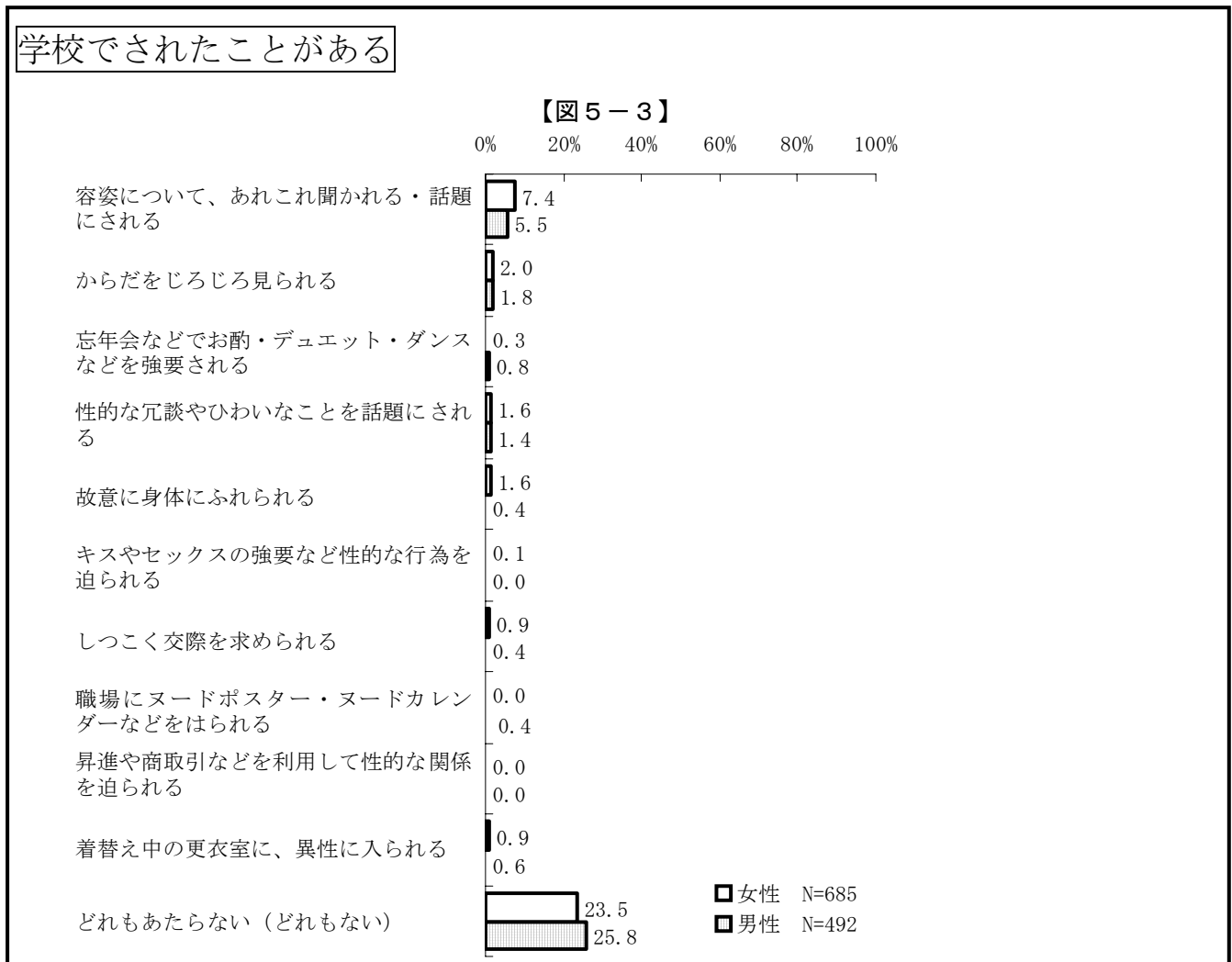
《参考》

「女性の就労に関する調査」では、女性に対してのみセクシュアル・ハラスメントを受けた経験をたずねている。ほとんどの項目において本調査の方が割合が高く、特に「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」は7.8ポイント高くなっている。

《表5-4 セクシュアル・ハラスメントの経験/女性》

	女性
容姿について、あれこれ聞かれる（話題にされる）	17.2
からだをじろじろ見られる	9.5
忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	12.6
性的な冗談やひわいなことを話題にされる	15.9
故意に身体にふれられる	11.9
キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	2.2
しつこく交際を求められる	3.4
職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる	2.7
昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	1.5
どれもない	52.9

女性の就労に関する調査（豊中市、2001年・平成13年）

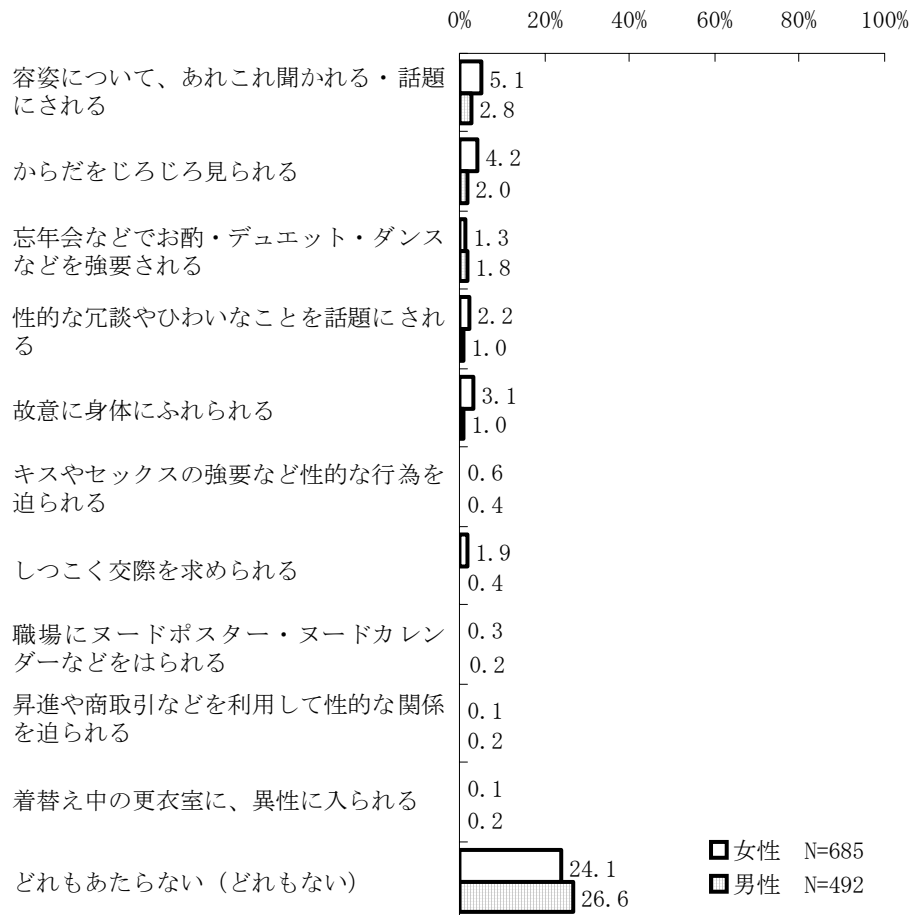


【性別】

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、男女とも少ないが、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が男女ともにやや高く、女性は7.4%、男性は5.5%となっている。

地域でされたことがある

【図5-4】



【性別】

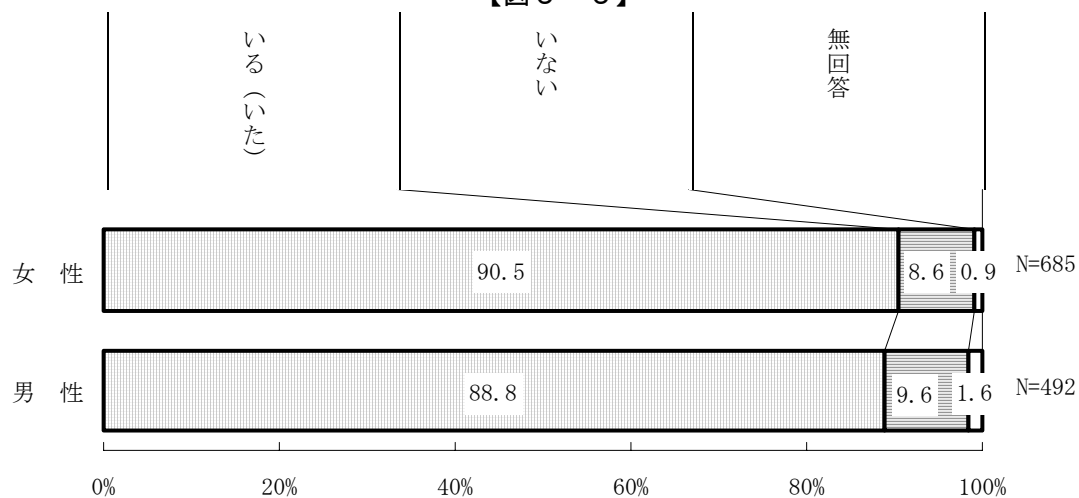
地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性は「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」、「からだをじろじろ見られる」、「故意に身体にふれられる」が3～5%という状況で、男性はいずれの項目も3%以下である。

【性別/職場・学校・地域を通じたセクシュアル・ハラスメントの経験】

職場、学校、地域のいずれかで、一つでもセクシュアル・ハラスメントの経験がある人は、女性48.8%、男性18.9%となっている。

問 12 あなたは、現在あるいは過去に配偶者・パートナー・恋人がいます（過去にいました）か。
（〇は1つ）

【図5-5】



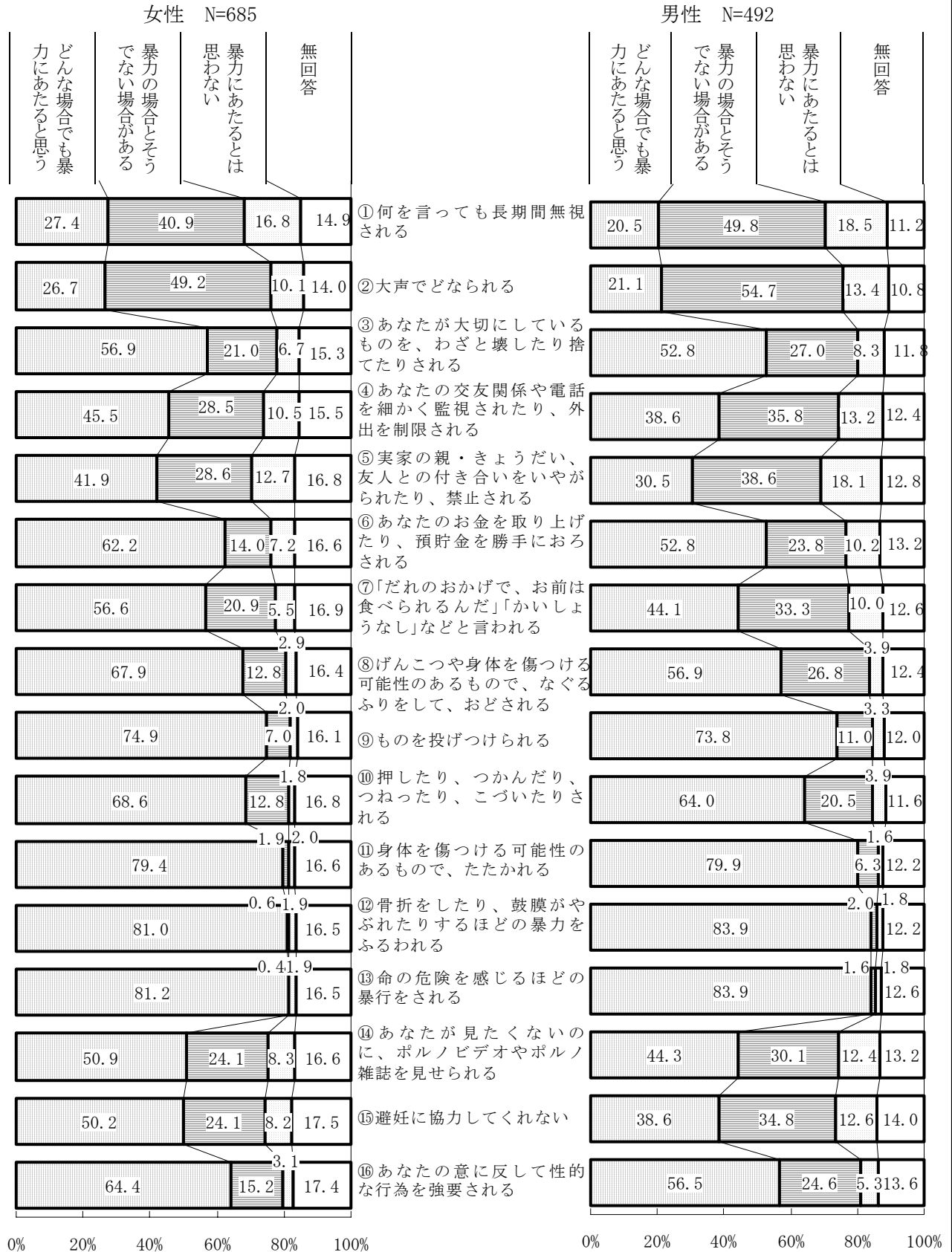
【性別】

現在あるいは過去に配偶者・パートナー・恋人が「いる（いた）」人の割合は、女性 90.5%、男性 88.8%で、女性の方が男性と比べるとやや高い。

問 13 あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか。また、これまで次のようなことをされたことがありますか。①～⑱それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれに1つ)

DVに対する認識

【図5-6】



【性別】

DVに関する項目について、⑬「命の危険を感じるほどの暴行をされる」、⑭「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」、⑮「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」などの身体的暴力に関する項目では、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答している人の割合が8割前後でほぼ同率となっている。これら3つの程度のひどい暴力については、無回答を除くとほとんどの人が、どんな場合でも暴力にあたると思認識している。①「何を言っても長期間無視される」、②「大声でどなられる」は他に比べると暴力の認識が低く、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性で3割弱、男性では約2割である。

ほとんどの項目で、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高く、男女でDVに対する認識の違いがみられる。中でも⑤「実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」、⑦『「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」』『「かいしようなし」』などと言われる」、⑧「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」、⑮「避妊に協力してくれない」の項目では「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答は女性の方が10ポイント以上高く、違いが大きい。

【性・年代別/「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答割合】

男女とも40歳代以下の方がそれ以上の年代よりも、ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が高い。

DVに対する認識【表5-5 性・年代別/「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答割合】

	全体	①何を言っても長期間無視される	②大声でどなられる	③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	④あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	⑥あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしようなし」などと言われる	⑧「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	⑨「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる
全体	1195 100.0	290 24.3	289 24.2	656 54.9	505 42.3	439 36.7	691 57.8	608 50.9	748 62.6	
女性	70 100.0	15 21.4	13 18.6	47 67.1	37 52.9	39 55.7	56 80.0	46 65.7	59 84.3	
女性 20歳代	106 100.0	32 30.2	34 32.1	68 64.2	55 51.9	51 48.1	81 76.4	74 69.8	85 80.2	
女性 30歳代	113 100.0	43 38.1	41 36.3	77 68.1	59 52.2	61 54.0	80 70.8	76 67.3	94 83.2	
女性 40歳代	150 100.0	52 34.7	38 25.3	89 59.3	71 47.3	63 42.0	100 66.7	93 62.0	109 72.7	
女性 50歳代	154 100.0	33 21.4	40 26.0	72 46.8	58 37.7	50 32.5	69 44.8	64 41.6	80 51.9	
女性 60歳代	92 100.0	13 14.1	17 18.5	37 40.2	32 34.8	23 25.0	40 43.5	35 38.0	38 41.3	
女性 70歳代以上	41 100.0	8 19.5	6 14.6	29 70.7	22 53.7	21 51.2	31 75.6	22 53.7	27 65.9	
男性	72 100.0	13 18.1	21 29.2	46 63.9	29 40.3	24 33.3	42 58.3	31 43.1	52 72.2	
男性 20歳代	78 100.0	20 25.6	17 21.8	48 61.5	34 43.6	33 42.3	46 59.0	40 51.3	47 60.3	
男性 30歳代	97 100.0	22 22.7	25 25.8	51 52.6	38 39.2	28 28.9	53 54.6	56 57.7	63 64.9	
男性 40歳代	115 100.0	21 18.3	18 15.7	49 42.6	40 34.8	23 20.0	50 43.5	35 30.4	54 47.0	
男性 50歳代	88 100.0	17 19.3	17 19.3	37 42.0	27 30.7	21 23.9	38 43.2	33 37.5	37 42.0	
男性 60歳代										
男性 70歳代以上										

DVに対する認識【表5-5 性・年代別/「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答割合】

	全体	⑨ものを投げつけられる	⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こぶいたりされる	⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たかれる	⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる	⑭あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	⑮避妊に協力してくれない	⑯あなたの意に反して性的な行為を強要される
全体	1195 100.0	881 73.7	790 66.1	943 78.9	974 81.5	976 81.7	571 47.8	535 44.8	723 60.5
女性	70	61	48	64	66	66	36	48	57
20歳代	100.0	87.1	68.6	91.4	94.3	94.3	51.4	68.6	81.4
女性	106	91	83	99	101	101	67	72	83
30歳代	100.0	85.8	78.3	93.4	95.3	95.3	63.2	67.9	78.3
女性	113	97	93	104	103	104	69	74	84
40歳代	100.0	85.8	82.3	92.0	91.2	92.0	61.1	65.5	74.3
女性	150	127	114	133	135	135	90	82	107
50歳代	100.0	84.7	76.0	88.7	90.0	90.0	60.0	54.7	71.3
女性	154	92	89	95	101	101	58	47	73
60歳代	100.0	59.7	57.8	61.7	65.6	65.6	37.7	30.5	47.4
女性	92	45	43	49	49	49	29	21	37
70歳代以上	100.0	48.9	46.7	53.3	53.3	53.3	31.5	22.8	40.2
男性	41	33	27	36	40	40	26	26	32
20歳代	100.0	80.5	65.9	87.8	97.6	97.6	63.4	63.4	78.0
男性	72	58	48	64	65	66	34	37	53
30歳代	100.0	80.6	66.7	88.9	90.3	91.7	47.2	51.4	73.6
男性	78	65	56	69	73	74	45	41	57
40歳代	100.0	83.3	71.8	88.5	93.6	94.9	57.7	52.6	73.1
男性	97	78	65	78	84	83	45	32	56
50歳代	100.0	80.4	67.0	80.4	86.6	85.6	46.4	33.0	57.7
男性	115	78	73	88	93	92	42	33	45
60歳代	100.0	67.8	63.5	76.5	80.9	80.0	36.5	28.7	39.1
男性	88	51	46	58	58	58	26	21	35
70歳代以上	100.0	58.0	52.3	65.9	65.9	65.9	29.5	23.9	39.8

《参考》

「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査と比較すると、女性は「何を言っても長期間無視される」、「あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」、「実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」の項目で、男性は「何を言っても長期間無視される」と「あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」の項目で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答割合は、本調査の方が高い。特に「何を言っても長期間無視される」は男女とも10ポイント程度高くなっている。

《表5-6 暴力の認識/前回調査結果》

	女性				男性				
	るとも 思う も暴力 にあた る	どんな 場合 で	合が ある そう でな い場 場	暴力 にあ たる とは 思わ ない	無 回 答	るとも 思う も暴力 にあた る	どんな 場合 で	合が ある そう でな い場 場	暴力 にあ たる とは 思わ ない
何を言っても無視する	15.3	58.0	23.6	3.0	10.9	64.2	23.4	1.5	
大声でどなられる	31.6	54.0	12.2	2.3	23.3	62.6	12.7	1.4	
大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする	67.7	24.2	5.7	2.4	64.7	26.8	7.3	1.2	
交友関係や電話を細かく監視したり、外出を制限する	44.4	39.2	13.4	3.0	38.5	47.4	12.9	1.2	
実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止する	40.5	39.7	17.0	2.9	35.7	46.5	16.3	1.5	
「妻・パートナー」のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	70.4	18.8	8.1	2.7	65.7	24.4	8.1	1.7	
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言う	62.6	25.3	9.0	3.2	57.4	31.4	9.8	1.4	
げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどす	77.4	16.1	3.9	2.6	74.0	21.6	3.1	1.4	
ものを投げつける	88.9	6.5	2.1	2.6	86.1	11.0	1.7	1.2	
押したり、つかんだり、つねったり、こぶいたりする	89.5	6.5	1.5	2.6	86.6	9.8	2.2	1.4	
身体を傷つける可能性のあるもので、たたく	94.1	1.5	1.8	2.6	93.0	3.2	2.2	1.5	
「妻・パートナー」は見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	54.1	30.8	12.3	2.7	47.5	38.7	12.4	1.4	
避妊に協力しない	55.8	30.5	10.8	2.9	45.8	41.3	11.4	1.5	
「妻・パートナー」の意に反して性的な行為を強要する	69.6	22.7	5.1	2.6	61.1	31.7	5.6	1.5	

「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査（豊中市、2001年・平成13年）

DVに関する認識は、DVの社会的認知が高まるにつれ高くなると考えられるが、本調査結果と4年前にほぼ同様の項目をたずねた「夫・パートナーからの女性に対する暴力調査」を比べて、「どんな場合でも暴力にあたる」の回答割合は必ずしも高くなっていない。2つの調査の違いとして、前回調査では調査のタイトルを「日常生活における女性の人権に関する調査」として18歳以上の男女市民を対象に行われ、設問内容はDVが中心で、回収率は約40%で今回とほぼ同じである。ただ、DVに関する認識の設問で前回調査では無回答は2～3%程度までであるのに対して、今回調査では男女とも10%を超えていることから、前回調査で回答をよせた市民は「女性の人権」というテーマに対して今回調査の回答者よりも関心が高いことが考えられる。無回答を除いて構成比を計算した場合には、女性は14項目中9項目で今回調査の方が「どんな場合でも暴力にあたる」の回答割合が高くなる。

【表5-7 本調査と「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査の比較】

	女性				男性						
	N	も暴力にあたると思う	どんな場合でも暴力にあたる	合がある	暴力の場合とそうでない場合	暴力にあたると思わない	N	も暴力にあたると思う	どんな場合でも暴力にあたる	合がある	暴力の場合とそうでない場合
何を言っても無視する	583	32.2	48.0	19.7	437	23.1	56.1	20.8			
	644	15.8	59.9	24.4	580	11.1	65.2	23.8			
大声でどなられる	589	31.1	57.2	11.7	439	23.7	61.3	15.0			
	650	32.3	55.2	12.5	581	23.6	63.5	12.9			
大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする	580	67.2	24.8	7.9	434	59.9	30.6	9.4			
	649	69.4	24.8	5.8	582	65.5	27.1	7.4			
交友関係や電話を細かく監視したり、外出を制限する	579	53.9	33.7	12.4	431	44.1	40.8	15.1			
	645	45.8	40.4	13.8	582	39.0	48.0	13.1			
実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止する	570	50.4	34.4	15.3	429	35.0	44.3	20.7			
	646	41.7	40.8	17.5	580	36.2	47.2	16.5			
「妻・パートナー」のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	571	74.6	16.8	8.6	427	60.9	27.4	11.7			
	647	72.4	19.3	8.3	578	66.9	24.8	8.2			
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言う	569	68.2	25.1	6.7	430	50.5	38.1	11.4			
	644	64.6	26.1	9.3	581	58.2	31.8	9.9			
げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどす	573	81.2	15.4	3.5	431	65.0	30.6	4.4			
	648	79.5	16.5	4.0	581	75.0	21.9	3.1			
ものを投げつける	575	89.2	8.3	2.4	433	83.8	12.5	3.7			
	648	91.2	6.7	2.2	582	87.1	11.1	1.7			
押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりする	570	82.5	15.4	2.1	435	72.4	23.2	4.4			
	648	91.8	6.7	1.5	581	87.8	9.9	2.2			
身体を傷つける可能性のあるもので、たたく	571	95.3	2.3	2.5	432	91.0	7.2	1.9			
	648	96.6	1.5	1.8	580	94.5	3.3	2.2			
「妻・パートナー」は見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	571	61.1	28.9	10.0	427	51.1	34.7	14.3			
	646	55.7	31.7	12.7	581	48.2	39.2	12.6			
避妊に協力しない	565	60.9	29.2	9.9	423	44.9	40.4	14.7			
	646	57.5	31.4	11.1	580	46.5	41.9	11.6			
「妻・パートナー」の意に反して性的な行為を強要する	566	77.9	18.4	3.7	425	65.4	28.5	6.1			
	648	71.5	23.3	5.2	580	62.1	32.2	5.7			

※無回答を除いた回答者数で構成比を計算

上段：本調査、下段：「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査（豊中市、2001年・平成13年）

《参考》

本調査結果の方が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は低くなっている。

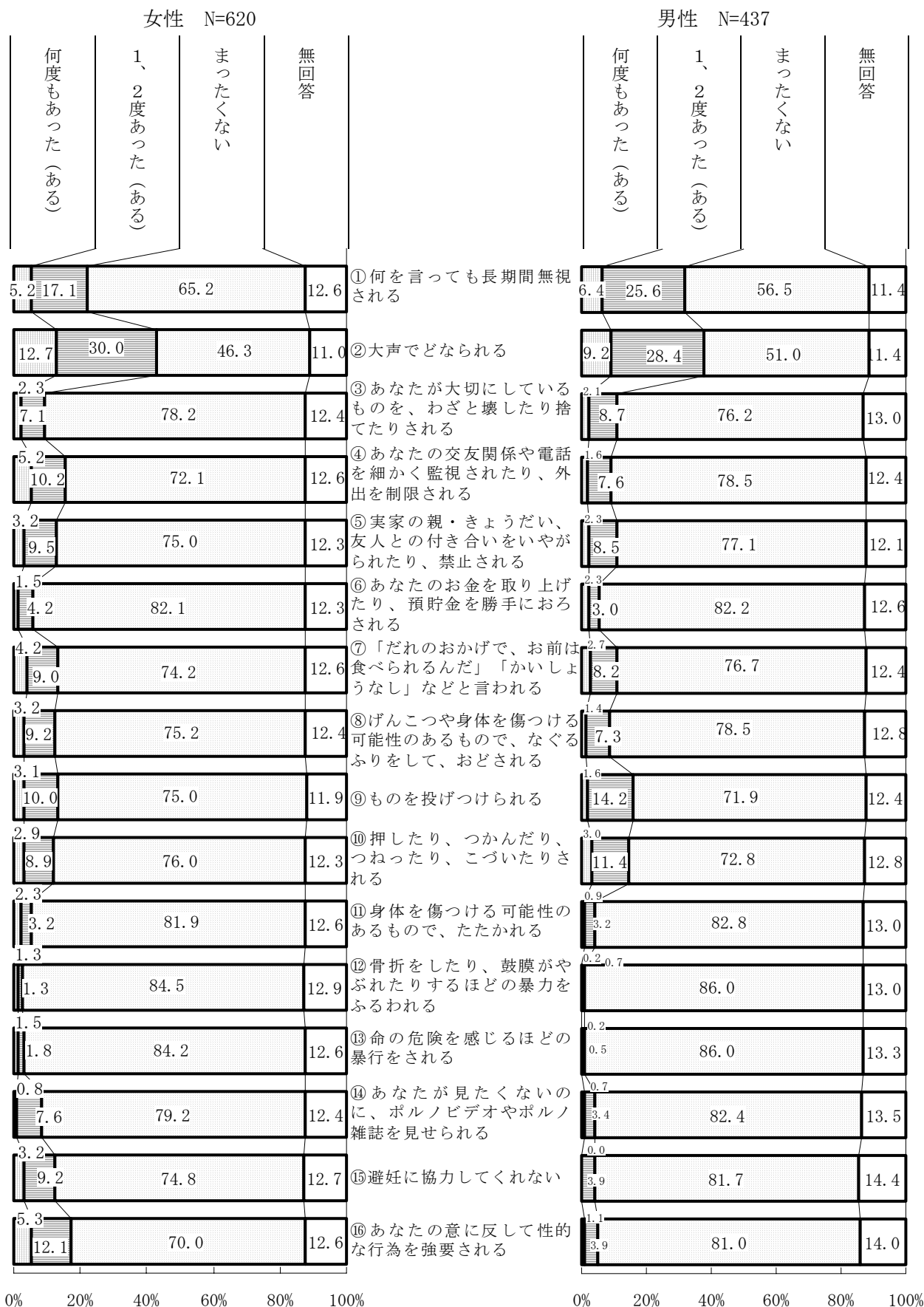
《表 5-8 暴力の認識「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合/本調査と大阪府調査の比較》

	全体	女性	男性
本調査	1195	685	492
大阪府調査	719	406	312
何を言っても長期間無視される	24.3	27.4	20.5
何を言っても長期間無視し続ける	39.2	38.7	40.1
大声でどなられる	24.2	26.7	21.1
大声でどなる	40.2	45.8	33.0
あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	42.3	45.5	38.6
相手の交友関係や電話を細かく監視する	39.9	40.1	39.7
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	50.9	56.6	44.1
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」とか言う	55.6	58.9	51.6
身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	78.9	79.4	79.9
身体を傷付ける可能性のあるものでなぐる	92.1	91.9	92.3
あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	47.8	50.9	44.3
相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	58.1	58.1	58.3
あなたの意に反して性的な行為を強要される	60.5	64.4	56.5
相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する	68.7	69.7	67.6

上段：本調査結果 下段：男女共同参画に関する府民意識調査（大阪府 平成 16 年）
※ほぼ同じ内容の項目のみ

DVの経験

【図5-7】



【性別】

配偶者・パートナー・恋人がいる（いた）と答えた人のDV経験について、「何度もあった（ある）」と「1、2度あった（ある）」を合計した『経験あり』は、②「大声でどなられる」が最も高い割合となっており、女性 42.7%、男性 37.6%となっている。次いで高いのは①「何を言っても長期間無視される」で女性 22.3%、男性 32.0%で、男性の方が 9.7 ポイント高い。女性では次に⑩「あなたの意に反して性的な行為を強要される」が 17.4%と男性（5.0%）よりも 12.4 ポイント高い。また、⑬「命の危険を感じるほどの暴行をされる」、⑫「骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」を『経験あり』と回答している女性がそれぞれ 3.3%（20 人）、2.6%（16 人）いる。

精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力にあたる項目は男性の回答割合の方が高いものもあるが、暴力の程度がひどいものは、女性の回答割合が高い。

【性・年代別/何度もあった・1、2度あったの合計】

女性は 50 歳代が他の年代よりやや割合が高く、男性はわずかではあるが 40 歳代がやや高い。

DVの経験【表5-9 性・年代別/何度もあった・1、2度あったの合計】

	全体	①何を言っても長期間無視される	②大声でどなられる	③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	④あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	⑥あなたのお金を取り上げた（り、預貯金を勝手におろされる	⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしよくなし」などと言われる	⑧げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる
全体	1071 100.0	280 26.1	434 40.5	107 9.9	136 12.7	126 11.8	58 5.4	132 12.3	117 10.9
女性	55	7	15	3	14	7	0	4	6
20歳代	100.0	12.7	27.3	5.4	25.5	12.7	0.0	7.3	10.9
女性	86	14	40	6	15	11	2	9	3
30歳代	100.0	16.3	46.5	7.0	17.4	12.8	2.4	10.5	3.5
女性	110	25	57	9	15	16	6	17	14
40歳代	100.0	22.8	51.8	8.1	13.7	14.5	5.4	15.4	12.7
女性	143	40	72	17	26	20	9	24	28
50歳代	100.0	28.0	50.4	11.9	18.2	14.0	6.3	16.8	19.6
女性	145	35	56	20	22	17	13	20	17
60歳代	100.0	24.1	38.6	13.7	15.2	11.8	9.0	13.8	11.8
女性	81	17	25	3	3	8	5	8	9
70歳代以上	100.0	20.9	30.8	3.7	3.7	9.9	6.2	9.9	11.1
男性	28	12	10	4	3	3	0	3	4
20歳代	100.0	42.9	35.7	14.3	10.7	10.7	0.0	10.7	14.3
男性	49	17	20	3	6	3	4	8	2
30歳代	100.0	34.7	40.9	6.1	12.2	6.1	8.1	16.3	4.1
男性	69	26	37	10	11	13	6	12	7
40歳代	100.0	37.6	53.6	14.4	15.9	18.8	8.7	17.3	10.1
男性	93	40	44	14	12	15	5	10	12
50歳代	100.0	43.1	47.3	15.0	13.0	16.2	5.4	10.8	12.9
男性	112	32	36	12	5	9	8	12	10
60歳代	100.0	28.6	32.1	10.7	4.5	8.1	7.2	10.7	8.9
男性	85	13	17	4	3	4	0	3	3
70歳代以上	100.0	15.3	20.0	4.7	3.5	4.7	0.0	3.5	3.5

DVの経験【表5-9 性・年代別/何度もあった・1、2度あったの合計】

	全体	⑨ものを投げつけられる	⑩押しついたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる	⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる	⑭あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	⑮避妊に協力してくれない	⑯あなたの意に反して性的な行為を強要される
全体	1071 100.0	153 14.3	137 12.8	52 4.9	20 1.8	23 2.1	70 6.5	95 8.9	130 12.1
女性	55	3	11	0	0	0	6	11	10
20歳代	100.0	5.5	20.0	0.0	0.0	0.0	10.9	20.0	18.2
女性	86	9	13	2	0	3	3	9	11
30歳代	100.0	10.5	15.1	2.4	0.0	3.5	3.5	10.5	12.8
女性	110	14	12	7	3	4	7	13	18
40歳代	100.0	12.7	10.9	6.3	2.7	3.6	6.4	11.8	16.4
女性	143	26	20	13	5	6	18	14	29
50歳代	100.0	18.2	14.0	9.1	3.5	4.2	12.6	9.8	20.3
女性	145	19	9	8	5	4	11	23	31
60歳代	100.0	13.1	6.2	5.6	3.5	2.8	7.6	15.9	21.4
女性	81	10	8	4	3	3	7	7	9
70歳代以上	100.0	12.4	9.9	5.0	3.7	3.7	8.6	8.6	11.1
男性	28	5	7	2	0	0	0	0	0
20歳代	100.0	17.9	25.0	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性	49	8	10	1	0	0	2	3	5
30歳代	100.0	16.3	20.4	2.0	0.0	0.0	4.1	6.1	10.2
男性	69	12	14	3	1	0	1	3	6
40歳代	100.0	17.4	20.3	4.3	1.4	0.0	1.4	4.3	8.6
男性	93	19	17	7	1	2	5	4	4
50歳代	100.0	20.5	18.3	7.6	1.1	2.2	5.4	4.3	4.3
男性	112	18	8	3	1	1	6	7	6
60歳代	100.0	16.1	7.2	2.7	0.9	0.9	5.4	6.3	5.4
男性	85	7	7	2	1	0	4	0	1
70歳代以上	100.0	8.2	8.3	2.4	1.2	0.0	4.7	0.0	1.2

【性別/暴力の種類別経験の割合】

①から⑯までのDVにあたる行為を、精神的暴力、身体的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力の5種類に分け、その経験者の割合をみると、性的暴力では女性23.5%、男性8.9%となっており、女性の方が14.6ポイント高い。精神的暴力、身体的暴力、社会的暴力、経済的暴力の行為の経験においても女性の方が男性よりも経験のある人の割合はわずかに高くなっている。

【表5-10 性別/暴力の種類別経験の割合】

暴力の種類	該当する項目	経験者の割合	
		女性	男性
精神的暴力	①何を言っても長期間無視される、②大声でどなられる、③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる、⑧げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	48.5	47.4
身体的暴力	⑨ものを投げつけられる、⑩押しついたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる、⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる、⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる、⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる	19.0	21.5
社会的暴力	④あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される、⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	20.3	15.3
経済的暴力	⑥あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	15.8	13.3
性的暴力	⑭あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる、⑮避妊に協力してくれない、⑯あなたの意に反して性的な行為を強要される	23.5	8.9

【性別/暴力の重複状況】

①から⑯までのDVにあたる行為で、一つでも経験のある人は、全体で583人（女性351人、男性227人）である。男女とも、これまでに配偶者・パートナー・恋人がいた人の半数以上である。

暴力の重複状況をみると、どれか一つだけの経験よりも複数の種類が重複している場合が多く、重複している割合は女性の方が高い。

【表5-11 性別/暴力の重複状況】

	全体	経験あり	精神的暴力のみ	身体的暴力のみ	社会的暴力のみ	経済的暴力のみ	性的暴力のみ	複2つ〜4つの重	全て重複	暴力の経験なし・無回答
全体	1071 100.0	583 54.4	176 16.4	11 1.0	19 1.8	8 0.7	11 1.0	323 30.2	35 3.3	488 45.6
女性	620 100.0	351 56.6	97 15.6	7 1.1	13 2.1	5 0.8	10 1.6	193 31.1	26 4.2	269 43.4
男性	437 100.0	227 51.9	77 17.6	4 0.9	6 1.4	3 0.7	1 0.2	127 29.1	9 2.1	210 48.1

《参考》

「夫・パートナーからの女性に対する暴力調査」と比較すると、「あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」、「あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる」、「あなたの意に反して性的な行為を強要される」の項目では、本調査の方が『経験あり』の割合は2ポイント以上高くなっている。

《表5-12 暴力の経験》

	何度もあった	1、2度あった	経験あり
何を言っても無視する	9.2	25.9	35.1
大声でどなられる	16.7	35.4	52.1
あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	2.5	6.5	9.0
あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	3.3	9.4	12.7
実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	1.1	12.1	13.2
あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	1.3	5.2	6.5
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	4.0	12.5	16.5
げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	3.6	11.5	15.1
ものを投げつけられる	3.8	12.5	16.3
押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる	4.4	12.1	16.5
身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	1.7	3.1	4.8
骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	0.8	3.1	3.9
命の危険を感じるほどの暴行をされる	1.1	1.9	3.0
あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	0.6	5.2	5.8
避妊に協力してくれない	2.3	8.4	10.7
あなたの意に反して性的な行為を強要される	3.8	11.5	15.3

「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査（豊中市、2001年・平成13年）

※「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査では、女性に対してのみDVの経験をたずねている。

DVにあたる行為の経験を大阪府調査と比較すると、全体では「何を言っても長期間無視される」、「大声でどなられる」、「あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる」は本調査の割合がやや高くなっている。

《表5-13 暴力の経験/本調査と大阪府調査の比較》

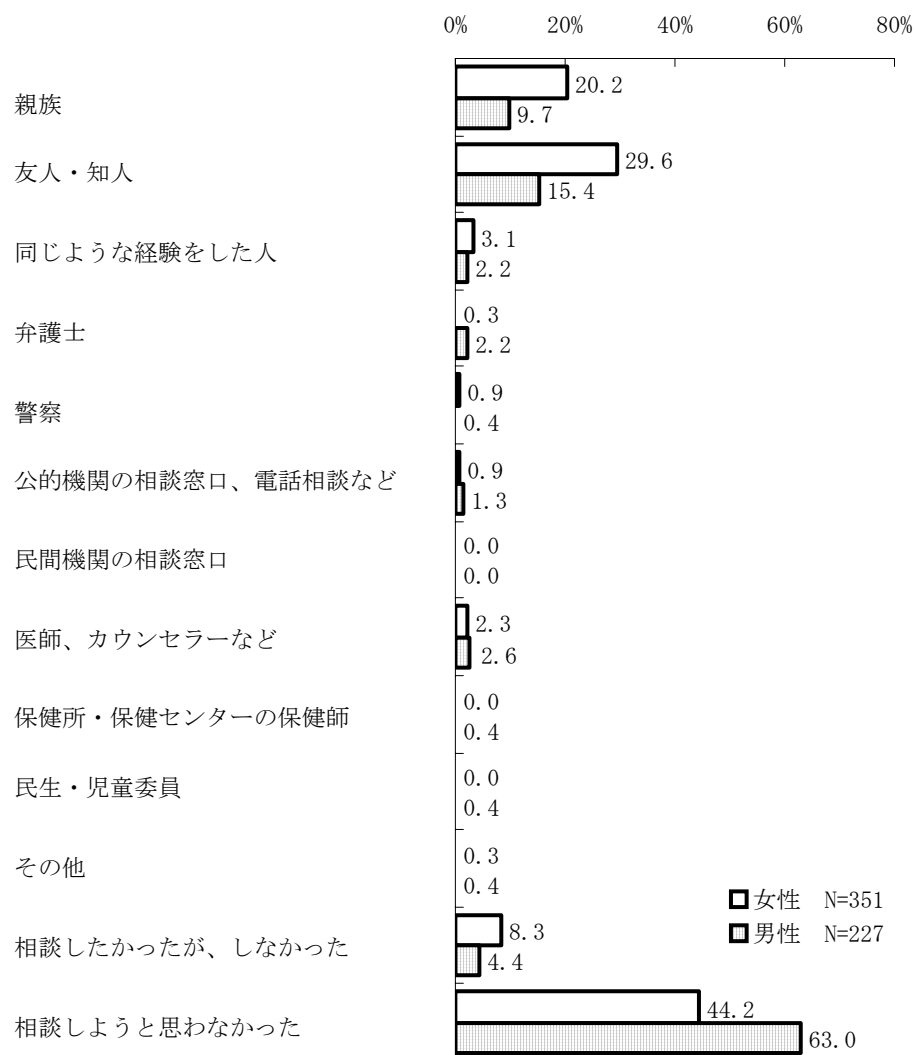
	全体	女性	男性
本調査	1071	620	437
大阪府調査	570	319	251
何を言っても長期間無視される	26.1	22.3	32.0
何を言っても長期間無視され続ける	22.8	20.7	25.5
大声でどなられる	40.5	42.7	37.6
大声でどなられる	38.7	46.0	29.5
あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	12.7	15.4	9.2
交友関係や電話を細かく監視される	13.0	14.7	10.8
「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	12.3	13.2	10.9
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる	16.7	20.4	12.0
命の危険を感じるほどの暴行をされる	2.1	3.3	0.7
命の危険を感じるくらいの暴行をうける	4.0	6.2	1.2
あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	6.5	8.4	4.1
あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	5.1	8.7	0.4
あなたの意に反して性的な行為を強要される	12.1	17.4	5.0
あなたがいやがっているのに性的な行為を強要される	13.9	23.2	2.0

上段：本調査結果 下段：男女共同参画に関する府民意識調査（大阪府 2004年・平成16年）

※ほぼ同じ内容の項目のみ

問 14 「配偶者・パートナー・恋人」からの行為について、だれかに相談しましたか。(〇はいくつでも)

【図 5 - 8】



【性別】

DVの項目について『経験あり』と回答した人のうち、「相談しようと思わなかった」人は女性 44.2%、男性 63.0%であった。

相談した人の相談先についてみると、「友人・知人」が最も高く、女性 29.6%、男性 15.4%となっている。次に「親族」が女性 20.2%、男性 9.7%が続いている。「相談したかったが、しなかった」と回答している人は女性 8.3%、男性 4.4%である。

【性・年代別】

女性 20 歳代、30 歳代では友人・知人が 5 割を超えている。

【表 5-14 性・年代別】

	全体	親族	友人・知人	同じような経験をした人	弁護士	警察	公的機関の相談窓口、電話相談など	医師、カウンセラーなど	その他	相談したかったが、しなかった	相談しようと思わなかった
全体	583 100.0	93 16.0	139 23.8	16 2.7	6 1.0	4 0.7	6 1.0	14 2.4	2 0.3	39 6.7	299 51.3
女性 20 歳代	27 100.0	3 11.1	15 55.6	2 7.4	-	-	-	-	-	1 3.7	9 33.3
女性 30 歳代	50 100.0	13 26.0	27 54.0	1 2.0	-	1 2.0	-	1 2.0	1 2.0	4 8.0	18 36.0
女性 40 歳代	68 100.0	19 27.9	20 29.4	-	-	-	1 1.5	1 1.5	-	3 4.4	34 50.0
女性 50 歳代	85 100.0	20 23.5	23 27.1	1 1.2	1 1.2	-	1 1.2	3 3.5	-	7 8.2	38 44.7
女性 60 歳代	83 100.0	12 14.5	15 18.1	5 6.0	-	1 1.2	1 1.2	1 1.2	-	11 13.3	37 44.6
女性 70 歳代以上	38 100.0	4 10.5	4 10.5	2 5.3	-	1 2.6	-	2 5.3	-	3 7.9	19 50.0
男性 20 歳代	18 100.0	1 5.6	4 22.2	-	-	-	-	-	-	1 5.6	12 66.7
男性 30 歳代	27 100.0	1 3.7	7 25.9	1 3.7	-	-	-	1 3.7	-	-	18 66.7
男性 40 歳代	43 100.0	8 18.6	10 23.3	-	3 7.0	-	1 2.3	1 2.3	-	1 2.3	25 58.1
男性 50 歳代	58 100.0	5 8.6	4 6.9	2 3.4	-	-	-	-	-	4 6.9	42 72.4
男性 60 歳代	52 100.0	6 11.5	9 17.3	2 3.8	1 1.9	1 1.9	2 3.8	4 7.7	1 1.9	3 5.8	31 59.6
男性 70 歳代以上	29 100.0	1 3.4	1 3.4	-	1 3.4	-	-	-	-	1 3.4	15 51.7

《参考》

「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査と比較すると、本調査の方が相談した割合が 17.9 ポイント高くなっている。

《表 5-15 DV についての相談（女性）》

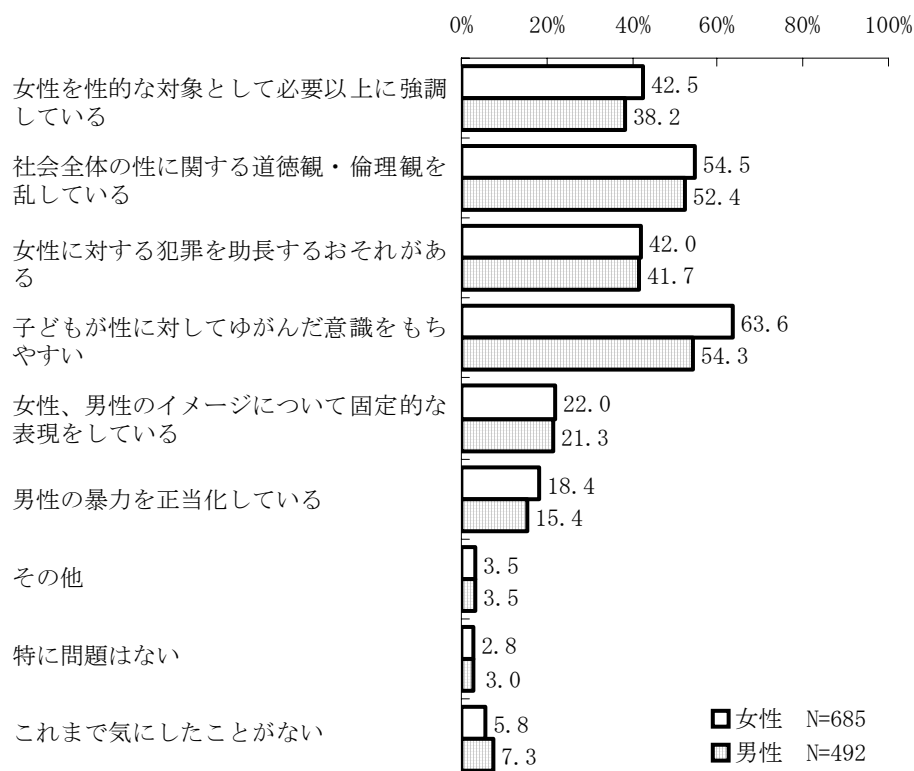
	本調査	「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査
相談した*	*38.4	20.5
相談したかったが、しなかった	8.3	10.0
相談しようと思わなかった	44.2	53.2
無回答	9.1	16.3

「夫・パートナーからの女性に対する暴力」調査（豊中市、2001 年・平成 13 年）

※選択肢 1～11 のいずれかに回答した人

問 15 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(〇はいくつでも)

【図 5 - 9】



【性別】

メディアにおける性・暴力表現について「子どもが性に対してゆがんだ意識をもちやすい」が女性 63.6%、男性 54.3%で最も高く、女性の方が男性よりも 9.3 ポイント高い。次いで男女ともに「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を乱している」が 5 割を超えている。「特に問題はない」、「これまで気にしたことがない」の割合は男女とも 1 割に満たない。

いずれの項目も女性の方が男性より回答割合が高くなっている。

【性・年代別】

女性の40歳代、50歳代は他の年代より項目全般に回答割合が高い傾向である。

【表5-16 性・年代別】

	全体	女性を性的な対象として必要以上に強調している	社会全体の性に関する道徳観・倫理観を乱している	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	子どもが性に対してゆがんだ意識をもちやすい	女性、男性のイメージについて固定的な表現をしている	男性の暴力を正当化している	その他	特に問題はない	これまで気にしたことがない
全体	1195 100.0	481 40.3	634 53.1	495 41.4	706 59.1	258 21.6	202 16.9	42 3.5	35 2.9	76 6.4
女性 20歳代	70 100.0	29 41.4	31 44.3	30 42.9	48 68.6	17 24.3	15 21.4	3 4.3	1 1.4	7 10.0
女性 30歳代	106 100.0	42 39.6	42 39.6	43 40.6	70 66.0	29 27.4	19 17.9	6 5.7	3 2.8	12 11.3
女性 40歳代	113 100.0	59 52.2	62 54.9	55 48.7	65 57.5	30 26.5	30 26.5	3 2.7	-	6 5.3
女性 50歳代	150 100.0	76 50.7	101 67.3	64 42.7	101 67.3	39 26.0	27 18.0	5 3.3	2 1.3	4 2.7
女性 60歳代	154 100.0	62 40.3	84 54.5	64 41.6	99 64.3	23 14.9	21 13.6	5 3.2	9 5.8	5 3.2
女性 70歳代以上	92 100.0	23 25.0	53 57.6	32 34.8	53 57.6	13 14.1	14 15.2	2 2.2	4 4.3	6 6.5
男性 20歳代	41 100.0	20 48.8	19 46.3	19 46.3	19 46.3	11 26.8	3 7.3	1 2.4	-	3 7.3
男性 30歳代	72 100.0	27 37.5	29 40.3	28 38.9	43 59.7	16 22.2	6 8.3	4 5.6	1 1.4	4 5.6
男性 40歳代	78 100.0	32 41.0	36 46.2	34 43.6	43 55.1	23 29.5	10 12.8	-	1 1.3	11 14.1
男性 50歳代	97 100.0	37 38.1	50 51.5	40 41.2	57 58.8	21 21.6	17 17.5	1 1.0	5 5.2	7 7.2
男性 60歳代	115 100.0	32 27.8	68 59.1	43 37.4	56 48.7	14 12.2	18 15.7	6 5.2	6 5.2	7 6.1
男性 70歳代以上	88 100.0	40 45.5	56 63.6	41 46.6	49 55.7	20 22.7	22 25.0	5 5.7	2 2.3	4 4.5

《参考》

大阪府調査と比較すると、大きな違いはないが、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」の回答割合は本調査の方が8.4ポイント高くなっている。

《表5-17 メディアにおける性・暴力表現について》

	全体	女性	男性
本調査	1195	685	492
大阪府調査	719	406	312
女性を性的な対象として必要以上に強調している	40.3	42.5	38.2
女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	39.5	41.6	36.9
社会全体の性に関する道徳観・倫理観を乱している	53.1	54.5	52.4
社会全体の性に関する道徳感・倫理観が損なわれている	50.2	50.7	49.4
女性に対する犯罪を助長するおそれがある	41.4	42.0	41.7
女性に対する犯罪を助長するおそれがある	33.0	34.0	31.4
子どもが性に対してゆがんだ意識をもちやすい	59.1	63.6	54.3
そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	56.7	58.9	54.2
女性、男性のイメージについて固定的な表現をしている	21.6	22.0	21.3
女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	23.2	23.4	23.1

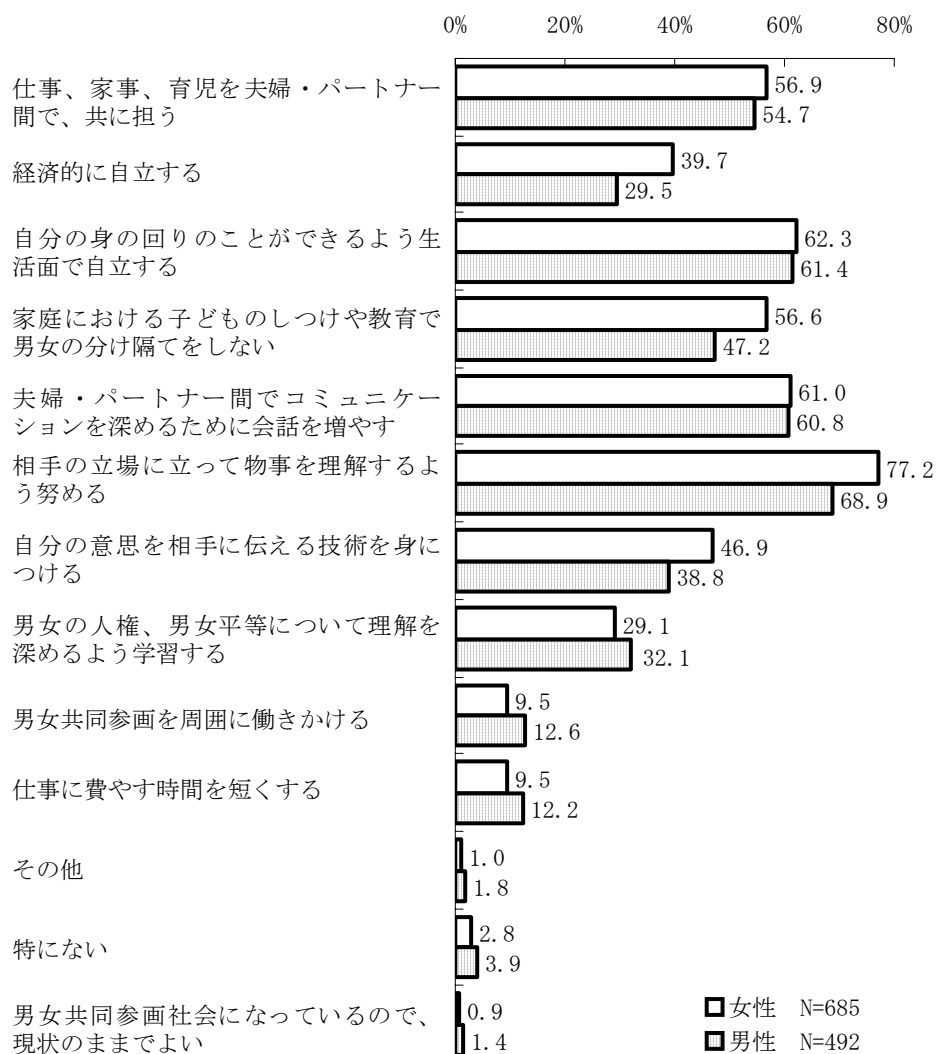
上段：本調査結果 下段：男女共同参画に関する府民意識調査（大阪府 2004年・平成16年）

※両調査でほぼ同じ内容の項目のみで、それ以外は省略

6. 男女共同参画社会の実現について

問 16 男女が共に社会における責任を分かち合う男女共同参画社会をつくるために、あなたご自身は何ができると思いますか。(〇はいくつでも)

【図6-1】



【性別】

男女ともに「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」が最も高く、女性（77.2%）の方が男性（68.9%）よりも8.3ポイント高い。次いで「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」、「夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす」の順であり、男女の回答割合はほとんど同じである。「経済的に自立する」では女性（39.7%）の方が男性（29.5%）よりも10.2ポイント高く、他の項目に比べて男女の違いが大きい。

【性・年代別】

男女とも項目全般に20歳代の回答割合が高い傾向である。

【表6-1 性・年代別】

	全体	仕事、家事、育児を夫婦・パートナーで共に担う	経済的に自立する	自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する	家庭における子どものしつけや教育で男女の分け隔てをしない	夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす	相手の立場に立って物事を理解するよう努める	自分の意思を相手に伝える技術をも身につける	男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する	男女共同参画を周囲に働きかける	仕事に費やす時間を短くする	その他	特になし	男女共同参画社会になっているので、現状のままでもよい
全体	1195 100.0	663 55.5	418 35.0	733 61.3	624 52.2	722 60.4	872 73.0	516 43.2	359 30.0	128 10.7	125 10.5	16 1.3	38 3.2	13 1.1
女性	70	54	41	52	51	51	54	41	20	8	12	1	1	-
20歳代	100.0	77.1	58.6	74.3	72.9	72.9	77.1	58.6	28.6	11.4	17.1	1.4	1.4	-
女性	106	76	50	67	66	78	89	58	23	5	12	3	3	-
30歳代	100.0	71.7	47.2	63.2	62.3	73.6	84.0	54.7	21.7	4.7	11.3	2.8	2.8	-
女性	113	66	48	66	70	67	91	60	37	8	7	2	2	-
40歳代	100.0	58.4	42.5	58.4	61.9	59.3	80.5	53.1	32.7	7.1	6.2	1.8	1.8	-
女性	150	86	52	91	77	81	114	64	44	16	17	-	2	2
50歳代	100.0	57.3	34.7	60.7	51.3	54.0	76.0	42.7	29.3	10.7	11.3	-	1.3	1.3
女性	154	72	52	95	77	93	119	61	39	15	10	1	4	1
60歳代	100.0	46.8	33.8	61.7	50.0	60.4	77.3	39.6	25.3	9.7	6.5	0.6	2.6	0.6
女性	92	36	29	56	47	48	62	37	36	13	7	-	7	3
70歳代以上	100.0	39.1	31.5	60.9	51.1	52.2	67.4	40.2	39.1	14.1	7.6	-	7.6	3.3
男性	41	25	21	29	26	29	30	21	18	5	4	1	-	1
20歳代	100.0	61.0	51.2	70.7	63.4	70.7	73.2	51.2	43.9	12.2	9.8	2.4	-	2.4
男性	72	43	17	40	34	45	48	31	23	10	14	-	3	-
30歳代	100.0	59.7	23.6	55.6	47.2	62.5	66.7	43.1	31.9	13.9	19.4	-	4.2	-
男性	78	52	28	52	41	49	60	31	26	7	13	1	2	1
40歳代	100.0	66.7	35.9	66.7	52.6	62.8	76.9	39.7	33.3	9.0	16.7	1.3	2.6	1.3
男性	97	52	22	54	44	51	63	35	29	9	14	2	5	1
50歳代	100.0	53.6	22.7	55.7	45.4	52.6	64.9	36.1	29.9	9.3	14.4	2.1	5.2	1.0
男性	115	54	31	72	49	69	77	36	31	15	9	3	6	4
60歳代	100.0	47.0	27.0	62.6	42.6	60.0	67.0	31.3	27.0	13.0	7.8	2.6	5.2	3.5
男性	88	43	26	55	38	56	61	37	31	16	6	2	2	-
70歳代以上	100.0	48.9	29.5	62.5	43.2	63.6	69.3	42.0	35.2	18.2	6.8	2.3	2.3	-

「調査から見えてきた男女共同参画推進の課題」

川喜田好恵(大阪府立女性総合センター)

＜男女共同参画推進の取り組みと行政の責任＞

豊中市は、大阪府内の他市に先駆けて昭和 60 年（1985 年）に女性問題推進会議が「豊中市における女性のための 199 の提言」を行うなど、男女共同参画社会（当時は女性の地位向上と社会参加など）を実現するための取り組みをいち早くスタートさせ、「豊中市女性政策基本方針」平成 2 年（1990 年）「豊中市女性政策実施計画」平成 6 年（1994 年）を策定した。さらに平成 12 年（2000 年）には男女共同参画推進の拠点施設となる「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」を開設し、男女共同参画社会の実現のための環境整備に力を注いできた。

一方で、豊中市の状況をみると、女性の労働力率では全国平均や大阪府平均と比べて M 字カーブの谷が深く、豊中市内の事業所における女性労働者の正社員比率（平成 14 年（2002 年））も全国平均の 48.4% に比べて 42.5% と下回り、男女共同参画社会への取り組みが充分効果をあげてきたとは言いがたい現状がある。

今回の「豊中市男女共同参画社会についてのアンケート」調査は、このような現状を踏まえて平成 15 年（2003 年）に制定された「豊中市男女共同参画推進条例」に基づく「豊中市男女共同参画計画」を推進するために、豊中市民の実態と意識の現状を把握するための基礎調査として行われたものである。このまとめでは、豊中市が「条例」の理念を生かし、「計画」を踏まえて男女共同参画施策を効果的・効率的に推進していくことができるように、アンケート調査から読み取れることを今後の課題として整理しておきたい。

本来「男女共同参画社会」とは、豊中市の条例にもあるように「すべての人の人権が尊重され、一人ひとりの個性と能力が大切にされて、性別にかかわらず自らの意思で生き方を選択することができる社会」になった時、結果として実現するものであろう。このような社会を招来するために行政として努力すべきことは、一定の価値観を提供するというよりは、「基本的に、すべての人がこのような生き方を選択することができる環境づくり」にあることは言うまでもない。

しかし、戦後 60 年を経たとはいえ、社会通念や社会制度はいまだに男女の性役割や社会・文化的格差を前提とする仕組みを克服できておらず、このような「既にある一定の価値観に基づいた固定的な家族観や男女観を相対化する」という第一のステップがなければ、本来の男女共同参画社会が理想とする「自らの意思で自由に生き方を選択する」という第二のステップの実現は不可能である。そのため、「男女共同参画社会」実現のために行政が率先して取り組むべきことは、現在の社会や市民意識の中に残る従来の固定的男女観・家族観を相対化し、男女格差を温存・再生産する社会制度を変革して、誰でもが望めば多様な生き方を選択することができるための環境を整備することである。このような問題意識を持って、このアンケート調査結果について、すこし詳しく検討してみたい。

<市民意識にみる男女格差>

「問1」では、「日常の生活意識や価値観」について訊いているが、全体としてみても男女共同参画の理念は充分浸透しているとはいえない。特に、男性では6割以上が、②「男らしく、女らしく」③「妻子を養うのは男の責任」⑤「職場のお茶くみは女性が」⑥「男は強引にでも女性をリードすべき」⑨「育児介護休業は女性が」などを肯定する項目で賛成しており、同じ項目の女性の意識と比べてもそれぞれ10%~20%の差がある。これらの項目には年代差と就労経験による差が見られ、「旧来の固定的男女観」にこだわる傾向は「高齢の」男性と「就労していない」又は「高齢の」女性の場合に高く、それ以外のグループに比べてかなりの開きがある。

同じ年代の男女の間でこれらの意識に大きな差があることは、彼ら・彼女らがともに結婚や子育てなどの家族生活を営むかもしれない層であると考えれば、今後とも大きな問題になってくる可能性がある。一方で、女性の回答にみられるように、就労の経験の有無がこれらの価値観の変化に大きなかかわりがあることが注目される。つまり、若い世代ほど、不利益を感じる立場にある女性ほど、また、労働の場で地域経済を支えようとしている女性ほど、「らしさ」や旧来の固定的な男女観に否定的で、これらの価値観で次世代を縛りたくないと考えていることがわかる。

しかし、⑩のいわゆる「三歳児神話」に関しては、性別・年代・職業の有無にかかわらずほぼ7割を超えている。これは日本社会に特有の傾向であるが、単に「日本的親子観・子育て観」として片付けてしまうのではなく、企業中心の経済発展と性役割核家族を重視してきた戦後の社会政策の中で、子育てが「家庭」に囲い込まれて社会や地域での取り組みが遅れてきたことにも注目して、今後の子育てに関する行政政策の方向性を見直す必要があるだろう。この問題は現在、次世代育成や少子化対策の中で取り上げられがちであるが、この場合にも、子育てを家庭や母親だけの手から、より広く地域・社会に広げるための真剣な取り組みが求められている。この問題は、次の「問2」や「問6」とも関連する。

「問2」では、「現代社会での男女平等の実現度」を訊いているが、学校教育の場を除いては、男女平等が実現していると思う人は少数である。特に「社会通念・慣習」「職場」「政治の場」などで、男女とも6割以上が不平等を実感している実態は放置できない。「家庭生活」の項目でも平等になっていると感じている人の割合は女性で16.2%男性で27.6%にすぎない。一方、家庭生活では女性のほうが優遇されていると感じる人が女性で9.1%男性で10.1%、存在する。

個人の生活の基盤であり社会の重要な単位とされる家庭生活において、豊中市約167,700世帯(平成17年(2005年)3月末現在)の7~8割で「家庭の中でも男女は不平等なのだ」という実感をもって市民生活が営まれている現状をどのように考えればいいのか、そして、行政としてどのような政策にこの現状を反映させていくことができるかは大きな課題である。家庭や家族の制度に係わる行政政策に格差がないかどうかを厳しく見直すと同時に、家庭内の不平等によっておきる問題(ドメスティック・バイオレンスなど)への救済措置を充実するなど、多様な対応が必要であろう。

また、「学校教育の場」では最も男女平等が進んでいるという意見が多く、それはこれまでの学校での努力の成果として評価できるが、それでもなお男女とも10%を超える人が「学校においても男性優遇」と捉えていることは深刻な問題で、更なる努力が求められているのではないだろうか。

<根強い家庭内の性役割意識>

「問6」の「家庭生活の理想と現実」をみると、全体的には男女ともに大きな開きがない形で「生活費の獲得は男性が、掃除・洗濯・食事の支度などの家事は女性中心か共同で」行う体制が理想とされている。30代の男性と40代の女性だけが、約46%の割合で「生活費は夫婦で同じくらい分担したい」と答えているものの、他の年代では約60%が「生活費の獲得は男」を理想としている。また、「食事の支度を共同で」を理想とするのも30代男性(47.2%)と40代女性(56.6%)に多く、若い年代も含めてその他の年代では割合がかなり下がる。20代をみると、生活費は主に夫が稼ぎ(女性67.1%、男性63.4%) 食事の支度は主に妻がする(女性47.1%、男性56.1%)となっており、若い世代においても旧来の性役割分業社会の価値観が理想として浸透してしまっていることがわかる。しかも、このような状態が、結果として先に述べた「問2」での「家庭内での男女の不平等」につながっていることは言うまでもない。

さらにこの設問での回答で、「男女ともに理想の形が似通っている」ことをどのように理解するかも問題である。これまでの社会通念が、地域や家庭を通して若い世代にもしっかりと受け継がれてしまっている状況がある、と受け止めて今後の啓発のための大きな課題とすることは当然である。しかし同時に生活費の獲得が男性に課せられてしまう状況は、就労機会や労働の場での賃金・待遇の格差、労働時間の問題がなかなか解決されない現状の反映であることについても深刻に考え、対応を検討するべきなのではないだろうか。

つまり、個人の多様な生き方ができる社会を理想とするにしても、単に教科書的な男女共同参画の啓発だけでは不十分であり、市の行政責任のなかで、積極的な女性の就労支援や企業の雇用・労務管理のシステム変革のための働きかけなどが開発され、具体的な取り組みが始まる必要があるという点を強調しておきたい。また、子どもの世話や高齢者などの介護などは夫婦共同でという思いが男女双方で約6割以上を占めるものの、現実それが可能であると答えているのは2割前後にとどまっており、大きなギャップがある。この落差の理由を労働の場の問題として放置してしまわずに、市民生活をバックアップする行政として、どの部分を支援できるかを考察して環境整備する必要がある。

「問7」では「一般的な仕事と家庭・地域活動の理想型」つまり「ワーク・ライフ バランス」について訊いている。全体としては、「女性の生き方として、仕事と家庭のバランスのよい両立」を望ましいと思うものが42.1%、「男性の生き方として仕事と家庭のバランスのよい両立」を望ましいと思うものが34.9%という結果になっている。

この問いに関しては、大阪府や国の世論調査にも似たような設問があり比較がされている。この結果で興味深いのは、豊中市では「女性が仕事と家庭・地域活動の両立するのを望ましいと思う」女性の割合が、国の世論調査と比較して13%ほど高いが、男性の割合は5%程度低くなっていることである。また、「男性の望ましい生き方」を大阪府の調査と比較すると「男性の生き方として仕事と家庭の両立を望ましいと思う」女性の割合も男性の割合も低くなっている。つまり豊中市の傾向として、全国平均より、女性のワーク・ライフ バランスを求める女性は若干多いが、男性の方では女性に両立を求めている割合が少しではあるが少ないこと、また、男性にワーク・ライフ バランスを求める傾向は男女とも30%台で、大阪府内との比較では男性の仕事中心の生活を望ましいと考えている人が多いことがわかる。

このような設問の分析で留意すべきこととして、問われている「仕事と家庭の両立」イメージが女性と男性の場合で違っていて、女性は子育て後のパート的な仕事と家庭の両立、男性はフルタイムと家庭・地域の両立がイメージされるため、両立のための必要な環境が男性と女性で違って捉えられているのかもしれないということがある。また、豊中の土地柄として、大阪市内の企業で働くサラリーマン家庭を市民層として多く持つという特色を考慮に入れる必要もあるだろう。先に述べたような企業中心の経済発展とサラリーマン核家族の生活向上がその利益を一にしてきた傾向があるため、サラリーマン家庭を多く持つ大都市近郊の自治体などでは、性役割分業を肯定的に捉えることのできる経済層の市民が多く、家庭内や社会での男女格差によって日常的な不利益を感じる人の割合が比較的少なくなっている可能性が考えられるからである。

しかし、「問9」での「子どもに望む教育」の結果における男女格差の大きさは衝撃的である。男の子に対しては、女性も男性も8割以上が少なくとも大学以上大学院の学歴を望むのにくらべて、女の子に対しては、女性も男性も大学以上の学歴を求めているのは5割強にすぎない（大学院だけをみると10%近い差がある）。実は、この格差は「問16」での「男女共同参画社会実現に関して自分のできることに」にも現れていて、「家庭でのしつけや教育で男女の差別をしない」と答えた割合が女性で約57%、男性では約47%と半数程度しかなかったことと関連しているようである。

一方で、「問10」では「男女平等推進のために小・中学校で行うべきこと」を訊いているが、「男女平等教育」「性教育」「男女共に働くための教育」などの必要性はいずれも5割を超えて支持されている。そして、小・中学校教育の中では、「男女に関わりなく子どもの個性・能力を生かす教育」の必要性が8割近くの市民に支持されているのである。

最後の「問16」では「男女共同参画社会実現のために自分の出来ること」を訊いているが、「男女共同参画社会になっているので、現状でよい」や「特になし」とするものはあわせても5%に満たず、何らかの方策が必要であるという点では認識が一致している。しかし、現実には自分のできる改善策としてイメージされているのは、「相手の立場に立って物事を理解する」（女性77.2%、男性68.9%）「コミュニケーションを深める」（女性61.0%、男性60.8%）といった人間関係の改善のための項目であって、「経済的な自立」や「男女平等の学習」などには3割前後、また、「仕事と家事の共同分担」は5割強の男女しか興味を示していない。豊中市の現状として、理念的には男女共同参画社会を求めるものの、市民生活の中の現実の問題や自分の家庭・家族の問題と連動して理解されていないという面があるのかもしれない。

それぞれの設問の仕方によって、回答者の本音が矛盾を含んだ形で表明されることはありがちなので、結果の数字に違いがあることは不思議ではないが、「問16」のように、自分の子どものしつけや教育に関して、「男女格差があることを意識しない、あるいはあっても仕方ない」と考える人たちが半数以上あるということは、学校教育での男女平等以前に、「家庭での男女平等」が豊中市民の価値として充分根付いていないことを示していると思われる。市民意識がこのままの状況であると、不況が今後も続いたり、経済発展が以前のように望めなかったりする状況では、家計の逼迫や就労・雇用のために男子の学歴が優先されてしまう恐れもあって、男女の学歴格差・就労や経済格差が拡大していく危険性も考えられる。

さらに、「問 11」から「問 15」にかけては、男女の人権の問題として具体的にDVやセクハラにまつわることを訊いている。平成 13 年（2001 年）の豊中市の調査と比較して「DV被害などを相談した」割合が 20.5%から 38.8%と増えているのは啓発や相談機関の整備の結果として評価されるものの、「相談したかったが、しなかった」とする人 8.3%、「相談しようと思わなかった」とする人が 44.2%残っているのは気にかかる。今回の調査では、その理由を訊いていないが、一般には「家庭内のこととして外に出したくない、相談しても解決しない、家族間の暴力が人権の問題として理解されていない」などいろいろな理由が考えられる。DV問題などの啓発や取り組みが女性センター（男女共同参画センター）や女性相談の問題として任されてしまうのではなく、家庭の中の人権の問題にも行政としてさらに踏み込んだ啓発や取り組みが必要であろう。

これまで見てきたこと及び豊中市の特徴を踏まえて、アンケート調査項目を総合的に考察した時に、豊中市の総合行政の一環としての人権尊重・男女共同参画推進の政策の今後の課題として確認しておくべきことは何だろうか。

このアンケート調査から見えてくる豊中の市民像は、男女平等がいまだ達成されていないという認識と男女共同参画社会の実現への期待やその理念に対する共感はあるものの、学校教育の分野以外では具体的な方向性やイメージが形成されていないこと。さらに、「社会通念・慣習」や「職場」「政治の場」「家庭生活」などでの男女の不平等は感じているものの、「何が変わることが必要なのか」「何が変えられるのか」については十分な理解やコミットメントがなく、「学校教育の場」などに任せがちな傾向がみられることなどである。

しかし、学校教育においては男女平等がある程度実現していると評価されている点を捉えると、行政の取り組むべき方向性も見えてくるのではないだろうか。即ち、学校教育のように、全体的な「枠組み」と教育「内容」が相互に関連して旧来の価値観を克服し、多様な選択や価値観を認める方向への変化をめざせば、男女平等や男女共同参画などの価値も一定程度浸透する可能性があることを示しているのではないだろうか。政治や法律・制度の面でも、このようなジェンダー格差に敏感でその是正をめざす意思とシステム変革のための方法論を持つことで、人権尊重の視点での多様な生き方を市民が選択することができる環境づくりのための市政の実現は可能だと思われる。

一方で、社会慣習や伝統文化のように、組織的に対応することが難しく個人の主観や自由意志が重要なものに関しては、個人の意識変革と自己決定にゆだねるべきとの意見もあるかもしれない。しかし、最初にも触れたように、個人が本当に自分の意思によって自由な選択をするためには、多様な選択肢が用意されると同時に、男女共同参画の問題で言えば「既存の一定の価値観に基づいた固定的な家族観や男女観を相対化する」といった第一ステップが必要である。「自らの意思で自由に生き方を選択する」という第二ステップを可能にするために、行政としては自由な選択を阻んでしまう伝統や慣習の変革に臆せず踏み込んで行かないと、真の男女共同参画社会の実現は不可能である。

実際に、「問 2：男女平等の実現度」を訊いている項目の中でも、「家庭生活」では男性優遇と答える女性 64.2%に対し、男性優遇と感じている男性は 53.9%と少なかったり、「問 7：望ましい女性の生き方」でも「女性は家庭や地域活動優先」を求める答えが、女性 38.1%に対し男性 45.4%と多かったり、とズレがある。これは、男女家庭生活における性役割意識のために、現に存在する格差や不平等に対する男性の側の感受性が低いことや、自分自身が不平等な扱いを受けることが少ないことによると思われるが、現実には不平等や格差によって不利益をこうむっていない側にはその事実が見えにくいことを示している。このことから、家庭における男女の不平等の是正は、行

政にとっても大きな課題である。

さらに、このことは現在問題になっている「児童虐待」「ドメスティック・バイオレンス」「老人虐待」などにも関わることであるが、これまで「家庭」は『プライバシー』や『日本の伝統や美風』などを理由に、治外法権的に語られることが多く、個人の人権の問題と男女の性役割や親子関係の問題が複雑に重なる場である。もし、そこに存在する格差や不利益が『プライバシー』を理由に当事者間だけの問題として放置されてしまうと、弱い立場におかれたものの人権やさまざまな格差は縮小せず、人権や時には命さえ守ることが困難になる場合もある。社会的に弱い立場に置かれたものの救済のためには、行政もこのような『壁』や『伝統』に臆することなく個人の人権を最優先にした政策を実現する必要がある、同時に家庭や社会での男女格差の是正や間接的差別の解消など制度面での改革にも取り組む必要があることを申し添えておきたい。

問 23 男女共同参画社会になっていないと感じるのはどのようなときですか。

仕事の場で男女平等でない

- なぜか男性の同期ばかりが出世していく時。男性が上司に結婚を報告すると、これで一人前って感じで受け止められている感じがするのに、女性（自分自身）が報告したら、まず仕事は続けるのかを聞かれた時。婚約者に最終的には女性が育児をするのだから、その時に備えてほしいと言われた時。 女性 20 歳代
- 女性にも仕事の機会があるのにやる気がなくやめてしまう時。 男性 20 歳代
- ①転職しようと考えた時。（資格があっても女性は給料が、安い。30 超えると転職先もない）現在と同じ労働条件、給料と考えると転職できない。②第二子が欲しいと思った時。 女性 30 歳代
- 最近では、早期退職によるリストラや、派遣（非正規社員）等の増加により、正規社員への負担が大きくなっており、夫が家庭に割ける時間が少なくなりがちである。このため、「男は仕事」の面が多くなり、家庭のことは妻にまかせざるを得なくなっているのを聞いたときに、男女共同参画社会になっていないと感じる。（経済情勢により、雇われている方も必死で働かざるを得ないため、このような状況に成っている。） 男性 30 歳代
- 会社の女性のみユニフォームの強制。コピー、お茶くみ、掃除は女性がしている。 女性 40 歳代
- 仕事が落ち込んでいたら先に女性からリストラされる。 女性 50 歳代
- 窓口などに若い女性を配置して、問題になりそうな時には男性（上司）などが出てくること。なぜ、銀行でも若い男性ばかりの窓口がないのか。固定観念ではないだろうか。自分でも、経験のない若い女性を表にだされていると、つい、もっと分別のある人はいないかと思ってしまう。女性というだけで窓口に（経験と関係なく）出すのはどうか。 女性 50 歳代
- 職場での例ですが、有料セミナー等の参加者に女性の参加者が、顕著に増加しており、職場での男女の平等化が意識されます。反面、定例業務の講習会（社会保険、年末調整等）の参加者は、女性ないし高齢者層が殆どで変化がみられない。 男性 60 歳代
- 民間企業、官庁とも女性の管理職登用が極めて少ない状況。これは、女性の側にも原因がある。登用試験を受けないなど消極性がある。又、地域活動でも女性は、消極的で役職に就きたがらない傾向がある。 男性 60 歳代

家事・育児・介護では男女平等でない

- 育休・産休は、女性が取るべきとの暗黙の了解がある。メディアが幼児虐待を取り上げる時、「この母親の母性はどこへ行ってしまったのか？」と嘆く声は聞かれるが、父親の父性については、ついぞ語られない。しかし、その点については、私の中にも、母が子に与える影響の方が大きいと思っている傾向があり、意識改革が必要だ。TV や新聞等で、もっと父性の大切さを学ぶ機会があればいいと思う。 女性 30 歳代

- まだ女性に対して低い扱いが多い。保護者もなぜ“父親”なのか。育児に参加しない父親には必要ない。どちらかといえば子どものことに対しては“女がして当たり前”と見ているのなら子どもへの親権は母親でよい。どうしても生活力がないなど仕方ない場合をのぞき、母親にも選ぶ権利はある。共働きでも主たる生活設計者を父親としてるのはおかしい。お金を借りたりする時も“女は…”と言われた一言が今だにショックだ。 女性 40 歳代
- 社会に女性が出て仕事をする人が増えてはいますが、育児、家事のため十分な仕事ができない、あるいは逆に仕事のために育児、家事ができなくて悩む女性が多い様に思います。男性の育児、家事への手助けあるいは施設の充実などが必要に思われます。 女性 50 歳代
- 今では、女性も結婚後、仕事を続けられる社会に少しずつなっているが、子どもが出来、病気になった時、親の介護が必要になった時、すぐ行動を起こさなければいけないのが、女性たちであり、それが現実だというところ。 女性 50 歳代
- 社会的、制度的には、男女平等が進められているが、その根本となる各家庭生活においては、なかなか理想通りには行かない。私共 60 才台を超える家庭に於いては姑はもちろん、夫も戦前教育での男優先の気持ちは変わらない。まして、姑、夫共に介護保険のお世話になっている現状では、私が何を云っても聞いてくれる者もない。 女性 60 歳代
- 一部の家庭では共同参画社会のように見えるが、ほとんどの家庭では主人（夫）が働き、子育ては女性がしていて、よほど夫の理解がある家庭でだけ両方でうまく分担してやっているが、まだまだ共同参画社会は無理と思う。 男性 60 歳代

男女の性別役割意識がある

- 子どもの口から「女の人は就職しなくても結婚すればいいから、いいよな」という言葉を聞いたとき。 女性 20 歳代
- 男は理系でも文系でも周りから何とも言われませんが、女が理系に進むと「理系の女は嫌だ」とか「女のくせに理系？」などと、周りから言われるときがある。また、浪人する、しないで女性の評価はかなり落とされる。 男性 20 歳代
- 男性は独身時代は母親が面倒を見てくれ、結婚後は妻が面倒を見てくれる。一生を通してライフスタイルが変化しない。女性は、仕事も家庭もできる様に期待されるが、男性は仕事のみ期待される。定年まで勤められたのは妻の「内助の功」のおかげであることを知らないでいる。定年後も、自分の好きなゴルフだ、旅行だと、好きなことをしている。風呂の掃除も、孫の世話も、洗濯も何も手伝おうとしない。帰宅すればすぐ晩ご飯が食べられる状態が現役時代からずっと続いている。女性ばかりが、我慢をしているのは、おかしい。 女性 30 歳代
- 女性が独身である場合（なった時）低く見られる（蔑視される）。女性がお茶くみ、掃除をするのは当たり前、勤務時間外にさせられる事もある。家事、育児もただ働きが当たり前という風潮がある。 女性 50 歳代
- 自治会、老人会等で会長を選ぶ場合、自然と男子優先で選ばれる。女性が選ばれる時は女性がそれなりの能力が男性より甚だしく優れている時だけである。これは世代が 60 才以上の場合は男性優位の時代に育ってきたからと思うが、若い世代がこの年齢になると変わってくるかもしれないと思う。 男性 70 歳以上

女性に対する暴力がある

- ニュースなどで学校の男性教師の性的な事件や問題を起こしているのを聞いた時。電車でのチカン防止のための女性専用車両。もちろん、チカンをする行為は許されないが女性が専用車両に乗ってなければ「チカンをされてもしかたがない」という印象を持つ男性もいると思う。たまたま乗った車両が専用車両ではなかったためにチカンにあってしまった、という事はそういう男性がいるからだ。女性 20 歳代
- 女性専用車両について、男女共に主旨が理解されてない。性犯罪の根は、人権無視が故に、男女の共同参画に逆行している。最近の判例で男と女の犯罪は男の方が多い。女は犠牲が多いが故に加害者の男の判決が軽い傾向が強い少し男が得で女が損しているように思う。つまり司法の世界でも男女の差別があるように思う。男女共同参画社会実現に阻害しているように思う。男性 20 歳代
- 女性蔑視の暴力、性犯罪等のTV、雑誌等の発信、発売に何らの規制も行われず放置されていること。男性 70 歳以上

男性が女性を対等にみていない

- 教育機関などの聖職者の方とのやりとりをする時に女性は感情的な意見しか言わないと思っているのか悟すように話しかけられた時。(ちゃんと考えて意見を言っているにもかかわらず)女性 20 歳代
- 表面的には一見、男女共同参画社会になっているとは思いますが、水面下ではやはり男が権利を握っている。特に葬祭には女の出番がほとんどない。男が活躍する場であると思う。女性 50 歳代
- 職場でも地域社会でも意見を言うと女のくせにと言われる。女性 70 歳以上

制度や慣習で男女平等でない

- 家を買ったり、契約をするとき、女性の立場は弱いと感じた事があります。女性 50 歳代
- たとえば地域の社寺の催しとか、伝統行事の会合と実行は男性中心で女性は裏方に回っている農村文化の継承とも思える。一方ではテーマとして育児、教育、環境、反戦など女性の活発な活動も実現している。マスコミも積極的にこれを取り上げている。男性 70 歳以上

政治の場、社会全般への参画で男女平等でない

- 政治や一般社会において女性が意見を述べると、女性だからというだけで、内容を聴きとる前に無視されたり軽視されているのがまだまだ、現状だと思います。女性 50 歳代
- 政治の世界、大学、高校等教育界に女性のリーダーが少ない事、病院の院長(総合病院)に女性が余りいないこと。PTA 会長は子どもの学校では必ず男性で女性は副会長に決ってるかの様です。又、最近少しは変わってきたが懇談会(子どもの学校の)PTA 総会に男性が少なく、女性まかせなのが気になって不満です。女性 50 歳代

問 24 男女共同参画社会実現のために、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

男女共同参画への提言的意見

- 雇用条件に、例えば力仕事であっても、男女を分けて募集しないようにする。デザインは、女性、力仕事は男性、などをわけないようにする。労働時間を減らす。色々な人が関わりあえる、社会を作ること。家族、年代の違う人間ともたくさん関わられる生活を作ること。女性 20 歳代
- 夫等の暴力を受けた場合の相談窓口や子どもと一緒に逃げ場の所在をもっと知らせてほしい。いざ、相談に行くとなると不安になるので気楽に相談に行ける場所がほしい。女性 30 歳代
- 理想論ではなく、より現実的な意識改革を誰にでもわかりやすいように、幅広い年齢、職業の人々に浸透するように、少しずつ積み重ねていくしかないと思います。このアンケートを見るまで、考えた事なかった事や忘れていた事を、改めて考える事ができ、良いきっかけになりました。女性 30 歳代
- 女性が社会で活躍することには大いに賛成だが、逆に最近専業主婦を蔑視する風潮があるのは行き過ぎだ。配偶者控除の廃止論は、まるで、「役立たずの能無しは、税金の無駄遣いだから、社会から消えてなくなれ。」と言っているようで、家庭を守っている主婦の方々に大変失礼だと思う。女性が外で働くことも、専業主婦でいることも自由に選択できるように。又そのどちらの選択も尊重される社会が、真の男女平等であると思う。男性についてもそうだ。女性 30 歳代
- なぜ、女の子はブルーの服を着たり、ズボンをはいたり短髪にしても何も言われないのに、男の子がピンクのワンピースを着たり、スカートをはいたり、長髪にして、おさげやポニーテールの髪型にしてピンクの靴をはいていると、変な目で見られるのだろうか。男の子でもピンクが好きな子はいるし、髪の毛にリボンを結んであげるとうれしそうにしている子もいる。男の子だから外見はこうあるべきというのはおかしい。女の子だけ好きな髪型や服装をしても許されるのはいかなものか。幼い頃から女の子はピンク、男の子はブルー、という固定観念を定着させないよう教育してゆくべきだ。女性 30 歳代
- この課題に市政がどのように取り組み、実行しているのか紙面もしくは Web 上でもっとアピールして欲しい。市政に関する情報を能動的に収集する程時間的に余裕はありません。男性 30 歳代
- 男のくせにとか女のくせにではなく、男らしさ女らしさを個性として認め、何よりも人間としてどう生きるかを小学校、中学校で学ばせてほしい。女性 40 歳代
- 男女の不平等、不公平感の軽減を図るための条例や設備、施設の拡充が必要だと考えます。例えば保育所の約 3 割が民営化されますが、サービスが拡大されるのか、疑問です。女性 40 歳代
- 小さい時からの教育と、それと同時に、会社や国の制度を整備してほしい。これからもっと働く女性は、増えていくと思うので、家族の協力がなければ、家庭生活が成立しない。家庭を持った働く女性は、今本当に苦しんでいる人が多いと考えます。いつまでも耐えていかなければならないのでしょうか？特に男性の意識をもっともって変えていくべきだと思う。女性 40 歳代

- もっと男性にも知ってほしい。してほしい。参加してほしい。“そんな男のやることと違う”が間違い。“仕事や、付き合いや”と逃げるのも卑怯。男が遊びたいように女だったまには息抜きしたい。でも子どもの世話・パートナーの世話と結局させられてる。自分の事ぐらい自分で出来るようにならないと、年とって泣くのは男だ。今のうちに知っておいた方がいいと思うけど…。きっと“オレには関係ない”と思ってるだろうね。 女性 40歳代
- 男女共同、平等を追求するあまり、子どもに対する「父性」「母性」の欠如を招くことのないように、子どもへの家庭教育の重要性を認識する必要がある。父でしか、母でしかできないこともあるのだから。 男性 40歳代
- パートとしての仕事は、時間が過ぎれば良いという働き方になる人も多く、女性は自らが女性の地位を下げていると感じることがある。意識を高く持つ事と、子どもを育てる中で自立した大人に育てて、社会に送り出す事が、次の世代において男女共同参画社会にする一番の近道のように思う。 女性 50歳代
- 0才児から受け入れてくれる保育所がもっと増えてほしい。産後、復帰出来る様事業所・会社は受け入れてほしい。 女性 50歳代
- この言葉の意味を広く普及させる為にも公報あるいはパンフ、チラシ等で訴求する必要があると思う。(あるいは講演会等にて)「何故必要なのか」という事を理解してもらおう。過去に比較すると随分と女性も優遇されてきたようです。「女性専用コーナー」とかも増えてきました。 男性 50歳代
- 豊中市での管理職への女性の登用状況はどうなっているのでしょうか。もし、女性の登用が少ない様でしたらまず市役所内部から積極的に改善してもらいたい。 男性 60歳代
- 育児及び家事労働を社会的労働行為として認識する評価基準がないことが問題である 男性 60歳代

男女間に違いはある。同じにすることがよいと思わない

- 男女平等を推進している職場に勤めているが、実際問題として男女間で体力差があるのは明らかであり、女性(私)は男性と同じだけの量の仕事がこなせない。このような点で、やはり仕事の向き、不向きがあるのではないかと実感しているので、男性→生活費を得る、女性→家事(カップルによっては、男性→家事、女性→生活費)というように役割分担を行うことも上手な生き方だと思っている。男女共働き、男女共家事を行うことこそが共同参画の理想像だとは思わない。 女性 20歳代
- 男性、女性、対格、性格 etc、それぞれ一様ではないことを理解し、一人一人が“自分”という物を大切にしていける社会になって欲しいです。怒られそうですが、僕自身は女性は男性より繊細で、重労働等に適していないと思っています。たとえ異性と同等の仕事をしなくても、それを当然と考え、その上でお互いを尊重さえたらいいです。お金持ちとそうでない人の不平等の方が問題だと思います。特に、児童教育の場では…。 男性 20歳代

- セクシュアルハラスメントの問題や、メディアにおける性・暴力表現についてもかなり改善してきていると思われる。しかし、例えば、メディアについては新聞、テレビなどメジャーなメディアでは改善があるが、ネット上ではどんどん陰湿化しているなど、見えにくいところでの問題は根深いと思う。仕事についても全く男女が同じ土俵で評価されることはできないと思う。女性には妊娠期間中、産休などがあり、その期間前後はどうしても仕事に全身全霊をかたむけるわけにはいかない。認められた産休・育休をとるときにも申し訳なさが伴う。後ろめたい気持ちを持つことなく、“権利”をふりかざすことなく産休・育休がとれるような社会になってほしい。安心して預けられる保育所も重要である。 女性 30 歳代
- 小学校では、あまりにも男女平等になっていて男の子までも「〇〇」と先生が呼ばれるのには、初め、慣れなかった。又、女の子が男の子のように言葉づかいが荒くなったり、他人に対して思いやりのない子どもが多く、もう少し「女の子らしく」という言葉も使ってよいのではないかと思ってしまう。 女性 40 歳代
- 男女平等を前提とする社会を作ることには無理な企画です。男女互いに尊重することは必要であるが、男女の個別の特徴（性能）は明らかに違うものです。個別の違うものに対し平等の社会を作るとは 100%不可能であり将来に渡り、そういう社会ができないことを予言します。私達が目指すものは男女平等ではなく男女公平な社会の構築が必要と思います。 男性 40 歳代
- 何が何でも男女平等である事が必ずしも絶対であるとは考えられない。男女に関係なく能力あるものがその地位に立ち、更に努力し性別に関係なく評価すべきである。但し、一般的な社会通念のみでなく、男女の性別に適した業種もある。この点は社会構成の中で大事な部分でもある事をもっと大きく評価する必要があると考える。 男性 50 歳代
- 元来、男性と女性は、その思考とか、行動特性に差はあると思う。同一教育を受け、同一社会に身を置いても差は生じるであろう。ではこの共同参画のさらなる推進には、どうすれば、私案として、諸活動に若い世代を重用し、そのリーダーにあえて女性を据え、体験を通して両性の特徴が十分に作用するよう意識改革と相手を認める努力を積み重ねてはいかがでしょうか。 男性 70 歳以上

現状に不平等は感じるが仕方がない

- 「フルタイムで働く」というのが 8 時間労働であることがまず、男女平等に生きていくことを妨げていると感じています。男・女ともに夕方 5 時に仕事が終わるなら仕事と家庭を両立できるが、残業のない日はめずらしいし、男女両方が仕事と家庭と両立することは出来ない。そのためにどちらかが働きどちらかが家庭を守らざるを得ないのではと思います。 女性 20 歳代
- 私の会社は育児休業が確立していない為、出産後も続けている人は一人しかいなく、その人も一年でリタイヤされてしまった。私も結婚後も仕事は続けるが、出産の際は続けられないと思っている。ある程度子供が大きくなったら、パートに出て、普通のオバちゃんになるのかなあと、諦めている部分大きいし、覚悟している。しかし、私の後に続く人には、違う選択肢があればいいと思う。 女性 20 歳代
- 自分自身が心の中で現状の男性優遇社会に居心地が良いと感じている。 男性 70 歳以上

男女が思いやりを持てばよい

- あんまり意識せず、自分のやるべきこと、できることを考える。考えすぎるとわざとらしくなるので。相手（誰か）を思いやりを持って行動しようと思えば、男がどうか女がこうとかなくなると思う。男女差別をなくすのではなく、気にしない。男女は違うからお互い助け合わない。 女性 20 歳代
- 当条例文による「全ての人の人権が尊重され…」そのような社会実現のためには、人として道徳や倫理を、そして思い合う心と支え合う心、そして理解することを人間同士が学び合わなければならないことだと常に思っておりました。今後の発展を望んでおります。 女性 60 歳代

女性に対して甘い社会がある

- 女性の社会参入とか、セクハラ禁止など、必要ではあると思うが、少し強調しすぎな時がある。女性専用車両は、どんなに別の車両が込んでも、そこに男性は入れないのでひどいと思う。引越しのバイトをしても、女性は軽いダンボール箱を2人がかりで持っていけといわれるが、男性は、冷蔵庫やテレビも持てといわれる。それで同じ給料だから、たまったもんじゃない。これらも男女差別であると思う。女性の立場を改善するのはいいが、それは男性の立場を低下させることと同意になってはいけない。 男性 20 歳代
- 日本にはまだまだ男尊女卑の考えが残っている。女性は時として、仕事が終わらないうちに、帰宅したり、休んだり、最初から女性としての甘えを持っている場合がある。同じように仕事をするのであれば時間・内容考えず常に、男性と同じ仕事をするという意識を持つべきだ。就職活動にしても、男性、女性の性別の記入をなくせばいいのでは。日本がよくなるには、一日も早く男女平等、人間平等が徹底されることを望む。 男性 40 歳代

必要以上に意識するべきでない

- 実現させるのはいいけれど、それで男女に関する区別がなくなる訳ではない。必要以上に意識することはないと思う。 男性 20 歳代

男女共同参画を望まない人もいる

- 女性にとっての仕事は、結婚後も続けるか家庭に入り専業主婦となるか一つの問題ですが、キャリアウーマンとしての道、家庭と両立の道、専業主婦としての道のそれぞれ、人によって希望は違うが仕事を持って生きようと思う人々以外は会社は男性優位の男性社会であってもいいと思うのではないのでしょうか。家事も育児も立派な仕事なので専業主婦が当たり前の社会でいいと思う。ただ本当に仕事を必要とする人が、働きやすい環境で復帰も転職もワークシェアリングも当たり前の社会であってほしいと思う。 女性 20 歳代

男女差別以外の差別が強い

- 以前の職場で差別を肌身で感じたのは階層（抽象的ですが）・学歴・男女という順でした。 女性 40 歳代

男女に違いはない

- アンケートの答は、全て今の段階ではの話として考えたものです。基本的に男女の違いはないに近いと思います。体力差も個人差があるので。 女性 20 歳代

男女共同参画社会についてのアンケート

市民の皆様へ
ご協力をお願い

豊 中 市 長

日ごろは、市政の各分野にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

豊中市では、昨年 10 月「男女共同参画推進条例」を制定するとともに、本年 3 月にこの条例に基づく「男女共同参画計画」を策定し、男女共同参画推進のための取組みを行っています。今後、男女共同参画社会の実現をめざして、より一層の男女共同参画施策を進めていくため、「男女共同参画社会についてのアンケート」を実施し、市民の皆様のお考えをおうかがいすることにしました。

今回のアンケートの対象は、豊中市にお住まいの 20 歳以上の男女各 1,500 人で、住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。アンケートの結果は、すべて統計的に処理しますので、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは決してありません。ご多忙とは存じますが、趣旨をご理解いただき、是非、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

「男女共同参画社会とは」 ～豊中市男女共同参画推進条例前文より抜粋～
すべての人の人権が尊重され、自らの意思で生き方を選択し、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野における活動に対等に参画することができる男女平等を前提とする社会

ご記入に際してのお願い

調査票は、無記名です。

- ① 封筒のあて名の方がお答えください。
- ② 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。
- ③ 回答の○の数は、質問の最後に書いてあります。
- ④ 「その他」に○をつけた方は、具体的な内容をお書きください。
- ⑤ 質問の進み方は、矢印や指示をご覧ください。
- ⑥ できるだけ、すべての質問にお答えください。
- ⑦ ご記入いただいた調査票は、同封の封筒に入れ、**10月20日（水）**までにポストに入れてください。

この調査に関する問い合わせ先

豊中市人権文化部男女共同参画推進課 担当：下平、金井、村辺

電 話：06-6858-2654 月～金曜（祝日除く） 8:45～17:15

あなたの日常生活や社会全般に関する見方・お考えについておたずねします

問1 あなたは、次の①～⑩の項目についてどのように思いますか。感じたままをお答えください。
(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない と思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割を分担する方がよい	1	2	3	4	5
② 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
③ 妻や子どもを養うのは、男性の責任である	1	2	3	4	5
④ 結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う	1	2	3	4	5
⑤ 職場で、来客にお茶を出すのは女性がした方がよい	1	2	3	4	5
⑥ 男性は少しぐらい強引に女性をリードする方がよい	1	2	3	4	5
⑦ 夫の親を妻が介護・看護するのは当然だと思う	1	2	3	4	5
⑧ 男性の方が女性より、管理職としての資質がある	1	2	3	4	5
⑨ 育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい	1	2	3	4	5
⑩ 子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4	5

問2 あなたは、次の①～⑧の各分野で一般的に男女は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれに1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場（児童・生徒の立場から）	1	2	3	4	5	6
④ 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

仕事についておたずねします

問3 あなたは、これまでに雇用されて働いたことがありますか。(○は1つ)

1. ある

2. ない →問5へおすすみください



【問3で1. あると答えた人がお答えください。】

問4 あなたは、職場で次の①～⑨の項目について男女は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれに1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
① 採用・募集	1	2	3	4	5	6
② 仕事の内容、仕事の分担	1	2	3	4	5	6
③ 昇給や賃金水準	1	2	3	4	5	6
④ 昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
⑤ 能力・成果の評価	1	2	3	4	5	6
⑥ 教育訓練の機会	1	2	3	4	5	6
⑦ 住宅資金の貸付など福利厚生	1	2	3	4	5	6
⑧ 退職・解雇	1	2	3	4	5	6
⑨ お茶くみやコピー等の雑用	1	2	3	4	5	6

【全員がお答えください。】

問5 これから男女が働きやすい社会の環境をつくるためには、次の①～⑩の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれに1つ）

	必要である	どちらかといえば必要である	どちらともいえない	どちらかといえば不要でない	不要でない
① 男女ともに労働時間の短縮をはかる	1	2	3	4	5
② 男性も家事・育児・介護をになう	1	2	3	4	5
③ 募集・採用、配置・昇進などの職場における男女間の格差をなくす	1	2	3	4	5
④ パートタイムや派遣社員などの労働条件を向上させる	1	2	3	4	5
⑤ 再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実させる	1	2	3	4	5
⑥ 労働者の権利に関する情報提供や相談窓口を充実させる	1	2	3	4	5
⑦ 生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる制度を充実させる	1	2	3	4	5
⑧ 保育所、留守家庭児童会（学童保育）などの保育環境を充実する	1	2	3	4	5
⑨ 介護、育児休業制度などの活用をすすめる	1	2	3	4	5
⑩ 介護保険によるホームヘルパーや施設などのサービスを充実する	1	2	3	4	5

家庭生活についておたずねします

問6 家庭生活の分担は、配偶者・パートナー（結婚の届出の有無と関係なく）でどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

（①～⑦の項目について、理想と現実それぞれ各項目に○は1つ）

全員がお答えください			配偶者・パートナーのいる方のみ お答えください					
理想			現実					
夫婦で同じく	主に夫・パートナー（男性）	主に妻・パートナー（女性）	夫婦で同じく	主に夫・パートナー（男性）	主に妻・パートナー（女性）	その他の人	該当しない	
1	2	3	① 生活費を得る	1	2	3	4	
1	2	3	② 家計の管理	1	2	3	4	
1	2	3	③ 食事のしたく	1	2	3	4	
1	2	3	④ 掃除	1	2	3	4	
1	2	3	⑤ 洗濯	1	2	3	4	
1	2	3	⑥ 子どもの世話	1	2	3	4	5
1	2	3	⑦ 高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4	5

問7 あなたは、男女の生き方として、仕事と家庭や地域活動について、一般的にどのような生き方が望ましいと思われますか。女性と男性の両方にお答えください。（○はそれぞれに1つ）

	全員が①女性の生き方と②男性の 生き方の両方にお答えください	
	①女性の生き方 として	②男性の生き方 として
1. 仕事を優先させる	1	1
2. どちらかといえば、仕事を優先させる	2	2
3. 仕事と家庭や地域活動を両立させる	3	3
4. どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させる	4	4
5. 家庭や地域活動を優先させる	5	5

問8 あなたご自身は、仕事と家庭や地域活動について、実際にはどのようにされていますか（されてきましたか）。（○は1つ）

1. 仕事を優先させている
2. どちらかといえば、仕事を優先させている
3. 仕事と家庭や地域活動を両立させている
4. どちらかといえば、家庭や地域活動を優先させている
5. 家庭や地域活動を優先させている
6. どれにもあてはまらない

子どもの教育についておたずねします

問9 あなたは、子どもにはどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない場合も、いと仮定して親としての考え・希望を女の子、男の子それぞれにお答えください。（○はそれぞれに1つ）

	中 学 校	高 等 学 校	専 門 ・ 専 修 学 校	門 短 期 大 学 ・ 高 等 専 修 学 校	大 学	大 学 院
① 女の子の場合	1	2	3	4	5	6
② 男の子の場合	1	2	3	4	5	6

問10 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中学校で行うとよいと思うものはどれですか。（○はいくつでも）

1. 男女で協力して家事ができるようにする
2. 人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる
3. 性暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などについて認識を深める教育をすすめる
4. 男女にかかわらずなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする
5. こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を適切に行う
6. 男女にかかわらずなく、働くことの意義を教える
7. 男女にかかわらずなく、校長・教頭に登用するよう努める
8. 保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ
9. その他（具体的に _____ ）
10. 現状のままでよい

問 13 あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか。また、これまで次のようなことをされたことがありますか。①～⑯それぞれについてお答えください。(○はそれぞれに1つ)

全員がお答えください				問 12 で配偶者・パートナー・恋人がいる(いた)と答えた人のみお答えください		
どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない		何度もあった(ある)	1、2度あった(ある)	まったくない
1	2	3	① 何を言っても長期間無視される	1	2	3
1	2	3	② 大声でどなられる	1	2	3
1	2	3	③ あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	1	2	3
1	2	3	④ あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される	1	2	3
1	2	3	⑤ 実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	1	2	3
1	2	3	⑥ あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	1	2	3
1	2	3	⑦ 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	1	2	3
1	2	3	⑧ げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	1	2	3
1	2	3	⑨ ものを投げつけられる	1	2	3
1	2	3	⑩ 押ししたり、つかんだり、つねったり、こぶいたりされる	1	2	3
1	2	3	⑪ 身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	1	2	3
1	2	3	⑫ 骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	1	2	3
1	2	3	⑬ 命の危険を感じるほどの暴行をされる	1	2	3
1	2	3	⑭ あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
1	2	3	⑮ 避妊に協力してくれない	1	2	3
1	2	3	⑯ あなたの意に反して性的な行為を強要される	1	2	3

1、2に1つでも○をつけた人は問 14 へ

すべて3に○をつけた人は問 15 へ

【問13で、「何度もあった(ある)、1、2度あった(ある)」と答えた人のみお答えください。】

問14 「配偶者・パートナー・恋人」からの行為について、だれかに相談しましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 親族 | 8. 医師、カウンセラーなど |
| 2. 友人・知人 | 9. 保健所・保健センターの保健師 |
| 3. 同じような経験をした人 | 10. 民生・児童委員 |
| 4. 弁護士 | 11. その他(具体的に) |
| 5. 警察 | 12. 相談したかったが、しなかった |
| 6. 公的機関の相談窓口、電話相談など | 13. 相談しようと思わなかった |
| 7. 民間機関の相談窓口 | |

【全員がお答えください。】

問15 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(〇はいくつでも)

1. 女性を性的な対象として必要以上に強調している
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観を乱している
3. 女性に対する犯罪を助長するおそれがある
4. 子どもが性に対してゆがんだ意識をもちやすい
5. 女性、男性のイメージについて固定的な表現をしている
6. 男性の暴力を正当化している
7. その他(具体的に)
8. 特に問題はない
9. これまで気にしたことがない

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問16 男女が共に社会における責任を分かち合う男女共同参画社会をつくるために、あなたご自身は何ができると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う
2. 経済的に自立する
3. 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
4. 家庭における子どものしつけや教育で男女の分け隔てをしない
5. 夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす
6. 相手の立場に立って物事を理解するよう努める
7. 自分の意思を相手に伝える技術を身につける
8. 男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する
9. 男女共同参画を周囲に働きかける
10. 仕事に費やす時間を短くする
11. その他(具体的に)
12. 特にない
13. 男女共同参画社会になっているので、現状のままでよい

最後にあなたご自身についておたずねします

問 17 あなたの性別について、あてはまる番号に○をしてください。(○は1つ)

1. 女性 2. 男性 3. その他

問 18 あなたの年齢について、あてはまる番号に○をしてください。(○は1つ)

1. 20 歳代 4. 50 歳代
2. 30 歳代 5. 60 歳代
3. 40 歳代 6. 70 歳代以上

問 19 あなたは次のうち、どれにあたりますか。(○は1つ)

1. 自営業主 (独立して、自分で事業をしている人。経営者)
2. 家族従業者 (自営業主の家族で、その自営業に従事している人)
3. 雇用者 (会社、官公庁、個人商店などに雇われている人) →「3. 雇用者」と答えた人へ
4. 家事専業 (主婦・主夫)
5. 無職 (年金生活を含む)
6. 学生
7. その他 (具体的に)

次のどれにあたりますか。

1. 常勤 (フルタイム)
2. パートタイム (週 30 時間以上)
3. パートタイム (週 30 時間未満)
4. その他 (具体的に)

問 20 現在、あなたには配偶者・パートナー (結婚の届出の有無には関係なく) はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1. 配偶者・パートナーがいる 2. 配偶者・パートナーはいない →問 22 へ

→問 20 で「1. 配偶者・パートナーがいる」と答えた方におたずねします。

問 21 あなたの配偶者・パートナーは次のうち、どれにあたりますか。(○は1つ)

1. 自営業主 (独立して、自分で事業をしている人。経営者)
2. 家族従業者 (自営業主の家族で、その自営業に従事している人)
3. 雇用者 (会社、官公庁、個人商店などに雇われている人) →「3. 雇用者」と答えた人へ
4. 家事専業 (主婦・主夫)
5. 無職 (年金生活を含む)
6. 学生
7. その他 (具体的に)

次のどれにあたりますか。

1. 常勤 (フルタイム)
2. パートタイム (週 30 時間以上)
3. パートタイム (週 30 時間未満)
4. その他 (具体的に)

問 22 あなたがいっしょに住んでいる人は、どなたですか。(〇はいくつでも)

- 1. 配偶者・パートナー
- 2. 子ども
- 3. 孫
- 4. 父
- 5. 母
- 6. 祖父母
- 7. 兄弟・姉妹
- 8. その他(具体的に)
- 9. 同居家族はいない



「2. 子ども」と答えた人へ

- 一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。
- 1. 小学校入学前の乳幼児
 - 2. 小学生
 - 3. 中学生
 - 4. 高校生以上の学生
 - 5. 社会人

問 23 男女共同参画社会になっていないと感じるのはどのようなときですか。

問 24 男女共同参画社会実現のために、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。